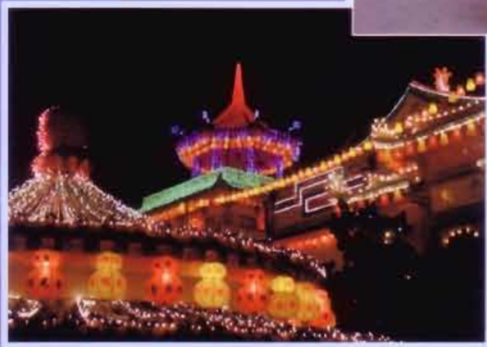


南国暮らしの会

2008年 秋季号



平成20年10月25日



NPO法人 南国暮らしの会

南国暮らしの会

会報2008年秋季号

目次

(敬称略)

ページ

ペナン支部特集

ペナン支部活動と支部員の住環境について	No. 524	川崎 勇	1
ペナン島でアパートを借りるときの注意点	No. 18	木村 義光	3
月20万円では済まない(?)ペナン生活	No. 740	渡辺 亜雄・洋子	6
南国暮らしの経済モデル(海外生活者版)	No. 749	山本 義典	8
世界遺産・史跡登録	No. 876	深井 弘雄	11
我が第二の故郷 ペナン	No. 495	石原 彰太郎	14
ペナンでの快適生活	No. 1140	相澤 栄二	16
マレ-シアですから!	No. 1020	松下 茂・洋子	18
ペナンでのゴルフ	No. 876	深井 弘雄	21
亭主はコーラス三昧、女房殿は??味	No. 618	大木 研一	25
せっかち夫婦ののんきな話	No. 1148	木崎 久雄	27

一般投稿

チロルを暮らすように旅する	No. 922	樫尾 隆之	29
マレーシア1か月夫婦旅	No. 1238	名塚 政幸・喜美	37
チェンマイで犬にかまれて!!	No. 1168	迫野 正彦	46
終戦記念日、チェンマイで慰霊祭に参列	No. 851	稲田 聡	48
ボルネオ・サバ州でゴルフ三昧?	No. 1225	高橋 真治・順子	51
フィリピン スピックでの日本語教師体験	No. 681	池田 正明	56

シリーズ「南の会のお仕事」

会報発行・・・苦労話	会報委員会	58
------------	-------	----

支部便り	63
------	----

部会伝言板	68
-------	----

編集後記	70
------	----

ペナン支部特集

ペナン支部活動と支部員の住環境について

ペナン支部長 No.524 川崎 勇

ペナン支部活動

ペナン支部には、現在 23 会員（家族を含め 43 名）の方が所属しており、ペナンライフを楽しんでおります。

ペナン支部の大半の人がペナンに長期（年間 7～10 ヶ月）にステイする移住型の生活パターンで、短期ステイ（1～2 ヶ月のステイ）の人がほとんどいないのが特徴です。海外支部の中でもめずらしい支部の一つでしょう。

支部の皆さんは、既に、海外移住やロングステイの夢を実現された方々で構成されていますので、生活パターンもゆったり、のんびり、そして地域社会と融合して生活を送っています。

このためペナン支部も皆さんの生活パターンに合わせ支部独自の活動を設定して行っています。

会の細則（目的）にもありますように「海外居住者が楽しく過ごすために体験滞在や、情報収集、提供を通じて会員相互の交流を図り、会

員の夢の実現と親睦を目的とする」を活動の目的としていこうということです。

支部活動としては年 2 回（1 月新年サロン会、7 月サロン会）のサロン会と支部総会（4 月）に全員が一堂に会します。その他は近隣の有志が集ったり、訪ペナン者とのミニサロン会などが適宜開催されて親睦を深めています。今年からは、支部会員のペナンライフをより快適、且つ楽しく有意義に過ごすための情報交換の場として「Nangoku-Penangメール」を開設いたしました。知っ得情報、ヘルプ情報をはじめ、ショッピング、美味しいレストラン情報、格安航空券、旅行情報など生活情報を主体とした活動を始めました。まだ、情報交換の頻度は少ないですが、情報収集手段として効果あるものにしていきたいと思っています。

写真は 7 月 11 日金門スチームボードレストランにて 33 名参加の 7 月サロン会風景です。

支部員の住環境

ペナン島は亀の形をしていて、右手に当たる部分がジョージタウン（ペナンの繁華街、中華街、インド人街など）（今年 7 月に世界遺産に指定されました）、右肩部分から頭にかけて島の北部海岸線エリアが海外居住者にとって、最も人気の高いエリアで支部員 23 名全員の皆さんがこのエリアに住んでいます。

ペナンは東南アジア諸国では屈指のコンドミニウムが豊富な都市で、首都クアラルンプールに比較しても引けをとらない住環境の優れたところです。ほぼ全員の方がコンドミニウムを年契約で賃借（一部取得者もいる）し、年間ほ



サロン会食事風景

とんどの期間ペナンに滞在する海外移住型です。

23名の方々の住まいのエリアの特徴は、車のある人、ない人によって住まいのエリアがある程度決まってくると思いますが、車がなくても、多少不便を承知で、静かなエリアに住もうとしている人もいます。

4つのエリアに分けてそのエリアの特徴を書いてみます。

1) ガーニー、プラウティクス他・エリア (会員5名がこのエリアに住んでいます)

このエリアは、買い物、飲食(レストラン)、銀行、医療をはじめ、生活に密着した生活重視型のエリアで、車を持たない人が不便を感じないで生活を楽しめるエリアです。大型ショッピングセンターや生鮮食料品市場、日本食材店などが徒歩圏です。勿論、車を持っている人は、より行動範囲が広がります。交通量が多く、場所によっては車の騒音や、工事現場の騒音がやや気になる場所です。

2) タンジュン・トコンエリア (会員3名がこのエリアに住んでいます)

(1)のガーニーから西へ2キロ離れたエリアです。大型ショッピングセンターをはじめ、コンドミニアム(タンジュン・パーク)が2棟建っている。買い物、生鮮食料品市場、銀行、日本食レストラン3軒あり、車がなくても生活に支障はありません。中心の交差点脇に35階建てのコンドミニアムが建設予定で、出来上がると賑やかになりそうです。コンドミニアムが表通りに面しているため、夜間の車の騒音が気になる場所ですが、便利性を尊重すれば我慢できそうです。

3) タンジュン・ブンガエリア (東エリアに会員6名、西エリアに4名が住んでいます)

(2)のエリアから西へ2~3キロの住宅地です。パラダイスサンデイベイホテル、コプトンホテル、クラウンホテルの3棟が中心部に建っていて、その近くに生鮮食料品市場があるだけ。ショッピングセンターがないの

で静かな住宅地です。中国系マレー人の富裕層が多く住んでいる。その人たちの子供たちが「結婚したら住みたい場所No1」と言っている。コンドミニアム群は東エリアにパールビューコンドミニアム、ダイヤモンドビラなど閑静なコンドミニアム群が立ち並ぶ。西エリアは東エリアより2キロ離れている。大型コンドミニアムが10数棟立ち並ぶコンドミニアム街です。3棟が新たに建設を始めました。目の前に海上モスクがあり、コーランの音や、工事の騒音もあるが、メイン道路より入るため、窓を開けっ放しでも車の騒音に悩まされることはありません。私はこのエリアに住んでいます。

4) バツァー・フェリングエリア (東エリアに会員5名が住んでいる)

(3)のエリアから西に更に2キロ離れている。住宅地というより、リゾート地を思わせる静かなコンドミニアム群です。マイアミグリーンコンドミニアムの高層5棟が建っています。ファシリティ(プール、ジム、集会場、バーベキューガーデンなど)はペナンではNo1クラスの施設です。今までの4エリアの中では、中心部より一番遠くなります。その更に4キロ西側にはバツァー・フェリングの中心部に高級ホテル群が立ち並ぶ。ラサヤンホテル、ゴールデンサンズホテルの5星クラスが数多く建っていて、大型リゾートエ



我が家からタンジュンブンガの東側を望む

リアです。会員の中にはこのエリアに住む人はいません。

会員の中では（３）、（４）エリアに住んでいる人は全員車を保有する。車がないととかく、不便を感じるエリアです。

４エリアとも部屋の大きさは３ベッドルームが中心で、部屋の広さも90㎡～120㎡程度の大きさがあり、賃料も月額（家具付）5万円～8万円といったところでしょうか。家具や内装によって変わってきます。今後は、この４エリアに限らず、亀の形の右足あたりのペナン大橋やペナン空港に近く、また、その近くに２年前、日系大型ショッピングセンターがオープンし、益々、人気が出てきそうなエリアがあります。

是非、体験滞在においでください！ その方々へのお願い

- 1) 支部員からの生活の実態、情報の収集ミーティングなど支部活動に関する訪問の時は、必ず「南国メール」で支部長宛に訪問依頼を出してください。希望により、支部として支部員の協力を得ながら、ミーティング等の対応策を準備いたします。（知人、友人を頼る場合はその限りではありません）
- 2) 支部としては支部員の個人宅への見学は行いませんが、支部員の個人的判断によって自宅を見学させるケースはその限りではありません。
- 3) 支部活動は上記（１）項を重点的に行いますので、旅行社や企業の駐在員事務所が行うようなサービス事項（空港送迎、旅行案内、ホテル手配、コンドミニアム手配、ゴルフ手配など）は支部外の活動と思っていますので対応は致しかねます。業者の紹介といたします。

ロングステイをお考えの方々、観光を目的とした方々の訪マレーシア、訪ペナンをお待ちしています。

ペナン島でアパートを借りるときの注意点

ペナン支部 No.18 木村 義光

ペナン島には貸し、売りアパートが「犬も歩けば棒に当たる」ほどたくさんあります。ペナンはアジアの街で最もコンドミニアムの多い町のひとつと私は思います。

ペナン島に住む時、ロングステイヤーにとって選ぶことができる点、有利だと思います。

1. ペナン島でコンドミニアムを借りる時の費用

（これは１年以上の契約の場合です）

*** 以下は一般的な例です。目安にしてください。

- ★ 1ヶ月前家賃
- ★ 1年契約は1ヶ月分の敷金、2年契約は2ヶ月分の敷金
- ★ 水道、電気料の使用保証金 1000RM（3万円位）
- ★ 不動産会社が仲介の場合、家賃の半月分の手数料
- ★ 契約書アグリメント約200RM（約6500円）

短期の家賃も上記に準じますが、1年契約より割高になる事が多いです。

短期〔1～3ヶ月アパート〕は計算するとまず家賃が（一年契約の約150%）、一年以上契約の場合の家賃6万円は9万円と割高になります。それに不動産屋さんの手数料、電気、水道の料金の預け金などがあります。

2. コンドミニアム（アパート）の種類

コンドミニアムは3DKが一般です。2DKは割合少ないです。短期（1年契約以短、1ヶ月～3ヶ月契約）は長期契約にくらべては少ないです。部屋の広さはいろいろありますが、日本人の多くはだいたい（100㎡～150㎡）を借ります。

大きいものでは500世帯もの大規模高層コンドから小規模数十世帯まで、また、2軒並んだ平屋一戸建てなど、いろいろなアパート、貸家があります。

海沿い、ゴルフ場内、街中、ショッピングセンターすぐ近く、などを選ぶことができます。

3. 選ぶ基準（やりたいことを基準にする）

A. 目的によって選ぶ場合 = 英語、マレー語、中国語などの勉強を目的でその学校の近くを優先する。

ゴルフをするのを目的な人はゴルフ場内や近くを選ぶ。

B. ペナン島での生活をたのしむ = 車中心で生活（特に場所はこだわらなくても良い）バスなどを利用して生活する。（ショッピングセンター、バス停の近くを選ぶのが良い）

C. 短期（1～3か月）ステイの場合のアパートの探し方。

*** 短期アパートの数が少ない割に（日本の冬などハイシーズン）は需要が多いので早めに探し、予約したほうが良い。

*** 短期アパートが何故少ないかと言いますと、家主は長期契約を望みます。面倒が少ないからです。従って人気のあるアパート（買い物の便、バス停に近い）などには短期契約は少なく、あっても借り手にとって家賃が高い、とか欠点の多いアパートになってしまうのです。

4. アパートを借りる時の注意点

1) セキュリティがしっかりしている。

（外国人向けのものがしっかりしている）。

2) 家具つき、なしの点は問題です。

家具、テレビ、冷蔵庫、洗濯機 エアコン、天井扇風機、電子レンジなど生活に必要な基本的な物が揃っていが付いたF.F（フルファニッシング）を借りるのが良いと思います。家具がついていないと全て自分で買わなくてはなりません、お金もかかりますし特に退去のとき処分が大変です。

3) バス停（車がある方は別）に近いか？

日々の買い物、主たる目的に近い。

4) 海などの眺めは？

5) 病院に近いか？ 町までの距離は？

6) 家賃は予算内か？

*** だいたい日本人が借りる価格の多くは2ベッド、2バス以上の間取りで、40000円以上から70000円（1ヶ月）程度です。

7) 契約期間。 契約はだいたい1年が多い（2年もあります、短いほうが転居が容易くできる）。

8) プール、ジム、テニスコート、バーベキューエリア、など付帯施設は？

9) 北向き、または北東向きか？

これは大事、日当たりが強すぎると暑くて特に西向きの部屋はエアコンをより使うので費用がかさみます。

10) 駐車場の状況（車の入れだしは容易か？）

11) インターネットは利用出来るか？

12) 火事、地震など災害時の避難階段。





ペナンのアパートには避難口、隔壁がありません。逃げる時の避難階段などをチェックする必要があります。

1 3) 騒音 (アジアは音に割合無神経です)

付近、コンド内は静かか?

1 4) これはしっかり点検しましょう。

部屋内部の点検、水漏れがないか (天井、床など)、水、温水は出るか、シャワー、風呂は使えるか、トイレは正常か、冷蔵庫、クーラーテレビなど電気器具は動くか、古くないか、床、壁、天井など内部また表面に傷がないか、照明器具はつくか、玄関、窓などの鍵、洗濯干し場、収納スペースは?

1 5) 泥棒被害の噂があるか? (日本人が軒を並べて借りているようなところは泥棒が目をつけやすく過去も泥棒事件が多かった)。

その他。 隣はどんな人が住んでいるか、子供は多いか? (その家の玄関のサンダルの数で判断)

家主の性格と経済状況。家主さんが性格が良さそうか? お金持ちか?

お金持ちの家主は借り手に対して優しくお金の細かくありません。部屋内の必需品も要望に安易に整えてくれます (医者、弁護士など)。

ペナンの賃貸契約は貸し主に有利の風潮があり (この点日本とは大きく違います)、家主の都合で突然契約を打ち切り (売却することになったなどと言って) の事例も聞いています。

コンドが大きい道路に面していない、道路の行き止まりにある。道路の行き止まりのコンド



は通る人はその住民、関係者のみですが、道路に面していると不特定多数の人が前を歩きます (セキュリティの問題あり)。

一番大事なことは不動産屋さんを選ぶことです (これは経験者に聞いたり情報を集めるしかありません)。悪い業者は部屋の悪い点を伝えなかったり家賃を上乗せしたり法外な手数料を請求したり、また借り手に不利な契約を勧めます。

*** 以上は私たち夫婦の経験で書きましたが、他の意見もあるかもしれません、あくまでも参考としてください (自己責任でお願いします)。

たくさん注意点を書きましたがすべて満足のものを探すのも難しいことです。楽しい生活を送るために出来るだけ注意して探しましょう。



月20万円では済まない(?) ペナン生活

ペナン支部 No.740 渡辺 亜雄・洋子

私達夫婦は2007年12月からペナン生活を始めました。

一年の内10ヶ月をペナンで、季節の良い春・秋の2ヶ月は日本での生活を計画、またペナン滞在中は年2回海外旅行をするという前提で、日本を出発する前に下記[表-1]のような大まかな予算を立ててみました。帰国は一回につき50万円/二人、海外旅行も同じ50万円/二人、ペナンでの生活費は全て込みで20万円/月と見込みました。

[表-1]

項目	万円	備考
ペナン生活費*-1	200	20x10ヶ月
コンドミニアム賃貸(2ヶ月分)*-2	12	6x2ヶ月
帰国費用(2回/年)	100	50x2回
海外旅行(2回/年)	100	50x2回
合計	412	

*-1 コンド家賃含む *-2 帰国中のコンド家賃

加えて、日本の留守宅の費用も過去の実績を元に予算[表-2]を立てました。

[表-2]

項目	円/月	備考
電気	1,638	基本料金
ガス	778	〃
上水道	400	〃
下水道	730	〃
電話	1,800	〃
携帯電話	4,000	2台
マンション管理費	29,000	
固定資産税	10,000	
生命・医療保険	20,500	
インターネット	4,000	
その他	25,500	
合計	98,346	

これなら何とかやっていけそうだということでペナン生活を決定、開始しました。

しかし、いざ生活を始めてみると予想以上の費用がかかることが分かりました。

[表-3] (別紙参照)は、2007年12月に実際に生活を始めてから4月までの実績(平均)で、当初計画した20万円では済みませんでした。[表-3]の見方として、年一度の支払いのものは全て12分の一としました。

結論として、「優雅な南国暮らしを一ヶ月20万円」や、「年金で暮らせる南国生活」という、テレビや出版物のお話は少し眉唾物ですね。日本に留守宅を置き、ペナンでそこそこの生活をエンジョイしようとするれば、少なく見積もっても月平均合計30~40万円は必要と考えるべきでしょう。これには帰国費用や、当初私が予定していた海外旅行費用などは含みません。

また、言うまでもなく、海外で生活を開始するに当たっては初期経費がかかります。まず、マレーシアの場合はVISA取得に際し約500万円のデポジットが要ること、その手続きに夫婦二人で約30万円、車を日本から輸出すれば運賃が約40万円(運送会社に委託の場合)、コンドミニアムの賃貸契約手続きに家賃の0.5ヶ月(不動産会社に委託の場合)、生活必需品(生活レベルや、賃貸契約の条件で大きく異なりますが、私の場合は約15万円[表-3]でした)などです。また、定住の地を決めるまでには下見やVISA取得・コンド契約などで、日本と現地を何度も往復する費用も必要となります。

申し上げたいのは、こちらへ来られて「こんな筈じゃなかった」という方が少なからずいらっしゃるということと、ペナン(に限らず海外)で生活をお考えの際は、『充分すぎるくらいのゆとり』をもって計画されることをお勧めしたいということです。

最後に、この予算や費用はあくまでも**私個人**のもので、固有のものも入っていることご理解下さい。特に、車の費用は、日本で12年も乗った車を持って来たため、修理出費などでかなりの出費となっています。

このテーマに関してご質問やご意見がありましたら aowatanabe@aol.co までご連絡下さい。

【表-3】 ペナン生活費（月）

項 目	R M	円/月	備 考
家賃 (3ベッドルーム/110m ²)	1,700	56,100	RM1,900/月を一年前間払いでRM1,700に
水道・光熱費	104	3,432	水道・光熱費はとても安い
（電気）	(60)	(1,980)	
（ガス）	(10)	(330)	
（上下水道）	(10)	(330)	
（飲料水）	(24)	(792)	
食費	1,430	47,190	
（外食）	(820)	(27,060)	週5～6日は外食（夜）
（自宅）	(610)	(20,130)	日本食を食べることが多く、高い
果物・お菓子	100	3,300	果物は毎日欠かさない
嗜好品（たばこ・ビール）	180	5,940	たばこ・ビールは高い
日用雑貨	380	12,540	
携帯電話（通話料）	60	1,980	2台
パソコン	80	2,640	光ファイバー契約、RM60/月
自動車 *-2	1,077	35,541	
（ガソリン・高速道路）	(490)	(16,170)	
（洗車・修理）	(330)	(10,890)	
（道路税・保険） *-3	(257)	(8,481)	年間 RM 3,087 (2500CC車)
ゴルフ *-4	500	16,500	毎週一回（二人）
旅行 *-5	580	19,140	国内旅行3回、海外旅行一回
小遣い	800	26,400	二人分
その他	120	3,960	駐車料金など
海外旅行保険 *-6	462	15,246	年間 170,000円（二人分）
合計	7,573	249,909	
生活準備金 *-1	4,669	154,077	ペナン生活開始に当たって要した額

*-1 食器・枕・ベッドカバー・シーツ・生活用品（時計・アイロン・トースター等）・飲料水用タンク・携帯電話・プロバイダー・パソコン関係（机・プリンター・トランス他）・ゴルフ会員権など。

*-2 自動車（日本からの持込み）の費用（約40万円）は含まず。

*-3 排気量(CC)によって大きく異なる。

*-4 ゴルフ会員権（例）：RM650(約21,400円) / 1人/年 カート代 約1,000円/一回でプレイ可。

*-5 日本への一時帰国費用は含まず。

*-5 初年度につき小旅行に留めた。

*-6 MM2H(ビザ)用生命保険含む

南国暮らしの経済モデル (海外生活者版)

ペナン支部 No.749 山本義典

自己紹介

昭和 22 年生まれの 60 歳、団塊の世代です。58 歳で早期退職し、59 歳到達と同時にペナンに移住しました。以来南国暮らしを实践中です。

この記事を書く契機は、本年夏季号会報中の記事「南国暮らしの経済モデル」(関東支部・檜尾隆之氏投稿)との出会いです。その独特な思考に深く感銘を受け、「海外生活者の視点から私なりの経済モデルを構築してみよう」と考えるに至りました。

今後退職されるシニアの方々は、60 歳からおよそ 20 年余りを生きることになります。「限られた年金収入で果たして悔いの無い老後を過ごせるのか?日本国内では惨めな生活しか出来ない。ならばアジアなど物価の安い国に行けば、生活が楽になるのでは?」という発想で、LS(ロングステイ)ないし海外移住を考えてみえる方々が多く存在します。

では、「海外移住の現実はどうなのか?」について以下、私見を述べさせていただきます。

ペナンでの生活費 (我家の場合)

2006 年の海外生活の開始時点から今日まで、私は家計簿を記録しています。我家・夫婦二人の生活費を知るために、家計簿から最近の 8 ヶ月間(2008 年 1 月~8 月)の生活費を合計し、平均を出してみました(図 1)。

8 ヶ月間の総生活費=RM55,527.00(内、レジャー費= RM 19,026.00)、したがって、「総生活費」(月額)を邦貨に換算すると、約 22 万円(四捨五入、以下同様)、これが我家の実態です。一方、「基本生活費」=「レジャー費を除いた生活費」は 14 万円です。

レジャー費(=旅行等への支出)は月毎の変動幅が極めて大きいですが、住居費(=家賃)と並び、最大の支出項目となっています。一方、水道光熱費の負担は僅かな額で済んでいます。水道料

金は 2 ヶ月に一度の徴収(RM5.00)、下水道料金は半年に一度(RM48.00)、プロパンガスはボンベ取替(RM25.00)が数ヶ月に一度、電気料金は毎月徴収(およそ RM40.00 前後)、といった具合。食費は内食費(=食材費)と外食費に分けて管理していますが、月額はそれぞれ、1.7 万円、1.1 万円です。衣服費は、常夏の気候のおかげで 2 千円程。医療費も微々たる金額で済んでいます。これまで、歯科クリニックで一度診療を受けただけで、重大な病に罹ることが無かった私たちは幸運だったと言えます。でも、ペナンで日本語の通じる病院で診てもらうには、途方もなく高額な請求を覚悟しなければなりません。そのため、将来の高額な医療費出費のリスクに備え、私は本年、現地の医療保険に加入しました(保険料月額=1.1 万円)。その他の支出項目としては、通信費、日用雑貨費、交通費、小遣い、などありますが、いずれも 1.0 万円以下の支出です。

総生活費に占める各支出項目の割合も併せ算出してみました。レジャー費=34.3%、住居費=32.4%、レジャー費、住居費以外の支出合計=33.3%、という結果になりました。

(図 1)「我家の生活費」(単位:RM、RM1=¥31)

	合計(1~8月)	平均(1ヶ月)	構成比
住居費	18,000.00	2,250.00	32.4%
水道・光熱費	388.50	48.56	0.7%
通信費	1,699.70	212.46	3.1%
保険料	2,966.00	370.75	5.3%
医療費	180.00	22.50	0.3%
被服費	527.65	65.96	1.0%
交通費	548.80	68.60	1.0%
食費(食材)	4,454.90	556.86	8.0%
食費(外食)	2,879.55	359.94	5.2%
日用雑貨	2,013.70	251.71	3.6%
レジャー費	19,026.00	2,378.25	34.3%
小遣い	2,400.00	300.00	4.3%
諸費	442.20	55.28	0.8%
== 合計 ==	55,527.00	6,940.88	100.0%

家計簿に現れてこない「隠れた」支出

現在、マレーシアリング (RM) の出入のみが家計簿による管理の対象となっています。そのため、日常、私が円貨の支出を意識することは殆どありません。ここで、円貨の支出とは具体的には、①日本帰国時の航空運賃、②帰国中の日本滞在費用 (レンタカー代金など)、③日本の自宅を維持するための費用 (固定資産税など)、④クレジットカード払い (カード発行会社=日本の場合) などを指します。

しかし、家計簿に現れてこない、こうした「隠れた」支出も確実に家計を圧迫する要因となるため、見逃すことは出来ません。試算の結果、 \therefore 「隠れた」支出= ¥60,000 程でした (「日本への帰国=年に1度」の場合)。帰国が年に2度となれば、「隠れた」支出が¥90,000 以上に跳ね上がることを覚悟しなければなりません。

ペナンでの標準的な生活費

ペナン在住の日本人一般の生活費については推測の域を出ませんが、我家の生活水準はほぼ、ペナンの標準レベルに該当している、と考えています。その根拠は、家賃の水準、車の有無、ゴルフ・酒・タバコ等の嗜好等を勘案した結果です。因みに我家は、家賃=普通、車=有、ゴルフ・酒・タバコ等=しない、です。

以上のことから、日本帰国費用など「隠れた」支出 (=¥60,000) を加えた、ペナンでの標準的な生活費 (月額) は¥200,000~¥280,000、という結論になります。

ここで、¥200,000 (「基本生活費」に「隠れた」支出を加算) はレジャー費用を0円と仮定した場合の数字なので現実的ではありません。普通に旅行などを楽しむ充実した生活には月に¥280,000 程度のお金が必要、ということです。

老後に必要な資金総額 (海外生活者版)

人生の最終ステージにおける自己実現=やりたいことを精一杯やり尽くすこと、が悔いの無い、幸福な生き方であることは皆様共通の認識だと思います。

それを踏まえて、上記の「ペナンでの標準的

な生活費 (=月額¥280,000) を死亡時にまで展開することにより、「海外生活者がゆとりある生活をこれからも続けるためには総額でどれだけのお金が必要か」を算出してみましょう。

シミュレーションの前提として、私の場合、現在の年齢=60歳なので、平均余命(*1) =23年、 \therefore 「死亡時までに必要な資金」=¥280,000×12ヶ月×23年間=¥77,280,000、となります。

ただし、この数字には大きな落とし穴があります。つまり、私が死亡した後の連合 (つれあいの生活費が欠落しています。私の妻の年齢が61歳なので、平均余命=28年、したがって、連合が一人で生活する期間は、28年-23年=5年間となります。議論の出発点として、連合一人の生活費=夫婦二人の生活費の70%相当、としますと、 \therefore 「連合の単独生活5年間に必要な資金」=¥280,000×70%×12ヶ月×5年間=¥11,760,000、となります。

したがって、 \therefore 「私が死亡した後の連合の生活費も考慮した必要資金」=¥77,280,000+¥11,760,000=¥89,040,000、これが平均寿命まで二人が生きした場合の「ゆとりある生活を続けるための資金総額 (海外生活者版)」ということですが、平均寿命を超えて長生きした場合は、さらに多くのコストが掛かることとなります。

(*1) 「簡易生命表による平均余命」

(厚生労働省統計情報部のページ)

<http://www5d.biglobe.ne.jp/~Jusl/IssituRieki/yomei.html>

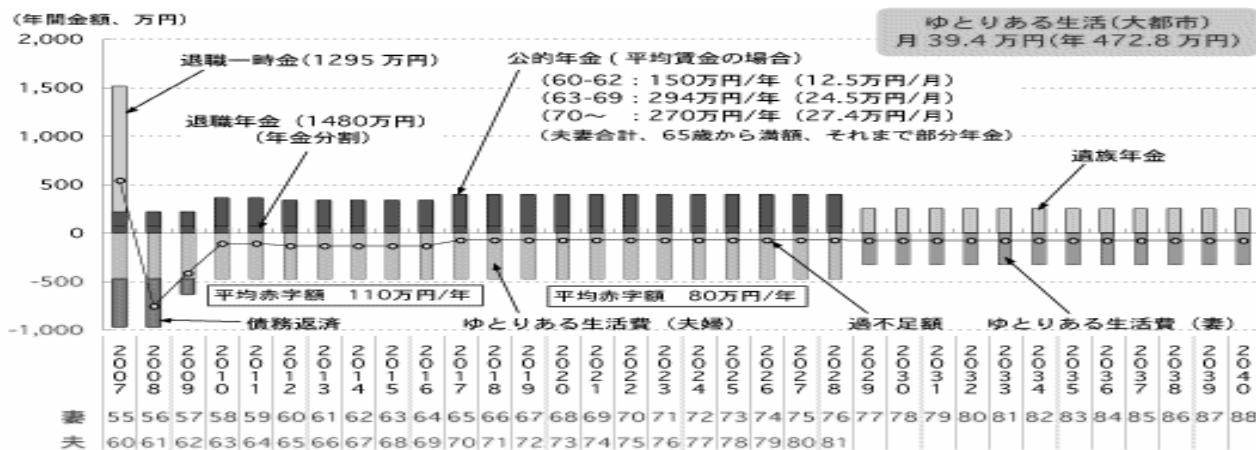


老後に必要な資金総額 (国内版)

参考までに、「ゆとりある生活」を日本国内の大都市で営もうとすると、月 39.4 万円、年間 472.8 万円かかるそうです (図2)。

《この項、NIKKEI NET「団塊世代の資産運用」
<http://nikkei.hi-ho.ne.jp/nomura-asset2/31.html> より引用》

(図2) 「ゆとりある生活」(国内・大都市)



月 39.4 万円をベースに、「海外生活者版」の場合と同一の条件で老後に必要な資金を計算してみました。(夫婦二人分×23年間) =¥108,744,000、(連合い単分×5年間) =¥16,548,000、∴「必要資金」=¥125,292,000、これが「ゆとりある生活を続けるための資金総額(国内版)」になります。

「海外生活」という選択肢

上記「必要資金」(=¥125,292,000)を公的年金その他の収入のみで賄える人は殆どいません。大部分の方は不足額を①金融資産の取り崩し、②親族の援助、あるいは③自助努力(引き続き働くこと)によってカバーしています。親族の援助や再雇用が難しい場合、生活のレベルを引き下げるか、さもなければ海外で生き延びることを真剣に検討しなければなりません(この場合の「必要資金」=¥89,040,000)。そして、{公的年金その他の収入+保有金融資産}が「必要資金」の額に尚届かない場合、金融資産に働いてもらって(資産運用)、自分たちの寿命まで資産にも長生きをしてもらう工夫も必要になってきます。つまり、使いながら増やす、増やしながら使う、ということが必要となってきます。

お金の寿命

新生銀行のホームページに「あなたの『お金の寿命』は何才の時に訪れる?」(*2)というシミュレーター(模擬実験をするためのプログラム)があります。

年齢、金融資産残高、年金受取額、老後生活費、インフレ率などを入力し、「診断する」ボタンを押すと、「あなたのお金の寿命は〇〇才の時に訪れます」といったメッセージと共にわかり易いグラフ(資産カーブ)が描かれる仕組みです。いろいろデータを変えて試してみると、面白く、また資産運用の必要性が理解でき、とてもためになります。

(*2) 「診断ツール」(新生銀行)

http://www.shinseibank.com/unyo_info/tool/lifetime/index.html

(結語) これから移住をされる皆様へ

体験者として、以下の言葉を贈ります:

- 余裕を持った資金計画を立てる。
仮に失敗しても今後の生活に影響しない範囲内の資金で計画を立てましょう。挫折して、日本に戻っても、それから後の生活が待っています。
- 日本の家(生活基盤)を確保しておく。
「嫌になったら何時でも帰ってくれば良い」位の気持ちでいましょう。その為には 何時でも帰れる家を日本に確保しておくことです。
- 安いという理由だけで、移住を考えない。
ペナンなど、アジアのロングステイ候補地では日本と比較して物価が安いのは事実ですが、物価の安さは多くの不便さ=ストレスと引き換えに得られるものだと知るべきです。アジアに限らず海外では、日本で生活する際の便利さ・快適さ・安心感は決して得られません。

世界遺産・史跡登録

ペナン支部 No.876 深井 弘雄

地元新聞に一斉に報じられた。

「マラッカとジョージタウン 世界遺産に」

(日マ プレス 2008/7/16 (火))

「ジョージタウンとマラッカをユネスコが世界遺産リストに登録」(南国新聞 2008/7/17 (木))

「ペナン・マラッカが世界遺産に 国内初の史跡登録 ユネスコ」(週刊ジェイスポ Friday, July 18, 2008)

ユネスコ(国連教育科学文化機関)が東西貿易・文化交流の拠点として500年以上の歴史を誇る両都市の街並みが「人類に普遍的な価値」があるとして評価された。

(はじめに)

ヘリテージ登録地域にほんの徒歩10分の隣接の同じジョージタウン地区に住んでいるものにとって、実にうれしい、そして誇らしいニュースである。

いわば、世界遺産をウォーキング圏内に持つ幸運に恵まれたということであろうか。

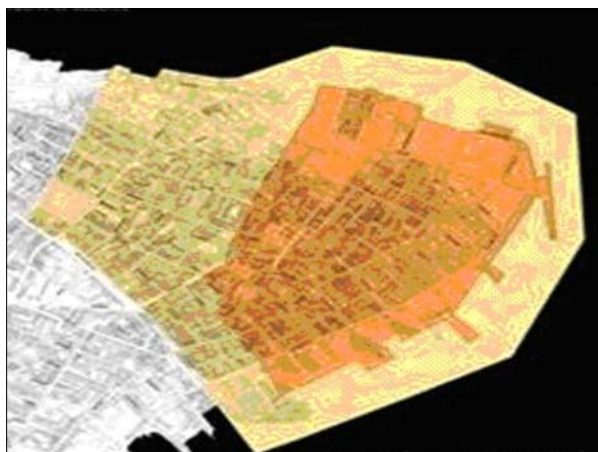
奇しくも、声明のあった翌日の8日に、北京・KL経由で来檳したネチ友(ネットでの友達)をコムタの展望台に案内して、それらしき眼下の写真撮影をした。



ヘリテージ地域の全景(コムタの展望台より)

I. 登録内容

I-1. 地域



ヘリテージ地域図



ヘリテージ全貌(グーグルアース)

- I-1-1. 登録された地域と主なヘリテージ:
the Lebuh Aceh Malay Mosque (アチェ・ストリート・モスク 雅哲回教堂)
Jalan Mesjid Kapitan Kling Mosque (カピタン・クリン・モスク 甲必丹吉?回教堂)
the Goddess of Mercy Temple (観音寺 Kuan Yin Teng)
Sri Mariamman Temple (スリ・マリアマン寺 馬里安曼寺)
Khoo Kongsi (クー・コン・シー 龍山堂邸公司)
St George's Church (セント・ジョージ教会)
Assumption Church (Cathedral of The Assumption?)
St Xavier's Institution,
Convent Light Street,
Little India,
the museum and court building (Penang Museum & Art Gallery)



ヘリテージマップ

the commercial area of Beach Street,
 Fort Cornwallis (コーンウォリス要塞)
 Esplanade,
 City Hall,
 the clan jetties and the port areas (Traditional Clan
 Jetties 姓氏橋)

その他：

Nagore Shrine

Syed Alatas Mansion (Penang Islamic Museum)

Yap Kongs

孫中山基地 Dr. Sun Yat Sen's (Penang Base)

Cheah Kongs

I-2. 地域(概略)案内：

I-2-1. 南東Penankatan Weld (波止場通り)

の出会いG.L.Melayuを北西行し、

I-2-2. Lbh.Patelを渡ってL.Ikanを右折。

I-2-3. Malay Mosque沿いに左折してクラ
 ンクをLbh.Acehに出て左折すると三叉路に出る。

I-2-4. 右前方Lbh.Carnavonを道なりに北
 東行するとLbh.Chuliaに出る。

I-2-5. 左折してすぐ右折し、Lrg.Cintaを
 道なりに北東行するとLbh.Lightに出る。

I-2-6. 突き当たりT字路の先海が見える。

I-2-7. 北東から南西の海に囲まれた細長
 い三角形の地域が今回世界遺産に登録された
 地域。

II. 世界遺産雑感

「建築物だけでなく、マレー系、インド系、
 華人系、ユーラシア系、日系人、英国人などが
 築いてきた多民族的な生活遺産が評価された」
 というところに着目したい。

実際、単に物珍しいというだけでなく、他民
 族の文化・生活に触れることができる・・・それ
 も古い歴史を感じながら・・・。

II-1. なんといってもKhoo Kongs!



Khoo Kongs

ご先祖さまは「お前たち、お金がなければ、
 幸せになれないよ！」子孫はここに来て思い知
 らされ、キンキラ名札を掲げるためにひたすら
 お金を追い求め富を得る。

そして一族が栄える・・・という寸法。

まさにキンキラキン！お金第一の華人の面目
 躍如、香港も真っ青をいたるところに発見するこ
 とになります。



狛犬

II-2. いつでも賑わう観音寺

最古のお寺というお香もうもうが絶えない。参拝人、そしてヒューマンウォッチャーとお昼寝族が屯しています。

小鳥に願をかけて大空に放す供養を見る機会に恵まれれば最高！

III-3. リトルインディアとヒンズー寺院



観音寺



小鳥供養？

・ Sri Mariamman Temple (スリ・マリアマン寺 馬里安曼寺)

極彩色のヒンズー寺院でお坊さんのお話を聞くチャンスに恵まれれば、まさにラッキー！インド音楽とお香の立ち込める街を冷かして歩き、お気に入りに出会えるかどうか、インド菓子を賞味し、デザートを仕入れる・・・上物は羊羹顔負け！

サリーを仕立てる日本女性もいるようです。お昼はタンドーリチキンと生たまねぎをナンでくるんで、お好みのカレーをつけて手掴みでム



スリ・マリアマン寺



リトルインディア



タンドーリチキン・セット

シャムシャ・・・

これぞ文化交流？・・・お店の隅に水道があるからご心配なく・・・。

なお、本稿関連リンクなど知りたい方はわがwebサイトをご利用ください。

シニアネット・リリック

URL : <http://www.senior-rrillic.net/>

我が第二の故郷 ペナン

ペナン支部 No.495 石原 彰太郎

私がペナンに移り住み既に17年が経過しました。私の場合は、仕事で1991年にペナンに來まして、やがてマレーシアの女性と結ばれ、現地の永住権も取れ、現地に親戚も出来、正にペナンが第二の故郷になって來ました。マレーシアの退職者ビザは、マレーシア マイ セカンド ホーム プログラムと言いますが、私の人生自身がその名の通りになって來ていると感じます。

私が長年、現地日系企業のトップとして多くの現地人を雇い、現地人を妻に迎え、現地社会に深く関係して、マレーシアと日本は本当に相性が良いと思います。色々な面で日本とマレーシアは、対照的になっています。まず人種は、日本は単一民族国家で日本語のみが言語ですが、マレーシアはマレー系、中国系、インド系などの多民族国家でマレー語、英語、中国語等の多言語国家です。

国民性は、日本人が勤勉で向上心が強い点が長所で、島国根性で了見が狭くなり易いと言うのが短所とすれば、マレーシア人は、寛容で国際感覚に優れている点が長所で、向上心と継続性に欠けた点が短所です。互いに無いものを持ち、互いに補完関係になれるのが、日本とマレーシアです。前マハティール首相が日本を見習いなさいと言うルックイースト政策を掲げましたが、国家レベルでも日本とマレーシアの相性の良さが現れています。マレーシアでロングステイする日本人が、現地で住み心地の良い最大の理由が、親日的な現地人と感じています。個人レベルでも2国間の相性の良さが出ています。日本人が現地の人から学ぶ点も多いと思います。

ペナンは、日本の皆さんには長年ビーチリゾートとして知られて來ましたが、実はマレーシア第二の都会（人口150万の都市）、アジアの一大半導体製造拠点、東インド会社の要地としても歴史遺産（2008年7月にユネスコの世界遺産に認定）等色々な顔があります。英国の植民地が1787年から1957年まで約170年間（1941-45年の4年間は日本軍が統治）続きましたので、至る所で英国植民地時代の建物や面影を見る事が出来ます。また19世紀からマレーシアに入植して來た中国人やインド人も最初にペナンに住みついた人が多く、今でも夫々の民族の文化と習慣が息づいていて、興味深い異文化を味わう事が出来ます。一口で、ペナンはロングステイの初心者にも馴染み易い町ですが、実はロングステイの熟達者をも飽きさせない町でもあります。

そんなペナンですので、日本人のロングステイだけでなく、実は欧米、シンガポール、香港の退職者も大変多い土地です。特に歴史的な繋がりに深い英国人にして見れば大変馴染みのある都市です。シンガポールや香港とも華僑のネットワークで深く繋がっていて、退職後ペナンで暮らしたいと言うシンガポリアンや香港人も多く、そう言った外国人がペナンで沢山不動産を購入しています。

ペナン耳より情報：

1) MM2Hを所得する日本人が年々増えています。

以下の統計をご覧下さい！

2008年1-6月の取得者数は、1位日本114ケース、2位英国107、3位イラン74、4位中国54、5位韓国54になっています。

国/年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	TOTAL
1 中国	241	521	468	502	242	90	2064
2 バングラ	0	32	204	852	341	149	1578
3 英国	108	139	210	199	209	240	1125
4 日本	49	99	42	87	157	198	632
5 台湾	38	95	140	186	63	31	553

やはり団塊世代の退職が進み、マレーシアでロングステイする人達が確実に増えている事の現われと思います。

2) 申請は早目に！

現在マレーシア政府はMM2Hを海外で積極的（特に日本、英国、韓国で）に奨励しています。但し2002年よりスタートしたこのプログラムも段々と申請条件が厳しくなって来ています。やはり取得者が増えるに従い今後も条件が厳しくなる事が予想されます。現役の方でも将来マレーシアにロングステイしたいと考える人は、早めにMM2Hを申請するのが得策です。現在はMM2Hを取得しても、マレーシアに住まなくては成らないと言う条件はありません。収入の多い現役時代の方が取り易い状況もありますので、関心のある方は検討された方が良いでしょう。

3) 最新のペナンロングステイ事情

マレーシアのロングステイブームは、2000年頃から最初キャメロン高原とペナンでスタートしたと言えます。特に2002年以降は大変ペナンが有名になり、ロングステイや定住する方が増えてきました。2006年頃からクアラルンプール（KL）が日本人会の積極的な誘致活動もあり、脚光を浴び始め、KLでロングステイする方も急速に増え始めました。

またペナンでしばらくロングステイした方で、ゴルフ場環境の良いイポーや、日本との行き来



ペナンの盆踊り大会で家族と

に便利なKLに移動した方もかなりおられます。また海が綺麗で山もあるコタキナバルも確実に人気が高まっています。免税の島ランカウイ島にロングステイを考える人も出て来ており、マレーシアのロングステイの裾野が確実に広がっている事を感じます。

ペナンはビーチリゾートの割に海が綺麗で無いとかなりロコミ等で伝わり、マイナスのイメージも一部広がりましたが、海水の問題も改善の兆しが出始めています。2007年に大型排水プラントが稼働し始め、新規の開発プロジェクトの排水は全てそのプラントで処理される様になりました。相変わらず元気な経済発展を続けるペナンですので、水の問題は時間は掛かっても徐々に改善して行くと思います。

私も仕事の関係でKLに良く出張しますが、KLの生活の便利さは良く理解出来ても、深刻化する交通渋滞と空気汚染の方が気になります。



ペナンに最近オープンしたシテイマリーナ



どんどん魅力的になるペナンの不動産
マリーナに建設中のアパート

前述の如くペナンはロングステイに関しては奥深い世界をもった都市ですので、今後も根強い人気を維持して行くものと思います。ペナンの詳しい現地情報は、日馬プレスペナンのホームページ：www31.atwiki.jp/penang や私の経営するトロピカル社のHP：www.tpcl.jp もご覧下さい。

ペナンでの快適生活

ペナン支部 No.1140 相澤 栄二

1. とにかくのんびり暮らしたい

リタイアして5年、結婚生活36年。妻は暖かい環境で暮す方が身体に良い。移住先探索の意味を含めて、国内・海外をまわった結果、ペナンを拠点に旅を楽しみながら過ごすことで、かつて行った国々、そして未知であるマレーシアの近隣諸国でもロングステイ出来る生活力を養い、そして最終的には石垣とか宮古島等で暮らす、そんなイメージが描けるようになり、先ずはペナンに！ と思い切ってやって来ました。それは少し無謀な位でしたが、約2年を経ました。一応、5年を目安に来ましたが延びそうです。

2. 渡航とビザ (MM2HP) 取得は幸運続き

残存半年のパスポートを10年用に更新し、写真と戸籍謄本だけ持って出発する積もりでいました。ところが、マレーシア国の制度変更とその不徹底から、ペナンの支援者からは出発数日前に来ないようにとの連絡が入る始末。しかし、無駄を覚悟、とは言え沢山の心配事を抱えて2006. 11. 21に強引にやって来ました。上記2点に加え、残高証明と現用預金通帳のコピーを持参。結果的には、提出書類作成開始から4ヶ月、プトラジャヤで9年余のビザを取得。受領を兼ねた初めてのKL7泊8日の旅も楽しく終わり、ハッピー、ハッピー。支援者と公証人、病院、保険会社等の親切には、感謝、感謝の連続でした。

3. ペナンでの快適生活 (衣食住の概要)

(1) 衣は、短パンとTシャツで過ごせる、と言う通り、飾らなくて済むので気楽だし、お金もかからない。とは言うものの、旅行の際のセミフォーマル、寒さ対応等には少し困る事もありました・・・その程度で、実に快適であります！

(2) 食は、来馬早々に水の洗礼を受けましたが、その後は幸運にも問題なし。浄水器を通した湯冷ましを飲用しています。当初、グルメガイドを持って安い屋台を中心に食べ歩き。見た目は美しくないが、味はどれも美味しく、これはだめと思ったものは殆どなく、毎回、楽しみでした。これはここで暮らす一番大事な条件だと思います。最近、綺麗なお店も増えましたが、料理を始めたこともあり、外食は1割程度と逆転です。現地食材で日本の味を充分楽しんでいます。また、来る前から楽しみだったフルーツは、種類が豊富で安く美味しく、日本に比べたら大変な贅沢ですが、毎日、欠かした事はありません。これまで20数種類を体験。市場等での買い物も楽しんでおります。暴飲暴食の機会が殆どないので、減量も達成し体調はベスト。妻も食事の準備から開放され満足しています。ただ、中華料理は二人だけでは楽しめず、どうしても機会が少なくなりがち。今後もチャレンジですが、サロン会、懇親会等、楽しみにしています。

(3) 住は、最初の1泊はホテル、次の3週間が短期コンド。長期コンドは都合8物件を見て決め1年契約としました。前提条件は、静かで海が見え、10階以上、車がないので便利な場所、ジムとプール付き、家賃は2,000RM程度。ビザ申請との時間の関係で若干急がねばならず、妥協の結果でした。しかし、ベッド、タンス、TV、冷蔵庫、洗濯機、掃除機、アイロン、炊飯器、レンジ、オーブン、鍋、食器類が付いていて、他の方々からは、やや羨ましがられ、お世辞でも嬉しく、今は満足しています。決して豪華とは言えないが、間取り、

キッチン等は使い勝手も良く、適度な広さ、2つのプラザの中間点なので買い物と食事に便利。また、当初は騒音と虫と寝苦しさに悩まされたが今は慣れました。電話&Fax、インターネット、浄水器、コーヒーマーカー、土鍋と食器類、簡易ウォシュレット、最低限の日用品は自分で揃えました。入居当初、エアコン修理に可成りの時間を要したが、その後は大きなトラブルもなく順調、快適。住めば都、今は我が家です。

(4) 車は、国内旅行は車、また車での国境越えを夢見ていたので、日本からの愛車持込みを考えていたが、スバルは少なく保守に不安との事なので、現地調達に切り替えました。更に、ビザ取得後の優遇措置期間も過ぎると小型の中古と考えるようになった。何故なら、小さな擦り傷でも気になる性格では、此処では車の運転は出来ないからです。現在は、安全性、必要性から止めました。最も手軽な運動として健康にも良いので専ら歩いています。10～20分歩くと現地の方にびっくりされますが、この人達は殆ど歩かないようです。そんな状況ですが、時々同乗させて戴き、大変感謝！ 感謝！ であります。

(5) 医療・保険・健康について。3ヶ月に1回の割合で帰国出来ればカード付随の旅行保険がベストなのだが、現在は手続が面倒な保険のみで無保険に近く不安ではあります。一方、歯医者、病院の外科と歯科、眼科にお世話になったが、技術面を含めても、今の処、幸いな事に、それ程の不安と負担はない。寧ろ、良い経験であると受け止めている。

(6) 旅行と趣味。この10月に3度目の帰国をします。これを含めて15回の旅をしました。旅はどうしても「ここに住めるか」という視点になり、市場などは必ず覗きます。日程は1週間程度。英語が苦手なので、この頻度だと少し疲れます。でも、旅の仕方も少しずつ慣れ、これからはもっと手軽に出掛ける積も

りです。長距離バスが便利で安いのが大助かりです。こちらに来てから、妻と料理本を先生に料理を始めました。こちらの食材で結構和風食が楽しめます。どうしても、と言う時以外はこちらの食材です。更に、新たな食材の開拓も楽しみに加わりました。他には、演歌を弾きたくて二胡、卓球、無理をしない程度にジムとプールと絵。妻は、テニス、手芸、パティック、そして時々ボーリング。総て初心者なので無理をしないでゆっくりと挑戦することにしています。

4. 生活費等

(1) 生活費。ほぼ考えていた通り。基本的な生活には余りお金は掛かりませんが、趣味と旅には掛かります。支出は概ね、生活費：趣味と旅＝2：3。そして日本の経費。体験時よりレイトが悪いが、住所をマレーシアに移し、税と国保等の支出を節約しています。

(2) 治安。いろいろ話は聞きますが、自分自身ではバスですりに小銭入をやられました。幸いにも他はありません。油断はしておりませんが、治安は良い、と受け止めています。

5. 総合的に

多くの方々に大変お世話になりながら、体調も良く、ほぼ当初の想定通りで満足している。子供達にも幸せを分かちたいと思っていたが、次男夫婦、妻の姉と友人も遊びに来てくれました。憧れていた海は汚いし、騒々しいし、物価はまだまだ安いけど確実に上がっており、段々に住み心地は悪くなりつつあり、今後も更に拍車がかかりそうです。が、新食材挑戦、買い物時の小さな触れ合い、我々にとって新しい店の発見、趣味の発見、親切をして戴いた、勇気を奮って医者にかかった、小さな旅をした、等々の小さな感激を喜びとしながら、これからも楽しむことを心掛けて、ここでのんびりと生活させて戴きます。夫婦仲良く・・・。ペナン在住の皆様、今後もよろしくお願ひします。

マレ - シアですから！

私たちのロングステイ

ペナン支部 No.1020 松下 茂・洋子

永年住み慣れた日本を離れここペナンに来て1年7ヶ月が経ちました。

私達が体験した貴重(?)なお話をさせていただきます。

一昨年(2018)の1月に57歳で早期退職した私と妻は、トランク2つでペナンにやって来ました。

前年に1ヶ月間ホテルで過ごし、何とかなるだろうと見切り発車で、この地での生活が始まりました。

まずは住まい、地元のエ - ジェントに紹介してもらった部屋は2つのみ、市街地で便利けど少しうるさそうな1ヶ月の家賃RM2500のコンドミニアム。もう1つは、今住んでいるちょっと不便だけど見晴らしがよく170平米(約50坪)でRM2700とのこと。二人とも気に入って契約しようとした矢先ライバル出現によりRM200アップでRM2900となる。

その日、私はゴルフで連絡が取れず、妻は1人でヤキモキしていたようですが、ホテルに戻りすぐに返事をして、次の日に2年契約をしました。

ゆったりしたリビング、ダイニング、3ベッドルーム、4バスルームにメイド部屋、そして海が見えるベランダなど理想的な海外暮らしがスタートすることとなりました。

けれども日が経つにつれ、水回り関係のトラブル、ジャングルが近い為蚊、南京虫などの被害、オ - ナ - はしづちん等いろいろな問題点が発覚。

なにしろ マレ - シアですから！

その後、いろんな方にコンドを見せていただく機会がありRM2000前後で清潔で、ナイスビュー - で気前のいいオーナー - さんがいることが判明。

現在、次のコンドを探しているところです。この経験を生かし失敗のないように選びたいと考えています。

お部屋探しのポイントは、 情報収集、 タ



イミグ、 あせらずじっくり決める。これらが最も大切なようです。

さて、住居が決まり次は交通手段であります。当初3ヶ月は、悪名高い? ヒンバス(時刻表が無い・いつ止まるかと心配なオンボロ車両)生活をおくっていましたが、小高い丘の上のコンドなので買物が大変でした。

登り坂をお米・牛乳・フル - ツなどの重い荷物で汗だくの毎日でした。

なにせ我が奥様は大のマンゴ - ・パパイヤ・ドリアン好きでフル - ツが無いと生活できない人種のようなのです。

その後、軽自動車を安く借りられる情報を入手、さっそく契約、「お便利です、これぞ文化生活」と実感、とにかくいろいろな所へ出かけました。

ところが、安いと思っていたレンタル料(1ヶ月RM900)も毎月となると、家計に重くのしかかってきます。

皆様もご存知とは思いますがロングビザ(MM2H)が取得できれば、アセアン地域製造の新車が免税で購入できる、もしくは日本からマイカ - が免税で輸入できるとのことですが、ロングステイの先輩方にお聞きしますと、これがロング&トリプルスト - リ - の連続のようです。

新車の免税申請・契約から早くて3か月、半年以上も納車されない例も多々あるようです。

マイカ - 輸入も日本からKLには？週間ではいるのに、ペナンまでは？月間の道程なのと思われることもあるそうです。

料金に関しても追加分を請求されたなどトラブルも絶えないようです。

私達はこの時点でビザの申請がおりるのが皆目検討もつかない状況でしたし、いろいろな問題を考慮し新車の購入をあきらめ免税の権利はなくなりますが中古車を検討することにしました。

中古車なら1～2週間で乗れますとのことなので、さっそく中古車センターへ、地元の人たちに一番人気の日本車トヨタのインドネシア製造の”アンサ - ”を約RM 40000で購入しました。

ところが、これがとんでもない”代物”1か月ほどで 変な音はするし、時々エンスト、エンジンのかかりは悪いなどトラブル続きでうんざり。

“バッテリー - ”にはじまり“スタ - タ - ”、“イグニッション”、“ダイナモ”、“ファンベルト”、“ディスクブレ - キ”そして“タイヤ”と次々に部品交換で修理工場通い。

こちらでは、中古車の保障は無く、買った本人の自己責任で修理するのだそうです。

なにしろ マレ - シアですから！

エンジンと車体以外は新品だなと二人で笑っています。



現在は、なんとか週2回のメインランドへのゴルフ場（約往復100 Km）と島内の買い物とジム通いに毎日機嫌よくがんばってくれています。

続いては、ロングステイビザ（MM2H）の申請の顛末記です。

ペナンでの生活もやっと落ち着いてきた3ヶ月後、私達もMM2Hの申請をおこないました。申請内容の詳細は皆様ご存じですので省かせていただきます。

一部制度が変わり、日本国内での預貯金の証明書がプラスされました。

定期預金RM150000以外に生活費としてそこそこのお金が必要なようです。

ちょうど日本に帰国する予定がありましたので、さっそく銀行と証券会社に行き残高証明書の英訳書類を作成後ペナンへ、第1回目の申請とあいなりました。

ところが3ヶ月後、書類不備の通知があり。国内の預貯金の証明書が無効だとのこと。

詳しく中身を聞いてみると、要するに証券会社の証明書は売買が頻繁に行われる為に信用性がないようです。

1か月後再度帰国、証券会社より投資信託を解約し、銀行の定期預金に預入、残高証明書の英訳書類を再度、作成して、2回目の申請を行いました。

これでOKだろうと思いきや、また1ヶ月後KLのビザ申請窓口の日本人の女性より電子メールで連絡があり。再々度、書類を提出せよとのこと。

それは「収入証明書」か「年金受給証明書」、けれども早期退職の私達は収入はまったく無く、58歳なのでもちろん年金も受け取っていない。

即、メールで彼女にそのことを送信し返事を待ちました。彼女からは「年金受給見積書」でもOKですとの連絡があり、社会保険事務所は代理人でも書類が受け取れるとのことなので、さっそく日本の家族へ電話し大至急で郵送してもらいました。

これで、3回目の申請です。

あ～あなんとかしてよ、この時私達は「どんな要求にも応じてやる。とことんやってやろうじゃないか」の開き直りの心境になっていました。

その後やっと、12月にKLでビザを受け取ることが出来ました。 やれやれ！

4月に第1回目の申請後、なんと9ヶ月もかかったこととなります。

なにしろ マレ - シアですから！

2007年の春よりビザ申請の制度が大幅に変更になり、その過渡期に私達が申請を行った為、このような顛末になったようです。

現在は、申請後2～3ヶ月でビザが取得できるようです

最後の私達の貴重(?)な体験談は、長距離バスの旅でのことです。

私達は、今までにシンガポ - ル・KL・キャメロンハイランド・マラッカ等の旅に長距離バスを利用しました。

マレ - シアはこのバス路線が地元の人々の重要な交通手段になっています。

なんといっても「安さ」が魅力です。ペナン～KL間、約5時間、RM 26～RM 35、ペナン～シンガポ - ル間、約10時間、RM 50。

まずは、初めてのKLへのバス旅のことです。私は気軽にペナンでの毎日と同じTシャツと半ズボンの軽装で乗り込みました。

バスの中は約16度Cのクーラーガンガン状態、これはまるで“拷問”ダ～風邪ひきそ～。

KLに到着後、私のウイ - クポイントであるお腹にきて下痢ピ - 。

KLでは、いたるところでタンダス(マレ - 語でトイレ)探しにあげくれる。

この症状はペナンに帰り病院で薬をもらってやっと完治しました。

これ以後、長距離バス・映画館・飛行機・コンサ - ト会場などは冬装束を必ず準備することになりました。

このKLからの帰りのバスでのアクシデントをお話します。

ペナンで往復のキップを買っていましたが、KLのバスタ - ミナルのブドラヤ(中華街の近く)まで行きました。

若い手配師風のお兄ちゃんがトランシーバー片手にうろうろ。

キップを見せると新しい切符を切り、ここで待てとのこと。

ペナン行きのバスが到着、50%程のお客を乗せ出発、10分ぐらい走ったと思ったら、先ほどのバスタ - ミナルの風景に似た場所へ、後から考えてみると出発後に乗客がいたらしく、元の場所に戻ってきたのだった。

新しいお客を乗せほとんど満員になり二度目の出発。

ああ、これで帰れると思って安心して一眠り。約4時間後夜も更け真っ暗の中、高速道路上で急にバスが停車。

何やら運転手が現地語で叫んでいる様子。

“ペナン ペナン”の単語のみが聞き取れ何事かと思っていると、一部の人がバスを降り出した。

これは、バスを乗り換えるのだと理解するのに数分間を要した。

後方にいたバスにバッグを乗せ換え、そのバスに乗り込む。

1時間後にペナンに到着。やっと着いたんだと“ぐったり”

私達が乗ったバスは、対岸のバターワース行きだったようで、長距離バスではよくあることみたいです。

なにしろ マレ - シアですから！

続きまして、今年の1月に日本からのショ - トステイの方とご一緒にマラッカ行きを計画した時の経験です。

朝9時出発で6時間後の午後3時到着の直行便。

ジョ - ジタウンのコムタビル(ペナンのランドマ - ク)を9時出発。

時間どうりの出発で何か拍子ぬけ。

バスに乗り込んだお客が、私達4名と地元の方数名で「あれ、大丈夫かな？」と一抹の不安

が心をよぎる。

直行便だから対岸のバターワースで残りのお客を乗せるのだろう、案の定、バターワースのバスタ - ミナルで停車。

10分～20分～30分たってもちっとも動かず、お客が1人、又1人とバラバラと乗り込んでくるのをただただ待ち続け、8割方乗り込んだところで、やっと出発。

このタ - ミナルでちょうど1時間止まっていたのです。

まあ安いだから仕方がないとあきらめ気分。KLが近づき、いやな予感が頭をもたげてきました。

直行便が途中で寄り道？ 予想通りKLの街中へ、そしてあのプドラヤへ到着。

ほとんどのお客が下車。ようするにバターワースで乗ったお客はKLで降りた。

とんだ直行便だ！ 大渋滞のKLを何とか抜けマラッカに着いたのは夕方の6時。な、なんと9時間もかかってしまいました。

帰路は、KLで一泊したため、又あのプドラヤへ。ペナン行きのバス乗り場が、次から次へ変更され重いカバンを持って雨の中を右往左往。

前回同様、ペナンに近づいたサービスエリアで30分の例の待ち合わせ停車、ショ - トステイの方は初めての経験でビックリしてみえましたが、慣れとは恐ろしいもの私達は泰然自若の心境。

なにしろ マレ - シアですから！

このような楽しい(?) 経験をしたくない方は、値段は高いですが“ ナイスバス ”という会社のバスのご利用をお勧めします。

現在、地元の人々とも仲良くなり、友達も沢山できペナンでの生活を120%エンジョイしています。よく考えてみるとこちらで生活を始めた当初は「日本的な考え方、常識」で行動していた為、このような事をハプニングと感じていたようです。すべてはマレ - シアでは“ 普通の出来事 ”なのだと思えるようになりました。

なにしろ、私達はマレ - シアに住まわせていただいている異邦人なのでありますから。

そして、なにしろ ここはマレ - シアですから！

尚 RM1は日本円で32から33円程度です。(9月5日現在)

ペナンでのゴルフ

ペナン支部 No.876 深井 弘雄

70歳からのゴルフを標榜するへぼゴルファーのペナン ゴルフあれこれです。

2005年2月にペナン入りした当時、ウェブなどで入手できるペナンのゴルフ情報は乏しく、「日本より近場で割安ゴルフが楽しめる」ことだけは確か・・・という程度のものだったと記憶している。

現在に至るもペナンおよびペナン周辺のゴルフ事情を網羅した情報は見当たらない。

自悠人になって本格的にゴルフの腕を磨こうと練習場通いをしだしたところで相次ぐ病魔に襲われた。細々と続けていたテニスもろとも散歩代わりと思っていたゴルフからも遠ざかっていた。当地でゴルフ三昧と意気込んでペナンにやってきたパートナー(以後PTNR)に引きずられてゴルフセットだけは持ってきた。

来積まもなく競馬場内ゴルフコース(Penang Turf Club Golf Section)内にドライビングレンジがあるとのことで早速出かけた。日本人顔見知りはずらり並んでいるのには驚いた。

プロショップの練習場管理のオーニーちゃんたちとも親しくなり、主に夕方、日が翳りだすころに練習にでかけた。

そうこうするうちメンバーの方とも親しくなりゲスト扱いでプレーするようになった。アウトは林間の山岳コース。インは競馬場内大平原での土叩き。インはブッシュのみで木陰らしきものなど皆無、まさにフライパン上での棒振り踊り。

気の合った仲間とハーフのみでシャワーを浴びて、テラスで広々とした競馬場越しにガーニードライブ沿いの高層建築群を眺めながらのビールとおしゃべりを楽しんだ。(ディープフライチキンが逸品)

1. わがゴルフライフ

1 - 1. ゴルフグループに参加

毎週木曜日にマイクロバスをチャーターして思い思いのゴルフを楽しむグループ(GAGG)に隔週程度参加しています。

お世話をしてくださるYNさんと以前同じコンド(コンドミニアム・マンション)に住んでいた友人で、当グループの運営方針が来るものは拒まず・去るものは追わず、ゴルフの技量・経験は問わずというのは、ヘボゴルファーを自認するものにとっては、願ったり叶ったり。

会則などというものは一切なし・・・したがって、やや寄り合い所帯で、バスで一緒するだけでもいえるグループ。初心者・入門者にはうってつけ、ご主人が当地で始めたというよう様な奥さんを面倒見るにはこれまたうってつけといえるグループ。

当地でゴルフを始めたというような方が、このグループのおかげで、一人歩きのゴルフができるようになったという例もあり、かく言う私も多少なりとも離陸できるようになったのもこのグループのお蔭と言える。

1 - 2. 上記に加えて、週に2・3回、気の合ったご近所のゴルフ仲間とフルないしはハーフゴルフを楽しんでおります。

早朝スタートして昼前にホールアウトし、クラブ・レストランで軽い昼食というとき(ハーフプレイ)と1時過ぎにホールアウトし、街に出て割安グルメ?と歓談を楽しむケースとがある。



ターフクラブ・ドライビングレンジからの眺め

2. 当地ロングステイヤーのゴルフ

2 - 1. コストパフォーマンスは世界最高水準?

AGN(Asia Golfing Network)の会員になると、その契約先ゴルフ場ではグリーンフィー無料、バギー代のみでゴルフが楽しめる。(ウイークデイのみ)

A G N : <http://www.agngolf.com/MY/deals.asp>

2 - 2. ゴルフ行形態

気のあった友人・知人と誘い合わせて楽しむ夫婦中心で、たまによその夫婦とご一緒する10名前後の緩やかなグループ
会則もあり役員・世話役を決めて会運営のグループ
その他

2 - 3. ゴルフグループ

どの地域に居を構えるかでおのずから楽しみ方が決まってくるように思われる。

ジョージタウンとタンジュントコンおよびタンジュンブングの住人で、いわばゴルフ経験豊かな組みは「遊遊会」という毎週火曜日のコンペグループに参加しているようです。このグループは歴史?もあり、会則も整備されシステムチックに運営されています。

同じくジョージタウンとタンジュントコンおよびタンジュンブング周辺の住人を対象にした毎週木曜日マイクロバスをチャーターして半島側のリーズナブル・ゴルフ場を選んでプレーを楽しむGAGG会(Golden Age Golf Group)があります。

他にEG(Enjoy Golf)はやはり上記地域住人中心で、コンペ中心でなく、気楽なゴルフを目指して集まったグループでオネスト・ジョン方式で毎週木曜日に開催されています。

その他の地域、主にタンジュンブングの北のはずれからバツーフエリンギにかけてのゴルファーは、ゴルフ場から遠い(20分以上はかかる)ということもあって、それなりに相乗りでゴルフを楽しんでいるようですが、ガーニー地区のようなグループがあるということはありません。

3 . 当地のゴルファーの関心事

先に述べたAGNがどのゴルフ場で使えるか
(別紙ご参照)「ペナンゴルフクラブ料金表」
バギー(いわゆる自走カート)がコース内に
乗り入れられるかどうか
炎天下のゴルフは屋根付きのバギーで、コ
ース内に乗り入れられるかどうかで、疲れ方が
大きく違う。
そして交通費をどう削減するか(グループに
入れれば、相乗りなどの世話をしてくれる)

4 . ゴルフ場選び(別紙ご参照)「ペナン ゴルフ場案内(ペナン在住者の利用対象)」

4 - 1 . 島内

近場という意味では島内2ゴルフ場のひとつ
ターフが我が家(ジョージタウンの住宅地域
の南端?)から車で10分!

しかしながら、バギーがなく、会員(現在会
員募集をしていない)以外はキャディをつけ
なければならない。フラットとはいえインの
フライパンの上の歩きは堪える。

大方のロングステイヤーは敬遠する。AGN
は効かない。

ブキットジャンブルは、飛行場方面、おおよ
そ20分、理想的なロケーション。

アジアサーキットにも使われた大木・池の美
しい良く手入れされた名門コース。

砲台で小さなグリーンを敬遠するゴルファー
が多い。

AGNの対象外で割高感は否めない。



ブキットジャンブルGCC・名物ホール・イン
スタートホール・No10打ち下ろし



ブキットジャンブルGCC・No17

4 - 2 . 半島・本土側

上記3の基準でPermaipra GCC や Cinta Sayang
GCR が上記GAGG や EJの舞台となっています。

なお、本稿関連リンクなどとりたい方はわ



Cinta Sayang GCR No . 8

がwebサイトをご利用ください。

シニアネット・リリック

URL : <http://www.senior-rillic.net/>

ペナン ゴルフ場 案内 (ペナン在住者の利用対象)

			Length		Location	料金目安(シニア割引・パスポート(写し)提示)
			in Meters	in Yard		
島内	ジョージタウン	Penang Turf Club Golf Section	5651	6180		
	空港近く	Bukit Jambul GCC	5456	5967		
半島側 ペナン 大橋より北側	北部タイとの国境地帯	Black Forest GCC		6280	1時間半北上すると、そこはケダ州最北端の国境の街ブキカユイタム (Bukit Kayu Hitam)。そのマレーシア側とタイ側のイミグレーションの間にある免税地域	
	アロースター	Durulaman GCC				
	道路沿い	Harvard GCC	5526		スンガイペタニ北 (Sungai Petani North) インターを降りて国道1号線を北に20分ほど行く	プロモーション (オール込み) 58
		Permaipra GCC	5309	5806	スンガイペタニ北 (Sungai Petani North) インターを降りて国道1号線を北に10分ほど行く	Green Fee : 21 + Buggy fee : 26.25
		Cinta Sayang GCR *1		6054	北に40Km走り、スンガイペタニ北 (Sungai Petani North) インターを降りて南に10分ほど戻ったところ	Green Fee : 34.5 + Buggy fee : 37.5 + ゴルフ保険 3
		Penang GR *2	5680		about 21km from Penang Bridge, the Bertam/Kepala Batas Interchange exit #166	プロモーション (オール込み) 80
半島内陸部	Kurim GCR		6241	北に10Km走り、そこからクリムハイウェイに乗り換え内陸部に更に10Km走ったところ		
半島側 ペナン 大橋より南側	(閉鎖中)	Kristal GR		6047		
		Bukit Jawi GR			約20Km南下しジャウイ (Jawi) インターを降り5~6分走ったところ	
	タイピン	Taiping GCC	5988	6549	ペナンから60Km (約30分ほど) ハイウェイを南下、カムンティン (Kamunting) インターで降り10分ほど	
	イポー	Meru Valley GCC	5761	6301		
Clearwater Sanctuary GR *3		6030	6595	Ipoh の次の シンパンプライ (Simpang Pulai) インターで高速を降り、約15kmほど走ったところ		

*1 http://www.cintasayangresort.com/cs_package_promo5.html

*2 <http://www.penanggolfresort.com.my/main.html>

*3 <http://www.cwsgolf.com.my>

亭主はコーラス三昧、女房殿は?? 昧

ペナン支部 No.618 大木 研一

【そもそものきっかけは】

Penang State Symphony Chorusという団体が、2002年に来日して日本の合唱団と交流したというウェブサイトの記事に遭遇した際、長年親しんできたコーラスを通じての国際交流というテーマが、思い浮かびました。

2003年以降、毎年休暇を利用して、ペナンとKLのコーラスで練習参加を重ねて参りましたが、退職直後の2007年1月以降、ペナンでのコーラス三昧の暮らしを始めました。

【スケジュール管理で忙しい!】

現在、夫婦で参加しているペナンの混声合唱団に加えて、302末さん、860棚村さんの所属するKL日本人会の男声合唱団にも参加しております。

偶々、ペナンの練習日が月火木、KLが水曜となっている為、双方の練習に参加することが可能となっております。

ペナン~KL間は、距離にして約370km、バスで5時間弱かかる為、毎週KL通いという訳にもいかず、2,3回/月のペースで出掛けますが、その週は月~木が移動日無しの4連続練習日となりハードな日程になります。

KLに出掛けるには、バス(or飛行機)と宿泊施設の手配が必要となりますが、格安航空券と格安ホテルは早く予約する程割安なので、つい数ヵ月先迄予約することになります。

一時帰国時には、現役時代所属していた関西の二つの合唱団にも顔を出しておりますが、欲張ってそちらのコンサートにも出る予定を組んでおりますので、計4団体の公演日程を睨みつつ、現役時代以上にスケジュール管理に神経を使っております。

【具体的な活動内容としては】

コーラス向けには、古今東西幅広いジャンルに膨大な曲数があり、英仏独伊、ラテン語等のヨーロッパ系に加えて、当地ではマレー語、中国語の曲もレパートリーに加わりますので、歌

い尽くすということはありません。

(曲数の多さに四苦八苦!と云うべきかも…) 又、年に数回ステージで歌うという目標があり、それなりの達成感を味わうことができます。

主要な行事は、SCHOOL HOLIDAYの時期に開催される、6月の合唱祭と11(or12)月のPESTA CONCERTで、多くの学生達も参加します。

これ等のイベントでは、約一週間連続で6時間程度/日のハードな練習をこなした後、本番のコンサートに臨みます。

今年の12月は、15~22日のPESTA Music Campと称する練習期間の後、23日に仕上げのPESTA CONCERTが催されます。

某国を真似たのか、今年は年末にBeethovenの第九を演奏することになっております。

この時期、ペナンに滞在される方がいらっしゃいましたら、是非Dewan Sri PinangのAuditoriumにお越し下さい!

<http://www.pessoc.com/>



'06年12月 PESTA CONCERT



'07年11月 PESTA CONCERT

今後のことは未定ですが、日本以外の国際交流としてはAdelaideに出掛けております。

又、MUSICA MUNDIという組織が隔年開催する、2006年福建省廈門（Xiamen）での国際コンペティションへの参加実績があります。

<http://www.musica-mundi.com/events/archive/china/xiamen2006.html>

因みに、ペナンの姉妹都市は、神奈川県とMedan, Adelaide, Xiamenです。

その他にも小さなイベントがありますが、今年6月に、German Society主催のドイツ大使のFAREWELL CONCERTで歌う機会がありました。

歴史的な建造物で、現在はホテルとして運用されている『Cheong Fatt Tze Mansion』での会食付きミニコンサートでありましたが、前任大使他ドイツ人達には喜んで貰えたようです。

ドイツ人を目前にして、ドイツ語の曲を歌うのは冷汗モノでありましたが、後日お褒めの言葉を頂きました。

このコンサートのアンコールで、『GOOD BYE JAZZ』という曲を演奏したのですが、印象深いエピソードがあります。

CONCERT翌日、私と同じベースパート所属で、長年リーダー役を務めたオーストラリア人が、“Time to say goodbye”と題するeメールを『GOOD BYE JAZZ』の歌詞に絡めて配信したのです。

“...Now in my seventies, I am conscious of increasing limitations in my own voice. It is better that I stop now, before I am asked to leave.

"Auf Wiedersehen! Au revoir! Arrivederci! Hasta luego!

So longBa da ba da ba da .. Goodbye"”

彼より一回り以上若い私は、自分が彼の立場になった時のことなど思ってもみませんでした。が、突然ベースパートの最高齢者になってしまった私は、『次はお前の番だぜ！』と肩を叩かれたような心持になりました。

後は、クリスマスソングをホテルや病院慰問

で歌ったり、コーラスのメンバーを自宅に招いてHome Partyを楽しんだりしております。



【何故、週三回も練習が?】

ペナンの合唱団は、週に三回も練習すると書いたもので、「熱心だなあ」と感心される向きもあるかもしれませんが、構成員がローカルの社会人、学生、ヨーロッパからの退職者達と多様なことに加え、マレーシアの音楽教育事情にその原因があります。マレーシアでは、小学校の6年間でしか音楽を教えません。

従って、一回目は楽譜の読み方を教えたりする、音楽の授業を取り込んだ形態で行われます。

断言できませんが、これは西洋音楽とキリスト教が密接な関係にあることが、イスラム国家であるマレーシアで、音楽教育が軽んじられている原因の一つであるのかもしれませんが。

マレーシアの教育事情については、一寸古いのですが、下記をご参照下さい。

http://www.clair.or.jp/j/forum/c_report/pdf/219.pdf

一方、裕福なチャイニーズの子女達は、学校でのクラブ活動の他、ピアノや声楽を家庭教師に教わったりしております。

そこで二回目は、少人数で難易度の高い曲を、練習します。

三回目が、全構成員を対象とする練習です。其々、メニューと参加メンバーが異なりますが、私は三回共出席するようにしております。

尚、これはあくまでもペナンでの一例であり、マレーシアの他の合唱団の練習形態については、把握しておりません。

【今後の課題他】

4つの団体に個人的に参加して飛び回っているだけで、当初イメージした日馬間の交流という観点からは、何も手が付けられておりません。

ペナンの合唱祭に、日本の合唱団を呼んでいと言われているが、現役の連中にこれを無理強いすることは、現状では困難です。

又、燃油サーチャージが安くならないと、経済的にも厳しいといえます。

リタイヤする連中が増える迄、暫く待たざるを得ないかもしれません。

コーラス経験が浅く、元々カラオケ志向の女房は、亭主の敷いたレールに乗っていることに飽き足らず、隙あらば脱線しようと機を窺っておりますので、新たな展開があるかもしれません。

雑駁ですが、趣味を生かしたセカンドライフについて、ご報告させて頂きました。

尚、KLグリークラブの定期演奏会やアジア諸国持ち回りでの合唱祭等にも触れたかったのですが、紙幅に限りがあり今回はペナン支部特集ということですので、割愛させて頂きました。

せっかち夫婦ののんきな話

ペナン支部 No.1148 木崎 久雄

退職して12日目、2007年11月12日にペナンでL S (Long Stay)を始めた私達。そしてホテルには4日間滞在し5日目の11月16日からは今住んでいるアパートメントに引っ越ししてまいりました。

いろいろなコンドミニアムを見てゆっくり決めようと話し合っていたのに……。何の予備知識もない一軒目の物件。ベランダに出ると、海が目の前、潮騒が聞える近さです。安いし、オーナーは日本人、紹介者の中国人は友達と、あちこちのコンドミニアムと比較する事なし、迷いもせず決めてしました。4日目の夕方見に来て5日目の午後にはトランク2個とゴルフバック2個を持ち引っ越し完了。後に、ここは古い

ので日本人は一人も住んでいないことを知ったのでした。また、AGF(Asia Golf Network)の会員権も3日目の11月15日に一度もゴルフをやらずに買ってしまった。これらのことを考えると思慮に欠けているのかなーそれともせっかちなのかなーと思わざるをえない様な気がします。

ともかく仕事で海外出張や駐在の経験から外国での物事の流れは日本と違いゆったりしていることは理解しているつもり、せっかちに仕事をしてはいけな、させてもいけないことも十分理解しているつもりでした。

そして、長いこと日本でサラリーマン生活を送ってきて、今度はゆったりと時間を使いんびりと生活していきたいと言う願望があったのでペナンでL Sを始めたのです。L S生活も2ヶ月を過ぎた今年の1月末に車の購入を決めました。

L Sする人達に与えられている当国の免税処置に惑わされカーディーラーに車の発注をしたのです。セールスマンの説明では早ければ3ヶ月で納車できるとの返答を我々はそのまま鵜呑みにしていました。“いつ車が来るの”と問われれば“早ければ4月末遅くも5月上旬には来る”と答えていました。

皆様には異口同音に“6ヶ月はかかるよ”と言われましたがセールスマンの言葉を信じていました。私達は4月1日から5月16日まで日本に一時帰国し、その間に車が来るので残金を支払い車が来たらディーラーで保管するよう依頼しました。

もうペナンに帰ったら車は当然あり、不便なバスとタクシー生活から抜け出せると信じて疑わなかったのです。

5月16日ペナンに帰ったら車はない。そのかわりアパートメントの郵便受けには役所から車についての通知が来ていたので急いでディーラーに渡しました。役所からの通知は4月17日付けであり約一ヶ月間通知は寝ていたのです。セールスマンは今まではこの通知がディーラーに来ていたのですぐ手続きが出来たのにと本当にすま

なそうに謝りあと1ヶ月待ってくれとのことでした。

ところが1ヶ月もとつくに過ぎた6月28日に2回目の通知が送られてきました。そこには車両の“型式”“シャシ番号”“エンジン番号”が記載されていました。これをまた役所に提出、役所の書類処理は10日間掛かるので早くて2週間遅くても3週間で配車出来ると言っていました。“1ヶ月待ってくれ”と言うのは配車まで1ヶ月ではなく2回目の通知まで1ヶ月と言うことだったのか？

その3週間が過ぎようとする7月17日ゴルフプレー中にセールスマンから電話で21日に納車するとの連絡、21日今度は22日に伸びるとの連絡、それも幻、今度は25日に私もJPJ (JABATAN PENGANGKUTAN JALAN MALAYSIA 英訳 ROAD TRANSPORT DEPARTMENT)と一緒に行ってくれとの依頼、なぜならば購入する当人が行けばナンバープレートがすぐ貰えるとのこと。

ここまでだまされだまされ待ったのだからこれも付き合うことにしました。このゆったり感、夫婦揃ってどっぷりと浸かって行きたいし、そうしなければこの国での生活は進んでいけません。

7月25日皆様のおっしゃるとおり6ヶ月まちで納車されたのです。中国系のマレー人で弱冠21歳独身のこのセールスマン“Jordan”が好きでゆったりとした流れに怒ることなく、ここまで待つことが出来ました。あえて言うならもう少し中間報告なるものが日本人は必要であることを分かってほしい。

参考

1. マレーシア国産車購入時の税金

マレーシア・マイ・セカンドホーム(MM2H)取得後1年以内に申請しなくてはなりません。私の場合：免税額は14.5%(車両価格RM44,000)に対し免税額はRM6,387.37)ただし車両価格には登録費用、道路税、ナンバープレート代、

車両保険等は含まれておりません。

2. 道路税

このマレーシア国は車検制度はなし、どんなに古い車、どんなにぼろな車でも走れさえすれば使えるのです。

ただし、道路税なるものがあり毎年納税しなくてはなりません。その税額はエンジンの排気量により決められています。

道路税

エンジンの排気量(cc)	道路税(RM)
1,000cc 以下	20.00
1,001 ~1,200	55.00
1,2001~1,400	70.00
1,401~1,600	90.00
1,601~1,800	200.40~280.00
1,801~2,000	280.50~380.00
2,001~2,500	381.00~880.00
2,501~3,000	882.50~2,130.00
3,001~5,000	2,134.00~11,130.00

1RM≒33円

3. 日本車の輸入

MM2Hを取得し6ヶ月以内に自国から、関税なしで1台輸入することが出来ます。

ただし、マレーシアの法律に適合する必要があります。一例として窓ガラスの光透過率など調査が必要です。

4. 車両保険

車両保険に加入するさい、日本で加入していた保険の割引がペナンでも適用されます。

*日本で加入していた保険会社に海外で車両保険に入るため保険証券の英訳を依頼(無料)します。

*たとえ車両保険が期限切れであっても英訳をしてくれます。

チロルを暮らすように旅する

関東支部 No.922 檜尾 隆之

1日 90 ユーロでチロルの旅

6月から7月にかけて2週間のチロルの旅をしてきました。チロルは何度来ても、また来年も来たいと思うようになる、素晴らしい南国適地です。今度はチロルが3度目になるため、また来年も来るために、色々と旅行の工夫を試みました。

ヨーロッパ旅行と言うと、通貨の高いユーロ圏でもあるため、日本国内に比べて目が飛び出るほど費用がかかると、はじめから敬遠される方もあると思われそうですが、工夫をすれば、あまり費用のかからない旅行ができます。来年も2ヶ月程度、チロルをゆっくりと、暮らすように旅したいので、今回はその下見を兼ねて、費用のかからないヨーロッパ旅行の工夫を考えましたので、そのご報告といたします。

1日 80 ユーロ、多くても 100 ユーロ、日本円にして1日、1万 3,500 円から 1万 7,000 円程度で旅行できます。考えようによっては、民宿を使った日本の国内旅行とあまり費用は変わりません。

学生時代の追憶

もう 40 年も前になりますが、「10 dollars a day」という、今のガイドブック「地球の歩き方」に似た、1日 10 ドル (3,600 円) の、若者向けの旅行ガイドがありました。

ウィーンの駅前から始まる第 1 回チロル旅行は、私の 21 才の時、何も旅行の知識もなく、リュックサックを背負って始まりました。あてもなく、ウィーンからザルツブルグ行きの切符を買って、列車に乗りました。

車内で前の座席に座ったおばあさんに、これからザルツブルグまで行くこと、初めて来たので、どこに行ったら良いのかわからないという

ようなことを話しました。すると、ザルツブルグでは、ホーエンザルツブルグという城跡があるからケーブルカーで登りなさいと、親切に教えてくれました。そこで目にしたザルツブルグの美しい景観は、今でも目に焼きついて消えません。



グロッケンブルーム

ザルツブルグからは、「10 dollars a day」の記述にあるように、高速道路のインターに立って、親指を突き出し、ヒッチハイクを始めました。行く先を決めていませんから、地図で西の方にある、インスブルックに行きたい、その方向に連れて行って欲しいと頼みました。

途中、国境を越え、ドイツに入るなど、どこをどう通ったかわかりませんが、ヒッチハイク 4 回の途中で日が暮れました。親切にも、乗り込んだ車のドライバーは私の様子から判断して、途中のホテルまで連れて行ってくれました。

今から考えると、おそらくインスブルックの手前 50 キロ程度の、イエンバッハのあたりまで、到達していたと思います。偶然ではありませんが、チロルのど真ん中でした。

朝、起きると、6月でしたが周囲の緑濃い田園風景、向こうに見える山々の美しさに目を奪われました。地球上にこんなに美しい場所があったのかと思いました。

私はいずれ、余裕ができれば必ずまたここに来ると決めました。

この学生時代の無鉄砲な旅は、さらにスイス、イタリアに足を伸ばし、旧ユーゴスラビア、ギリシャを通り、地中海を船でイスラエルまで達しました。

ヒッチハイク 6 回でスイスのフルカ峠からベニスまで行きました。あとは主として鉄道で移動、ユースホステルや親切な土地の方の家に泊めていただくなどして、約 30 日間にかかった費用は結局、5 ~ 6 万円でした。（往復の航空運賃を除く）

面白いことに、ドイツ語圏では、日独対訳集を片手に、カタコトの現地言語でやっていると、いつの間にか旅行に必要な程度のドイツ語ならば覚えてしまったことでした。この、ドイツ語会話は退職後の今、ヨーロッパ旅行に大いに役立っています。ここに、私のチロル旅行の原点があります。

イエンバッハからアッヘンゼー

今年は学生時代の記憶がある、インスブルック周辺、イエンバッハを訪れました。

イエンバッハからアプト式の蒸気機関車に引かれて列車で 40 分も北に行くと、アッヘンゼーという湖があります。インターネットで予約を入れておいたペンションに 2 泊しました。

たまたま旅程が一致した、南の会の会員の方と、このホテルで合流しました。私はシングルルームに宿泊しましたが、1 人 1 日朝食付きで、40 ユーロでした。部屋は快適で申し分ありません。ただ、宿泊していた 2 日間は、今年のヨーロッパの異常気象のせいで、昼間は 25 度程度

まで気温が上がり、夜は雷をともなった豪雨となりました。通常は夏でも 20 度程度のところなので、冷房の設備はなく、暑いため、夜は窓を開けて外気を取り入れました。

アルプバッハ

翌日はマイヤーホーヘンというリゾート地を訪ね、2 日目は世界で一番美しい村と呼ばれるアルプバッハに行きました。

同行した南の会の会員の方ご夫婦は、ここで 1 週間滞在したいとのことで、現地で宿泊施設を探しました。決めたのは 2 人 1 日 44 ユーロのフェーリエンボーンクでした。日本円に換算すれば、1 人 1 日朝食付き 3,700 円の宿泊料金です。私もここで一緒に 1 週間、宿泊したくなりました。

ヨーロッパでは 7 月 8 月ともなるとドイツや北欧の人が 2 ~ 3 週間のヴァカンスを楽しむために、チロルにも訪れます。この時期や冬季のスキーシーズンは込むので、宿泊の予約をしておく方が良いでしょう。4 月 ~ 6 月や 9 月以降 11 月までは、空いているので、予約していかな



アルプバッハ

くても、宿泊施設は容易に見つかります。

私は、インスブルックにホテルの予約が3泊あるため、ここで別れて列車で西へ向かいました。駅には改札口がありません。ただし、切符を買わずに乗っていると、検札に回ってきて、無賃乗車の場合、高い罰金を支払わせられます。



マリアテレジア室内

インスブルック

インスブルックは、オーストリア西部のチロルの中心都市です。「イン川にかかる橋」という名のこの町は、ハプスブルグ家の女帝マリアテレジアに愛され、町は美しいゴシック様式の建築がたくさん残ります。

私は、イン川を渡ったところにある公園に行き、スーパーで買って来たワイン、果物とパンで簡素な夕食です。ホテルのレストランで食事をすれば、お金もかかるし、お腹にこたえるので、時には調整も必要になります。

ちなみに、チロル地方はすべてオーストリアのものでしたが、第1次世界大戦の結果、南部をイタリアに割譲したため、現在はイタリアの部分南チロルと言っています。

南チロルはイタリア領になっても、その土地の暮らしぶりは、オーストリア時代のものが色濃く残っていて、住宅もオーストリア風で、窓には美しい花々が飾られています。ローマやフィレンツェなどのイタリアを旅行されたことがある方も、南チロルを訪ねると、ここも本当にイタリアなのかと独特の風物に驚きます。

なお、リエッツの周辺は飛び地で、東チロル

と呼ばれます。



インスブルック

ノルトケッテ（インスブルックの北の山）



ノルトケッテ

インスブルックの王宮のそばから、北へケーブルカーが登っています。標高2,300メートル地点には絶好のハイキングコースがありました。トレッキング用の滑りにくい靴が必要です。上にはまだ、残雪がありました。

6月後半にもなると、さまざまな高山植物が咲き乱れ、花が好きな私の心も乱れて、デジカメを構え、たくさん写真を撮ろうとして時間を忘れます。



ケウレンエンチアン



アルペンハーネンフス

ヨーロッパの宿泊事情

チロル地方には大小のホテルの他、ハーフ・ペンション (halbpension) というシステムでやっている宿があります。英語でアパートホテルという言い方のところもあります。ホテル代に朝食と夕食が含まれています。宿代も日本の民宿の感じです。

数日泊まると朝食も夕食も毎日同じ席に座ることになっていて、周りを見ると毎日同じ顔が同じ席についています。1週間滞在していても夕食には毎日、ちがったメニューが出てきます。

同じハーフペンションやアパートホテルで一週間、朝食と夕食を食べることになりますが、飽きてしまわないかという心配は要りません。

2週間、滞在しても、驚いたことに同じメニューが出てくることはありません。旅に出るとどうしても野菜不足になりがちですが、ホテルには、サラダビュッフェがありますので十分に野菜を

摂れます。前菜やスープがサーブされ、メインコースは毎日2種類以上からのチョイスです。

オーストリアやスイス地方、ドイツの田舎には、フェーリエンヴォーヌング (Ferienwohnung) と呼ばれる休暇用の宿泊施設があります。

ヨーロッパの人たちはアルプスでの休暇を一週間単位で楽しむので、こうした家族用の2~3週間の宿泊のために、食事を付けないけれども、極めて経済的な宿泊施設として発達したものです。

フェーリエンヴォーヌングでは基本的に一週間単位の宿泊で、土曜日にチェックインして、次の土曜日の朝にチェックアウトするようになっています。中途半端な時にお客さまが入ると翌土曜日の新しいお客さまを迎えられないというのが理由になっています。夏のバカンスシーズンにドイツから南へ向かうアウトバーン (高速道路) が大渋滞しているという交通情報を時々耳にしますが、それは、土曜日に決まっておきています。

今回、行ってみると、3日以上宿泊ならばOKとか、朝食は付けますとか多少、施設によりバリエーションが出てきているようでした。

一つの場所に1週間以上ゆったりと暮らすように旅するためには、まことに都合の良いものです。

ドロミテ山塊の美しい谷 (南チロル)

今年はこれまで訪れたことのない、南チロルへ足を向けました。ドロミテ山塊のセストの谷に1週間滞在するという、個性的なツアーを見つけて参加しました。

事前の調査では、どうしてもバスの旅が多くなり、計画が立てにくかったのもツアー利用の理由です。ただ、行ってみると、バスも正確に運行されていて、特に問題はありません。

道路は右側通行のため、目的地に向かって道路の右側のバス停で待つこととなります。

もうひとつ、高山植物を見るためには、2,000~2,500メートルの山岳地帯に入りますが、現地山岳ガイドを頼むのも、なかなか情報がない

ため、ツアーを利用する方が楽でした。

今年訪れた、セストの谷のホテルは、目の前にドロミテの山並みを望む、素晴らしい立地条件の場所でした。



セストのペンションからドロミテを望む



ペンション同宿の友人と

ヴァカンスには、主として南からイタリア人、北からドイツ人の家族連れが数週間を過ごすためにやってきて込み合います。

ハーフペンション形式ですから、毎日夕食が出ます。メインは肉料理、魚料理などと、ベジタリアン用の3種類。イタリアにあるため、メインの前には、サラダ、スープとパスタが出ます。食後にデザートも出ますから、慣れないとすぐにお腹いっぱいになってしまいます。

デンマークやアメリカからの客もいました。

アメリカ人の父と娘を見つけて、今日はどこへ行ったのかとか、何が面白かったのかとか情報交換しました。1週間もすると仲良くなり、国際交流ができます。リエンツまでのバイクライドはこの2人からの情報ももらって行きました。

コルティナダンペッツォ

セストの谷に滞在しながら、ドロミテ地方を見てまわりました。

コルティナダンペッツォはスキー場として有名ですが、夏は北イタリアの有数の避暑地として賑わいます。

近くのポルドイ峠まで行き、ロープウェイで2,950メートルのサッスポルドイに登れば、セルラ山群などのドロミテの素晴らしい景観が目の前です。

プラトーピアッツアではクロードロッサの山容を目の前にできます。あたりは、一面のお花畑です。



クロードロッサ

昼食には山小屋、ヒュッテなどの利用が良い考えです。自然が美しい山や湖へ出かけることが多くなりますから、その時に気軽に利用できます。

山小屋でもペンションでも小麦から作られた白ビールを飲んでみましょう。すっきりとした味で美味しい。ヴァイセンビアーまたはヴァイスビアーと言います。

シュナップスは、果実などの蒸留酒で、とてもアルコール度の高い飲み物です。小さなグラスに20 ml程注がれてサービスされます。果実の種類によってフルーツミックス、洋ナシ、さくらんぼ、プルーン、しもふり松などがあります。シュナップスは、町のスーパーでも大小のビンに入れて売っていますから、おみやげにも好適です。

トレチーメ

トレチーメはドロミテを代表する特徴のある3つの岩峰です。

途中にミズリーナ湖があります。湖面に映る風景は素晴らしいものがあります。

バスで、2,300メートル地点のアウロンゾ小屋まで行けます。そこからトレチーメまでは、登りの少ないトレッキング・コースで、約1時間半で行けました。天候の急変がありますから、雨具の用意も必要です。



トレチーメ



バイアリシャーエンチアン

リエッツ周辺（東チロル）

セストの谷から東に約50キロの位置に、東チロルの中心都市、リエッツがあります。

サンカンディドの町まで行き、レンタサイクルを借りると、ダウンヒル42キロのサイクリ

ング専用の道路があって、リエッツまで行って来ました。

気持ちの良い風景の中を走る、山岳地帯のサイクリングは実に爽快でした。

面白いことに、帰りは上りになるため、自転車を列車に積み込んで帰ります。列車はヴァカンスに入ったイタリア人でほぼ満席でした。



リエッツ駅で自転車を積み込む

ヨーロッパのアグリツーリズム

アグリツーリズムは80年代後半から注目され始めた、農家に宿泊するヨーロッパの新しい旅のスタイルです。もとをたざせば、北イタリアで冷害が続いて農家が窮していた時期に、労働運動のグループが農家の主婦たちに呼びかけて空いている部屋と手料理を提供するようにと働きかけたのが始まりでした。

農家の経営はあくまでも農業が主で、アグリツーリズムの収入は農業による収入を超えてはならないとか、運営も家族とその親類に限る。また宿泊客に提供する料理の食材やワインなどは指定地域で生産されたものに限るなどの条件があります。

部屋を、まるまる借りて自分の別荘のように数週間を過ごします。

アグリツーリズムは、今ではイタリアだけでなく、ヨーロッパ各国に広がりました。

ドロミテを旅行している間に、トブラッハの近くに、眺めの良いアグリツーリズムを見つけました。



トブラッハで見つけたアグリツーリズム



アグリツーリズムで

インターネット事情

日本人がヨーロッパでインターネットを使う場合には少し、問題があることがわかりました。

日本からノートPCを持参して、現地でLANに接続する場合には、特に問題はありませぬ。ホテルや空港、インターネットカフェなどに設置してあるPCを、ウェブメールなどで利用する場合には、PCが日本語対応していないものが多数ありました。

欧州仕様のPCでも、日本語対応ソフトを入手して導入すれば良いのですが、私の行ったところは、日本人が来るのは稀であるため、ソフト導入がされていませんでした。

セストの谷のホテルでは、これからは日本人も来るようになるから、PCに日本語対応ソフトを導入するように、主人にコメントしてきました。

一方で、大都市の日本人がよく来るホテルで

は、PCに日本語対応ができていました。

チロル旅行の計画の立て方

日本でヨーロッパの旅行を考えると、たいいてい旅行社が企画したパッケージ・ツアーを考えます。よく考えられてはいますが、たいいてい内容は強行軍の日程が組まれていて、都市や観光地をいくつ巡りますとか、立派なホテルに安く泊まれますとか、お土産やさんに行くのもツアーの一部で、買いたくもない土産の品定めにも付きあわされます。少なくとも、私の希望には合いません。

自分で現地情報を集めるよりも、旅行社のおまかせで行くのも安心感があり、準備の時間がとれない場合には簡便な方法です。

しかし、パリ、ベニス、ブラッセル、フランクフルトといった大都市や有名観光地を回り、よいホテルを選べば、旅行社のグループ割引を考えてもお値段の張る高い旅行になります。

さらに、自分の気に入った場所に、1～2週間滞在するような旅行はできません。

それよりも、ヨーロッパの人が毎年、ヴァカンスで、やっている方法を真似ればよいのです。

ハーフペンション形式のホテルや、フェリーエンボーンクは、こうした1週間単位で暮らすように滞在を楽しむヨーロッパの人向けに発達した宿泊施設です。

チロル地方は、スイスなどに比較して、明らかに費用がかからずに済む、南国適地です。

大都市の宿泊を避け、ヨーロッパの田舎の旅に目を向けてみるのがお勧めです。

今ではインターネットで探しても、経済的かつ素晴らしい宿泊施設が容易に見つかります。

フェリーエンボーンクは原則として自炊ですが、朝食がついている場合もあって、お値段は部屋貸し1泊12,000円～14,000円くらい。4人で泊まれば1人1泊3,000円～3,500円程度の計算になります。自炊なら市場やスーパーで新鮮な食材を仕入れて自分の好みで調理できるので、栄養バランスもとれるし、飽きがきません。

基本的にキッチンとシャワーまたはバスが

いています。必要な家具、食器、台所用品、ベッドと布団などはついています。

インターネットで予約できますが、7月8月の込み合う時期を外せば、現地で部屋を見せてもらいながら、気に入った宿泊施設を見つけることができます。

一方、ハーフペンション形式の民宿では、2食付きの場合、1人1泊45～80ユーロ(8,000円～14,000円)と見れば良いでしょう。

今年、滞在したセストの谷のペンションは、かなり充実した設備と食事で高級ホテル並みでした。プール、サウナ、トレーニング、娯楽室、ハイキングの企画など完備。セストの谷のペンションでもらってきた、パンフレットを見ると、6月に宿泊する場合、眺望の良い部屋に7日以上宿泊の場合、1人1泊2食、74ユーロ(1万2,500円)です。ヴァカンスで込み合う7～8月では、1人1泊2食、86ユーロ(1万4,500円)になっています。

ツアーなどで利用するヨーロッパ大都市のホテルを調べると、1人1泊朝食付きで、180ユーロ(3万円)以上かかります。

ヨーロッパの田舎の旅は半分から3分の1の宿泊料金でよいことになります。

アグリツーリズムも食事が付いているため、宿泊費用は、ハーフペンションと同様ですが、今年、トブラッハの近くに見つけた、眺めの良いアグリツーリズムでは、時期により1人1泊2食、36～43ユーロ(6,100～7,300円)となっていました。(ハーフペンション形式)

6月に宿泊する場合には、3月頃までに予約してくださいということでした。

フィレンツェ周辺のアグリツーリズムを調べると、部屋貸し1週間単位で、740ユーロから3350ユーロで借りられますから、4人で利用した場合、1人1泊2食、27～120ユーロ(4,600円～2万円)になる計算です。

旅行社のツアー利用では、ツアーの募集や催行決定などの日程に注意が必要ですが、2ヶ月前には申し込みが必要と思います。現地では、オプションツアーなどに参加します。

一方、個人旅行では、自分の好きな場所、好



アグリツーリズムの玄関で

きな日数の滞在ができる反面、それなりに周回な調査や準備、6～4ヶ月以上前に宿泊や往復の航空機などの予約をするなどの計画が必要になると思います。

現地に行って、何を見て、何をするのかを事前に、よく考えて行きます。

もっとも、旅程も見るものも現地に行ってから考えるなど、ハブニングの連続であっても、それはそれで面白いものですが、バックパッカーなどの若者のやり方をすれば、シニアともなれば、かなり疲れてしまいます。

やはり、旅行日程の基本線は決めてから出かける方が良いでしょう。

めおとたび マレーシア 1 か月夫婦旅

関東支部 No.1238 名塚 政幸・喜美

私は7月2日に40年弱勤めた会社をリタイアし、その2日後には予ねてあこがれのマレーシアに飛び立ちました。(妻は私の計画にしぶしぶついてきたようでしたが)

20数年前の初海外旅行先がシンガポール。そのツアーの行程にあった「ちょっと覗こうマレーシア」で行ったのがジョホール・バルです。

美しく清潔なシンガポールからバスで国境を越え王宮への道すがら見て感じたことは「埃っぽいなー! 汚いなー!・・・こんな国には二度と来ないだろうなー」でした。

そんな私がリタイア後のL S第一候補地に挙げたのがマレーシアとは・・・?

その理由は、書籍やネットで知った ①花粉症がなく血圧によい暖かい気候 ②治安がよく、親日的な国民性 ③年金+αで好きなことをして暮らせる ④緑が多く、空気がおいしい ⑤日本食材も手に入る ⑥片言英語でもなんとかコミュニケーションがとれる ⑥日本人のステイ仲間が程良くいる ことなどでした。

1. マレーシア 1 か月夫婦旅日程

7月4日 成田⇒⇒クアラルンプール(略KL) (JAL)

泊: CITITEL MIDVALLY HOTEL (朝食付)

7月9日 KL⇒⇒ペナン(Air Asia)

泊: COPTHORNE ORCHID HOTEL (食事なし)

7月15日 ペナン⇒⇒ランカウイ (フェリー)

泊: HOLIDAY VILLA BEACH RESORT & SPA (食事なし)

7月20日 ランカウイ⇒⇒KL (Air Asia)

⇒⇒FH(Taxi)

泊: SHAHZAN INN (朝・晩食付)

8月3日 FH⇒⇒KL Taxi) ⇒⇒成田(JAL)

8月4日朝 帰日

2. ネット予約に四苦八苦

これまで海外旅行といえばパックツアー。英

語のできない私たちにはツアーコンダクターのいる旅行が費用は高いが安心・安全。

もう少しここにいたい・あそこにも寄りたかった・土産屋にはいきたくない等不満はありましたが、すべてお任せ・お仕着せ旅行が楽でした。

しかし、「L Sは納得のうえ、自己責任、自己決定」とL Sの先輩たちに口を酸っぱくして言われていますので、サロン会での皆様からの助言や情報、書籍から得た知識をもとに不慣れなネット検索で飛行機やらホテルの手配を自己責任でやってみました。

まず4月初旬に早手回しに飛行機の手配です。マレーシアに行くならマレーシア航空: MHが便利と教えてもらっていたので、早速予約を入れるも、7月以降ほどの便も「Sold Out」の表示ばかり。

この表示を「売り切れ」と解釈した英語堪能な??私は「さすがにL S人気No.1のマレーシアだけあって3か月前から予約を入れても満席かー」と妙に感心・納得し、仕方なくJAL便に変更。

JALは予約変更不可の航空券がすんなり予約OK。ちょっと高いなーとは感じたが「飛行機の予約ができなければ旅は始まらない」とばかり即予約。

飛行機の手配に慣れていれば、MHが「発売前」ということに気付くのですが、気持ちが前のめりになっている私はそんなことに気付きません。

お陰で高い航空券代になり、「もう!お父さんには困ったものね」と、妻から呆れられるしまつ。またまた減点です。(MHで行けば夫婦で約5万円は節約できたと思われま)

なお、「Sold Out」とは「売り切れ」ではなく、「発売前」のこのことです(間違っていたらどなたか訂正してください)。

次にホテルの手配です。

最初のステイ先はKLです。KLでの宿泊は「CITITEL HOTEL」が日本人会にも近く、何かと便利とサロン会などで聞いていましたのでネットで「CITITEL EXPRESS HOTEL」を予約しました。

しかしこのホテルは地図で確認すると日本人会には遠いのです。おかしいとは思いましたが、英文でのやり取りが面倒くさいのでそのままにしておきました。

6月に入り、改めてネットで検索すると「CITITEL HOTEL」はKLに2軒あります。日本人会に近いホテルは「CITITEL MIDVALLY HOTEL」と判明。急遽、先のホテルはキャンセルし予約を入れ直した次第。

航空機やホテルの手配は、堪能な??英文でのメールのやり取りでしたので電子辞書を片手に訳すのに手間暇がかかったうえ、こちらの勝手な解釈で余分な費用がかかってしまいました。

それもこれもこれからのLSのための初期投資と考えることにしましたが、次に行くときは日本の旅行業者数件に見積もりを出してもらうなどの方法を考えたいと思っています。

3. 格安運賃 : Air Asia

KLを本拠地にした格安運賃のAir Asiaがあるとネットで知り、「格安運賃」に惹かれKL⇒ペナン、ランカウイ⇒KLの2区間を予約しました。

ネットで「エアアジア」と検索すると、真っ赤な「Air Asia ホームページ」が出ます。英文のみでしたので不安でしたが何とかクリアし、予約できました。

予約したBooking Detailsのページを印刷したもの(Voucher)が航空券替わりです。それを現地: KLではLCCT(ロー・コスト・キャリア・ターミナルの略で国際空港のKLIAとは飛行場が違いますのでご注意ください)のAir Asiaカウンターに出すと交換にレシート用のものを渡されます。

搭乗時そのレシートを係員に渡し、徒歩で搭乗の飛行機に向かいます。座席は決まっておら

ず、早い者勝ちです。そのためか、乗客は少しでも早く行ってよい席を確保しようと競争です。

(私たちはAir Asia利用は初めてでしたので、搭乗時間の2時間前にチェックインし一番前と並んでいたおかげもあり余裕で席を確保できました)。

ランカウイからAir Asiaに搭乗するときスコールにあいました。用意されていた傘など役に立たないほどの雨脚で、搭乗待合室からタラップまで200m程歩くだけでも足元はビショビショ。それに加えてタラップを上る際は傘を置いて10数段上がらなければなりません。雨脚は強くなる一方であとから搭乗する人ほどスコールの洗礼を受け、全身ずぶぬれ状態の人が多くいました。

機内では飲み物サービス等は一切なく、飲食物は機内で乗務員が売りに来たものを欲しい人が買うというシンプルなものでした。(飲食物の持ち込みもOKのようでした)

* KLでのLCCTへの行き方はTaxiで行くのが簡単ですが、コストを抑えたい方はKLセントラル駅前から直通バスが2社運行しています。

赤い車体のバスがAir Asia公認のバス(呼び込みの人が言っていました)で9リンギ(RM)、黄色い車体のバスが8RMです。両バスとも30分間隔で運行していますので、どちらのバスでもかまわなければ15分間隔となります。

60分でLCCTに着きました(私たちは公認と言っていた赤い車体のバスにりましたが、発車時間は正確で高速道路を時速120キロでぶっ飛ばし、60分きっかりで到着)。発車時間と到着時間の正確さは、これがあの時間にルーズと定評のあるマレーシアのバス??と不思議な感じがするほどでした。

2社の競争がそうさせているのでしょうか。

* 運賃 KL⇒ペナン 2名分127RM (カード払いで4053円引き落とされましたので1RM=32円でした)、ランカウイ⇒KL 2名分193RM (同6466円) なお、航空運賃は予約日や乗客数等で変わる

ようですので小まめにチェックすればもっと格安で搭乗できるようです。

また、Air AsiaはKLを起点に東南アジア各国に飛んでいますので東南アジアへの小旅行にご利用になったらいかがでしょうか。

日本への就航も予定されているようです（茨城空港が候補に挙がっているようです）。

*機内預けの荷物は15kgです。それを超えると10RM/kg徴収されますので、預ける荷物は基準内とし、手荷物として機内持ち込みするとよいでしょう。手荷物についてはチェックが甘いようで、大きなバックパックを機内に持ち込んでもOKでした。なお、私たちは努力も実らず4.7kgオーバーで50RM徴収されました。

*飛行予定時間の50分前までにはカウンターで搭乗手続きを終了しなければなりませんので注意が必要です（5分ほど遅れてやってきた若い韓国人グループは、粘り強く食い下がっていましたが、結局搭乗できなかったようです）。

4. 出会いとエピソード

KLでは折悪しく支部長の棚村さんが日本にお帰りになっていたためお会いできませんでしたが、着いた翌日にTVや著作で有名な阪本恭彦さん主催の「MM2H説明会」がKL日本人会で開催され参加しました（KL日本人会は噂にたがわぬ大きさにびっくりですし、駐在の方々を中心に組織もしっかりしているようなので何かの時には頼りになるなと感じました）。

参加者は計3名と少人数でしたが内容が濃く、LSの魅力や「MM2H」を丁寧に説明していただき大変参考になりました。

翌日開催された「日曜ロイヤルの会」にも参加させていただきました（なお、この会は阪本さんがメンバーになっている名門「ロイヤル・セランゴール・ゴルフクラブ」にて毎日曜夜開催されており、予約なしの飛び入りOKとのことです）。

KLでLSを楽しまれている20数名の方々とおいしい料理をいただきながらの懇談です。

現在ステイしている方々の生の声を聞かせていただきLSの良さを改めて認識するとともに、参加されている皆さんが澁刺とされ、LSを大いに楽しんでいる様子が手に取るようにわかりました（私も早くLSしたい・・・）。

関東支部サロン会でお見受けし、先の食事会でもご一緒したN氏が私たちの逗留しているホテルにおいでくださり、1か月前から始めたLSの苦労話などをお聞かせくださいました。その折はちょっとホームシックにかかっているご様子で心配でしたが、私たちが1か月のステイを終えてKLに戻り、電話で話した時には元気を回復しているご様子でひと安心でした。

Nさん、これからも大いにKLでのLSをお楽しみください。そしてまた楽しいこと、苦労したことなどをサロン会などでご披露ください。

ペナンでは川崎支部長はじめ役員の方々が私たちの訪問に合わせて半年に1回のサロン会（7月11日）を開催していただき、喜んで参加いたしました（なお、KLでお会いできなかった棚村支部長が、LS体験旅行中の女性3名と共に参加され、また札幌からペナンにLS視察に来ているというKさんご夫妻も参加されました）。

会場はガーニー地区にあるスチームボートがおいしいと評判のレストラン（店名は忘れまし）で、ペナンにステイ中の20数名の会員が参加です。大いに飲み・食べ・しゃべりと盛り上がりました。お陰さまで我々アウェーの参加者もそれぞれが昔からの友のように溶け込ませてもらい、楽しく歓談することができ、貴重な情報もたくさんいただき大満足の一晩となりました。

このサロン会でいい企画だなーと思ったのは、男女別のテーブルです。この試みはペナン支部でも初めてで、男女別々のほうが忌憚のない話ができるのではないかと川崎支部長はじめ役員の方々が考えたとのことでした。

あとで妻から感想を聞くと男女別のほうが話は活発になり、話したいこと・聞きたいことが遠慮なくでき良かったとのことでした。

ただし、話に夢中になり過ぎ、おいしいスチームボートがあまり口に入らなかったのが心残りのようなのですが・・・。

会員の皆様はペナン島の各地のコンドミニアムにお住まいとのことで、普段はそれほど緊密なお付き合いはないそうですが、半年に1回開かれるサロン会を楽しみに待っておられるとのことでした。

今回もほとんどの会員が参加されているとのことでした。日本人だから、南の会会員だからとべったりお付き合いするのではなく、日頃は適度な距離を持ちつつ、危急の際には助け合うというというペナン支部の考え方に共感いたしました。

ペナン支部の皆様、私たちが昔からの仲間のように受け入れてくださりありがとうございました。誌面をお借りして心より御礼申し上げます。



マレーシアでも指折りのリゾート地：バトリ・フェリングにお住まいの川崎支部長、渡辺亜雄・洋子ご夫妻には、眺望のよい広くて大きいコンドミニアムにご招待いただいたばかりではなく、お忙しいにもかかわらず夜市や屋台での食事、ドライブそして格安（30RM/60分）マッサージにお誘いいただき本当にありがとうございました。

石渡清志・典子ご夫妻は、素晴らしいコンドミニアムをタンジュン・ブングに購入されており、センスの良い内装、素敵な家具や調度品を遠慮なく拝見させていただきました。

皆様のお住まいはリゾートホテルのような趣

があり、「いーなー、羨ましーなー、私たちもこんな夢みたいなコンドミニアムに住んでみたいなー！」と感嘆の声をもらしながら、「来冬はペナンにステイするぞ」との念を強くしてお暇いたしました。



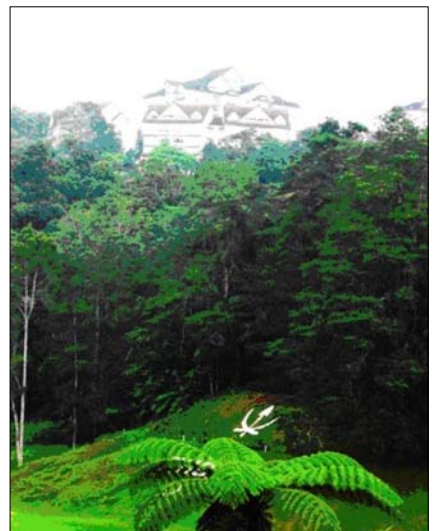
5. 「あー、涼しい！」快適フレイザーズ・ヒル（略FH）での2週間

奈良にお住まいの伊藤達也さん（Iさん：非会員）のブログを読み、連絡を入れたのが縁で「夫婦旅」の後半2週間を当地で過ごしました。

案内書によれば、FHは20世紀初頭に探検家ルイス・ジェームス・フレイザーにより開発され、後に英国人たちが避暑地として別荘を建てた人口2000人ほどの小さな村です。他の高原リゾートと比べると観光客も少ないが、英国邸宅風のホテルや別荘が点在し、情緒あふれる静かな高原として親しまれています。

当地はKLの北に位置し、標高1200mほどの高原で、空港からTaxiで約2時間半、料金は180～200RMくらいです。

以前、関東支部サロン会でKLにお住まいのSさんに



FHについてお聞きしたところ「ゴルフをやる以外なにもないよ。2週間もいたら厭きてしまうよ」とのことでしたし、マレーシアにステイしている人のほとんどが当地をご存じなかったので大いに迷ったのですが、件のIさんから「涼しく、清潔で素晴らしいところだから騙されたと思ってきてみなさい」と熱心に誘われ、行くことにしました。

「行ってよかった！」が正直な感想です。FHは聞いていた通りの涼しさで、きれいな村はバードウォッチングでも有名です。見たこともない色鮮やかな野鳥が木々を飛び交い、蝶や昆虫（カブト虫・クワガタ）そして猿やリス？らとの出会いを楽しみながら妻と二人でウォーキングを楽しみました（トレッキング道も7～8本あり、ジェルロー滝では大トカゲに出会うこともあるようです。体長1.5mほどのトラを見た??とおっしゃる日本人ステイヤーにもお会いしました）。

朝晩は肌寒い（18℃）くらいで、朝は7時ころに明け、野鳥のさえずりで目覚めます。ベランダに出ておいしい高原の空気を胸いっぱい吸い込みながら、目の前のゴルフ場と、その向こうに広がる霧に包まれた別荘やホテルを眺めていると別天地です。

毎朝、電車や車の騒音で目覚め、埃っぽい我が家に帰るのがますます嫌になってきます。村の中心にある小さな店やスポーツコンプレックスは現在改装の真っ最中でしたが、来冬には改装もなるようですので、より一層きれいな佇まいの村となることでしょう。

私たちが泊まったホテルはShahzan Innで、村の中心にあります。宿泊料金は**1室2名・朝晩2食付き**で税・サ込み135RMです（14日以上ステイの場合。7日以上は145RM、1か月以上は125RMとのことでした）。

なお、朝食はビュッフェ形式、ディナーは2人で50RM以内のものをメニューから選んで飲食すれば追加料金はかかりません。お昼はホテルで食べるもよし、近くの屋台やレストランでと



るもよしですが、私たちはインド人が経営する「なんでも屋」でパンや果物、クッキーなどを買い込み（全部で10RMもかかりません）、部屋の湯沸かしポットの湯でインスタントのコーヒー・紅茶、持参のスープ・お粥などで済ませ、ひと休みした後、ウォーキングやゴルフに再び出かけるという過ごし方をしていました。（節約！節約！）

ホテルにチェックインした時にこんなことがありました。当初予約していたバスタブ付きの部屋は、カビ臭さが気になり、シャワーのみの部屋でもよいからと4階の部屋に変えてもらった時のことです。

マレーシアにはチップの習慣がないので不要とは聞いていましたが、無理に部屋をチェンジしてもらったお礼の意味を込めて係の女性に少額のチップを渡そうとしましたが、その方はガンとして受け取りませんでした。

あとで、Iさんにお聞きしたところ、10年ほど前に宿泊した際に、「日本人のステイヤーを増やすにはどうしたらよいのか？」とホテル側に聞かれ、次のようなアドバイスと要望を出したようです。

- * 宿泊代を安くし、村には食事の場所が少ないので朝晩2食付きにしてほしい
 - * NHKの衛星放送を夏と冬の各3ヶ月間視聴できるようにしてほしい
 - * 日本人チップの習慣がないので、チップはよほどのことがない限り受け取らないこと
- このような経緯もあり、その女性はチップを受け取らなかったようです。

それまで日本人のステイヤーはほとんどいなかったようですが、Iさんのアドバイスや要望を素直に受け入れたホテル側の誠意と熱意、Iさんのブログを通しての積極的な働き掛けがあり、今では夏と冬の2～3か月、毎年ステイする夫婦が増えてきているようです。

Iさんは来るたびごとに日本人客の要望を集め、ホテルに交渉してくれます。今回も、ゴルフ場の芝の整備、部屋のシーツ換えやバキュームの回数、近くの町への買い物（生産直売店や大型スーパー）・マレー人のお宅訪問ミニツアー（10RM/1人）を企画してくれました。

ちなみに私たちがステイしている間にお会いした日本人ステイヤーは9組でしたが、各ご夫婦とも程よい距離を置いたステイスタイルで、私たちには好ましく思われました。

6. ゴルフ・・妻は初めて、私は15年ぶり

ホテルの真ん前には公営のゴルフ場があります。9ホールですが、パーは35？ではなかったかと思います。というのは、我々にはスコアカードは無用だったからです。打数を数えきれないのです。なにせ、妻はゴルフクラブを握るのが初めて、私はDoctor Stopがやっと解けた身で15年ぶりです。

そんな我々でもこのコースはOKです。平日昼間のプレーヤーは同じホテルにステイしている日本人数名なのですから・・・（前後を見渡してもだーれもいません）。

妻の空振り（私は「素振り」と言って、めげる妻を励ましていました）は数知れず、ボールの頭は叩くは、地球に傷をつけるはでジグザ



グの運針縫いさながらです。

そういう私も同じようなものです。腕を棚に上げ、「レンタルクラブのグリップがツルツルで滑る、アイアンの溝がない、クラブのメーカーがバラバラだ」とか思うようにならないクラブに文句を言いつつも久しぶりのゴルフをエンジョイしました。

さて、貸し切り状態のプレーヤーは、ホテルで割引券をもらえば夫婦で約50RM/日です。

ゴルフクラブのレンタル料はフルセット30RM/日（これを夫婦で使用）で、カートは10RMのところを気のいいおばさんがサービスしてくれました。ラッキー！！

ボールは1日7個ペースでロスト。芝か雑草か判別が難しく、フェアウェーでさえ普通のゴルフ場のラフ程度に深いうえ、ラフに入ったらボールを見つけるのに一苦勞。夕方のスコールで水はけが悪くなったラフはぐじゅぐじゅでヒルに吸いつかれたと言っていた人もいました。

（後半の1週間はスコールもなく、ラフの手入れもなされ良好なコース状態になりました）

さて、ボール代ですがロストボールが10RM/10個入り。メて60RMでした。

当地で初めてゴルフを始めて、面白さの虜になり病みつきになった奥さまも多いようです。私の妻もそうならなければ念願のLSに近づくのですが・・・（後日談：帰国後レディース用のクラブをネットで探し妻にプレゼントしました。1・4・7のウッドと7・8・9・P・S・パターにヘッドカバーとバッグがついて19800円です。妻からは感謝され、私は価格に感激です。・・・これで虜になればしめたものです）。

*初心者にはうってつけのコースだと思います。

*ドライバーを何発打っても大丈夫。

*天然芝ですからアプローチの練習が思う存分できます。

*涼しいコースで思いっきり練習してみたい方はぜひFHに！ **おススメ**です。

チェックアウトの際、ホテルのマネージャーから「日本人ステイヤーの皆様を、大いに歓迎いた

しますのでたくさんおいでください」とのメッセージをいただきました。涼しいところでゆったりステイできますので私からもお勧めいたします。私はShahzan Innのセールスマンではありませんが、興味のある方は下記まで連絡してください。

*Ms.Nalini (彼女は日本人ステイヤー担当です)
宛 英文で予約してください。英文予約が苦手の方は、インターネットで「翻訳」と検索すれば和文を英文に翻訳してくれます。私はほぼこれを使って予約しました。意外と簡単でした。伊藤 達也さんの紹介とすれば、上記の特別価格で宿泊できます。

*e-メールアドレス shahzan8@tm.net.my

*電話 09-3622300

*FAX 09-3622284

7. 心配しました！妻の発熱・下痢・・・ 診療代は？

FHに入り4日目、妻が「体調が悪い」と言い出しました。下痢で、少々熱っぽいようです。お昼に屋台で食べたものに中ったのかなー、でも食べ物は全て夫婦でシェアして食べたから、私がなんともないので食中毒ではないだろうしといろいろな原因を考えましたが、とりあえず1日絶食で様子を見ることにしました（持参の正露丸を服用し、安静）。

2日目になっても妻の体調は戻らず、相変わらずの下痢、そして熱も高くなったようです。同じホテルにステイしている日本人の方も心配し、「熱には生姜湯が効くそうだから、インド人の店に行き、ジンジャーを買ってきて飲ませなさい」と言ってくれる方、早速買ってくると生姜下し器を貸してくれる方、体温計と風邪薬を持ってきてくださる方と親身になって面倒を見ていただきました。

夜、私が1人で晩飯を食べに行くと、「奥さんの体調が戻らないようでしたら、明日近くの病院に行きましょう」とホテルの人に翌朝の診察手配も依頼してくれます。

翌朝、約束の時間にロビーに行くと、そこに

は診察の手配をお願いしてくれたIさん、体温計や風邪薬を用意してくれたNさんご夫妻（ご主人は診察の際、医師に妻の症状を説明する英訳をしてくれ、診察時に英語が不得意な妻の通訳もしてくれました）、車で送ってくれたマレーシア人の女性の4名が待っていてくれました。

医院は歩いて3分のところにあるのに（そんなに近いとは思いませんでした）、車で搬送？された妻は、多くの人の手を煩わしたことへの申し訳なさや面映ゆさを隠せません。

医院に入ると受付らしきところに男性がいて、「どなたが患者さん？」と聞いてきました。妻を含めて6名で押し掛けたのですから先方もびっくりの様子です。その男性が医師で、診察室に妻とNさんを入れ診察してくれました。医師の診察では、症状は心配するほどのことはないとのことで、下痢止めと粉末状の水分補給剤（粉末ポカリのようなもの）を処方されて終わりました（原因ははっきりわかりませんが、長旅の疲れと緊張、急に涼しいところに来たことで体が順応しなかったこと、初めてのゴルフで体が悲鳴を上げたこと等考えられます）。

Iさんから前もって「診察料は10数RMですよ」とは聞いていましたが、実際の支払は初診料・診察代・薬代を含めて全てで15RMでした。これなら、海外旅行保険をかけなくてもよかったな一と思うくらい激安でした（日本円で500円弱では保険支払いの請求をしようがありません）。

薬の効果と静養で2日後には妻の体調も回復し、大事に至らず胸をなでおろしました。一時は症状から、蚊が媒体するといわれる南国特有のデング熱まで心配しましたが、杞憂に終わり本当に助かりました。

FHで初めてお目にかかった方ばかりなのに、日本人というだけでこのようにたくさんの親切をいただき、ただただ感謝の念でいっぱいです。Iさん、Nさん、Kさん、Mさん各ご夫妻、ご心配をおかけいたしました。本当にありがとうございました。

8. 「美味しいじゃないか！」ドリアン

『ドリアン』と聞いただけで、「あのガス漏れしたようなにおいのきつい変な果物。あんなもの食べる人の気がしれないよ」と思っていました（実物は食べたことはありませんがお土産でもらったドリアン・キャンディーの印象が強烈でしたので・・・）。

実際、ドリアンにおいては強烈で本当に臭い。でも、怖いもの見たさではありませんが、旨いという人がいるからには旨いのかもかもしれないと勇気を奮い起し挑戦してきました。

そこは、KLからTaxiで日帰り観光に行ったマラッカです。道すがら林建耀（通称ベニーさん）という中国系Driverとドリアンの話題になりました。ベニーさんに言わせると「あんなにうまい果物はない」とのことで、しり込みする私たちに「絶対においしいドリアンを食べさせるから」と勧めます。それほど言うならと半信半疑でしたが食べてみることにしました。車はとある露天にとまり、ベニーさんがマレー語？で店主と交渉してくれます。店主が割ったドリアンを親指と人差し指と中指でひとつつまみ。トロっと柔らかく指にまとわりつくような指触り。一緒に鼻もつまみ、息を止めて口に入れた。

「*!#+#」・・・「旨い・美味い・まいうー！」、となりで妻も「えー、うそー！美味しいじゃない！」という顔をしている。ベニーさんも、目を細めて食らいついている。本当なんです、旨いんです・美味いんです・うまいんです、美味いとしか表現しようがありません。

食わず嫌いで、口にしていない人・・・是非お試してください（責任は取りませんよ！）。今



回の旅でドリアンを口にしたのは計5回。どれも美味しくいただきました。ドリアンの虜になりそうです。

9. 総費用 657,012円

1か月にわたるマレーシア夫婦旅の総費用は66万円ほどとなりました。この金額が高いか安いかはその人の価値観にもよりますので何とも言えませんが、夫婦で海外ツアーに参加すれば10日間でこのくらいの金額がかかること、そしてこの満足感からすれば「意外と安かったなー」というのが私たちの感想です。

ただし、飛行機代はJALでなくマレーシア航空のストップオーバーを利用すれば5万円ほど節約できたと思います。

食費については、屋台やフードコートなどで食べていけば安いのですが、ホテルのレストランを利用すると2人で100RMを超えることもあります。これでも日本に比べたら安いのですが、マレーシアに何日かいると、最初は「なんでも安いなー」と感じていたものが100RM超となると大きな散財をしたような気持ちになるのはどうしてでしょうか？

移動手段として長距離はTaxiを利用しましたが、町のTaxiは価格交渉が面倒なこともあり（料金の相場がわかりませんので交渉の仕様がありません）、電車やバスを積極的に利用しました（因みにバスや電車の基本料金は1RMでした）。

時刻表通りに電車は来なく、45分もまたされたことはありましたが、「待てばいつかは来る！」と思っていれば腹も立ちません（そういえば、電車が大幅に遅れたときでも地元の人はいライラしている様子はありません。マレーシア人は大物ぞろい？）。

<費用内訳：2名分>

*飛行機代 214,999円

- ・JAL 成田⇔⇔KL 204,480円
- ・Air Asia KL⇒⇒ペナン 4,053円
ランカウイ⇒⇒KL 6,466円

***宿泊費 201,903円**

- ・CITITEL MIDVALLY HOTEL (朝食付)
5泊 42、272円
- ・COPTHORNE ORCHID HOTEL (なし)
6泊 38、508円
- ・HOLIDAY VILLA BEACH RESORT & SPA
(なし) 5泊 56、113円
- ・SHAHZAN INN (朝・晩食付)
14泊 65、010円

***海外旅行保険 16,320円**

- ・損保ジャパン 「新・海外旅行保険【off!】
自由設計オーダーメイド」 (パソコン教室
で教えていただきました)
- ・保険内容：補償金額 (一人)
傷害死亡後遺障害：1千万円 治療費用：
2千万円 疾病死亡：1千万円 賠償責任：
1億円 携行品：30万円 救援者：2千
万円 手荷物遅延：10万円 航空機遅延：
2万円 入院一時金：10万円

***移動費用 (Taxi、バス、電車、フェリー)**

28,452円

***飲食費 45,865円**

***遊び代 107,068円**

- ・KL (Taxiチャーター) 1日観光
13,600円
- ・マラッカ (Taxiチャーター) 1日観光
15,300円
- ・ペナン島 (Taxiチャーター) 1日観光
8,160円
- ・マングローブツアー (昼食付き)
17,000円
- ・パヤ島シュノーケリングツアー (昼食付き)
13,600円
- ・高級マッサージ (1人分：90分：ハーブ
ボウル) 5,372円
- ・路地裏マッサージ (5人分：60分、チッ
プ込み) 5,780円
- ・ゴルフ (7日間：クラブレンタル料、ボー
ル代込) 19,380円
- ・その他 (行楽施設入場料など)
8,876円

***買い物代 38,274円**

- ・ケイタイ電話・SIMカード機購入費
16,320円
- ・リュックサック購入費
8,806円
- ・カメラメモリー (2ギガバイト)
4,080円
- ・その他 (お土産など) 9,068円

***その他もろもろ 4,131円**

10. どうする？ロングステイ

さて、日本に帰ってみると連日の猛暑・酷暑
です。帰ったその日から「早くマレーシアに帰
りたーい！」と切実に感じている私です。

今回の旅は、私は「LS候補地の視察」が目
的でしたが、妻にとっては「長い海外旅行」と
いったものだったのでしょうか。

「まだまだいろいろな所 (世界各国) に行っ
てみたいし、気の合った仲間とフラを続けたい」
というのが、妻の希望です。

私はというと、「いろいろ出掛けてみたいの
はやまやまだけど、年金生活者の分際では1年
の半分も旅行には行けないだろう」それなら、
夏と冬の各3か月暖かいマレーシアでステイし
て、そこを起点に近場の旅行をしてもいいので
はないかとの考えです (夫婦で仲良く患ってい
る花粉症もないぞー！)。

- ・日本にいたらそうそうできないゴルフも下手
は下手なりに思う存分楽しんでみたい。
- ・スキューバダイビングにも挑戦してみたい。
- ・ジムやプールのあるコンドミニアムできれい
な海を見ながら快適に暮らしたい。
- ・何のために苦でもなかった仕事を辞めてリタ
イアしたかを分かってほしい。

ボヤいてみてもはじまりませんが・・・。

妻の気持ちも理解できるので、LSの結論は
出ていませんが、夫婦でじっくり話し合ってい
こうと思っています。

最後は私のボヤキで締め括らしていただき
ました。拙文に最後までお付き合いいただきあ
りがとうございました。 (2008年8月31日)

チェンマイで犬にかまれて！！

関東支部 No.1168 迫野 正彦

○7月21日より3週間チェンマイに滞在中の出来事です。

- ・とき：8月7日（木）16時40分ごろ。
- ・場所：アマリリンカムホテル近くの個人宅前の路上。
- ・噛んだ犬：その個人宅の犬（3匹のうちの1匹）。
- ・噛まれた箇所：右足 膝小僧から下部20cm
- ・症状：軽い出血 2箇所。歯型も。軽い痛みがしばらく残る。

センタンで買物後ホイケオ通りの1本内側の道を両手に荷物を持ちホテルに帰る途中の事故です。

場所はニマンヘミン通りより Soi 1の突当たりを右折する小道とSoi 3が交差する近くの個人宅前の路上。噛んだ犬はその個人宅の小型犬の1匹。その家のワン公は大型犬1匹と小型犬2匹 計3匹。時々に通るかかると その都度ほえ掛けて 且つ元気良くシッポも振る連中でした。

（古老曰く 吠える犬は噛まない！！→→←←チェンマイ格言 吠える犬も噛む！！ ショックでした）。

その日は小型犬2匹がカミさんに妙にじゃれかかって急接近。とっさにかみさんを道路左側に下げて体を入れ替えた直後にガブリ（半ズボンの日焼けした堅い脛を） とっさにコラ〜！！と。

ワン公それ以上もなくそのまま門内に走りこんでほえ声もなし（??）。門扉が開いていることから 家人がいるはず？ 誰もでてこない。そのままワン公も声を潜めた様子。怒鳴り込んで「...！！」。彼 ジョンさんの「ここはタイですよ。（自己責任の意）」アドバイスを思い出して急いでホテルへ。

会員の先輩諸兄が 常々話題のチェンマイラム病院へ電話。 ソンテウで急行。

■病院に連絡（状況を話し救急の治療をお願いする）。

・事前の処置方法（*1）を訪ねたところ「パスポートとお金を持って直ぐ来院下さい。」

■ホテルの松下さんに依頼（該個人宅へのクレーム対応と予防接種の有無確認）。

・いたわりを期待した彼女の第一声は「ホテルには責任ありませんから」（ウウ〜ム...!? サラリーマンOB感服）。

○チェンマイラム病院の信頼。

初経験のチェンマイラム病院は対応がとても迅速。医師、看護婦、栗田さんおよびパラスタッフのみなさんにお世話になる。玄関を入るとタイ人男性フロントマンが近寄ってきて受付〜診療〜終了後の会計窓口までつかず離れずの誘導と応接。

日本人スタッフ栗田さんは初診手続きに始まり消毒処置・診察〜ワクチン注射までの間医師と看護婦の通訳立会等の介添えを。医師は待つまでもなくサッとやってきてサッサと去る。この間にこやかに患部をチラリと診察して指示。診断書もその場で書きながら「破傷風注射」を10年以内に実施有無の質問も。6年前にあるの返事で、あっさり抗体ありと免除判断。すでに注射針を持って待ち構える看護婦が左腕肩先に狂犬病ワクチン（さほど痛くない）筋肉注射1mlチクリと1本、部位にカットバンを貼り付けポンポンと叩いて「マイペンライ」と診療は終了。

ここが肝心の？今夜以降の飲酒と明日のゴルフ可否を彼女に尋ねたところ。タイ語と英語チャンポンのベテラン看護婦、ダメダメの身振りの後ゲゲゲと大笑いしながらにっこり「マイペンライ」。終始付き添ってくれたカミさんの笑

顔も戻り、その夜ホンテウで内祝い乾杯。「みなさんありがとうございました。良かった、良かった、お蔭さまにて、そしてお疲れさま」。

その後 ホテル松下さんより例のワン公が予防注射実施済の確認を得たとの連絡。あわせて「是非注射5回打って下さいね。お願いします」より強い丁寧なアドバイスを受ける。

個人宅女主人は、彼女たちに対し尊大な態度に終始した様子（勿論お詫びの言葉はない）。

翌朝9日 最後のゴルフも堪能してその夜に帰国へ。

○曝露後接種（かまれた後のワクチン注射の意）

帰国後の不安と安心（*2）。

第2回ワクチン注射予定日の10日（日）に成田着。入国前に「検疫所へ立寄り相談を？」と頭にあったが黄色い紙をかざす検疫員のあまりの多さに（帰れないかも〜）腰がひけたことは事実。

帰宅後直ぐにネット検索、厚生省の検疫所等感染症関連のHPは流石にわかりにくい。

出国前の予防ワクチン接種について詳しい記述はあれど、帰国後の今回のケースは????。

何件かの狂犬病ワクチン実施病院に電話、休日もあつてか？ その要領を得ないこと！

ワクチン保有病院確保に苦戦の連続。ふと気づいたのは聖路加「国際」病院！！救急外来に電話。流石です。狂犬病ワクチン保有。救急扱いでアッサリOK（6年前、都内の路上で偶発事故 同病院の夜間救急に受診 「破傷風注射と数針縫う」の履歴あり）。

現在のところ、4回目のワクチン注射を終え残り1回。症状もあればもう既に出ているとのこと。

当時の状況とチエンマイラム病院のおおらかな診察や治療・チエンマイ滞在時を話題に担当医（救急外来から感染症内科へバトンタッチ）としばらく苦笑いでした。

そういえば、昨年会員のだれかさんがチエンマイで噛まれた由。是非親しくお話をしたいことです。

以上 ドタバタの顛末です。今後、何かの節の参考になればと考えお伝えします。

事件の前後、チエンマイ滞在中のみなさまにお騒がせと何かとご心配をお掛けしました。

また、いろいろとお世話にあいりました。

●ワクチン注射の実績（計5回の予定）

クチン間隔	注射予定日*3	診療/注射場所	治療費
0日	8月7日（木）	チエンマイラム病院	3,770円（1,143BH） 3.3円換算
3日	8月10日（日）	聖路加病院（東京・築地） 救急外来（済）	9,010円 初診料・注射代・高度機能 病院加算 5,850円
7日	8月14日（木）	聖路加病院（東京・築地） 感染症外来（済）	3,160円 再診料+注射代
14日	8月21日（木）	聖路加病院（東京・築地） 感染症外来（済）	3,160円 再診料+注射代
28日	9月6日（土）	聖路加病院（東京・築地） 感染症外来（予定）	3,160円 再診料+注射代
			合計 22,260円

上記+交通費を加算して VISAカードの海外旅行保険に請求予定。（帰国後カード扱い保険会社に事後了解：申請書受領済）。

治療費： チエンマイラム病院100%自費払い／聖路加病院 30%自己負担払い額

茲に改めてお詫びと御礼を申し上げます。ありがとうございました。

●参考

* 1 治療・予防 以下 関係HPより検索抜粋。

海外、特に東南アジアで狂犬病が疑われるイヌ、ネコおよび野生動物にかまれたり、ひっかかれたりした場合、まず傷口を石鹸と水でよく洗い流し消毒液やエタノールで消毒、医療機関を受診すぐにワクチン接種を開始すること。

狂犬病ウイルスは弱いウイルスなので、これ

で大半は死滅する。

* 2 曝露後接種

感染の機会があった場合、その発症を予防するためにもワクチンが使用される。

WHOでは0日、3日、7日、14日、28日(必要に応じて90日)の5回(6回)、各1ml筋肉注射を推奨。

* 3 ワクチン注射日

噛まれた際は24時間以内に予防ワクチン必須。ただ2回目以降は半日から1日前後のズレは問題ない。(チェンマイ医師談/聖路加医師再確認)

終戦記念日、チェンマイで慰霊祭に参列

九州支部 No.851 稲田 聡

チェンマイに2ヶ月のショートステイ中に終戦記念日を迎えた。誘われたのでチェンマイ県メーワン郡バーンガートで行われた慰霊祭に参列してきた。

当支部会員でロングステイ中の濱田さんが加わった一行である。

濱田さんは、CLL(チェンマイ・ロングステイ・クラブ)のメンバーでもある。ほとんどの人がCLLの人たちである。南の会からは、酒匂元理事長夫妻、関東支部石川夫人、関西支部田中夫人、九州支部から濱田さん夫妻、國武夫人、私達夫婦、9名が参列した。

チャーターのソントウに乗って走り出す。

63年前の終戦の日のように朝から晴れて暑い。

私は、Viang Chiangmaiのホームページで見たチェンマイ市の北、メーリムにある慰霊碑とっていた。

先日メーサイのイミグレーションに行った時と同じく118号線かと思ったが、108号線だ。これは南下している。ソントウはスピードを出して走る。10kmだから直ぐ着くと思ったがそうではない。どうも変だ。

1時間足らずで到着した。なるほど立派な慰

霊碑がある。

碑は井戸の上に建てられている。上の玉は地球を表し、三つの柱は英霊の腕を表す。地球の平和を願い支えている意味だ。中央は穴が開いている。下は井戸である。

喪服を着た若い人がテーブルを設え受け付けている。



昨日ワローロット市場で準備した果物籠のお供物を供え、準備されていたろうそく、線香をあげて拝む。



慰霊碑の脇に石段があり上がれるようになっている。そこには日本酒の瓶が置かれその傍つまり慰霊塔の中心部は穴になっていて中は井戸でそこにお酒を注ぐ。その中に英霊がいると言う。

若い人が先ず慰霊碑建立の経緯を説明した。それで合点がいった。私がホームページで見るところではなかった。



入り口にある大梵鐘を撞くのを合図に追悼の儀が始まった。代表者の御霊に捧げる言葉の朗読があって、全員で黙祷を捧げた。英霊のご冥福を祈っていると、思わず涙が溢れてきた。

ここは現在、中・高校の敷地内であるが、慰霊碑が出来るまで幽霊が出ていたそうだ。タイの人は大学出のインテリでも幽霊がいることを

信じているのである。

文部省唱歌「故郷（ふるさと）」を唱って御霊に捧げた。「海ゆかば」があれば英霊にはさらに良かったと思うのは私だけか。

海ゆかば 水浸く屍
山ゆかば 草生す屍
大君の辺にこそ死なめ
かえりみはせじ

慰霊碑の前で全員の記念撮影をした。帰りのソントウで聞くと、慰霊碑はあちこちにあるそうだ。

私が、クンユアムの博物館を建設したチューチャイ・チョムタワットさんのことを持ち出すと彼は去年はどこ、今年はどこというふうに出すと言う。なるほどと納得した。

チューチャイ氏は、日本兵の遺品を展示する博物館をメーホンソン県クンユアムに私財をもって建設する等、日タイ友好親善に貢献した功績により日本から叙勲を受けた人である。現在チェンマイ在住でタイ日平和財団の理事でチェンマイにも博物館を作るため活動中である。

長くなるが、追悼の碑建立の経緯と大梵鐘建立について資料を貰ってきたのでここに引用する。

「タイ・ビルマ方面戦病死者追悼の碑が建立された経緯について」

昭和16年12月大東亜戦争勃発後、援蔣ルート破壊及びインド独立を目指す日本軍は、インド独立義勇軍と共にビルマに入り、当時イギリス領であったインド東北部の都市、インパールを占領すべく軍事行動を起こした。

しかし、作戦は困難を極め死者7万人余り（一説に餓死者が10数万人）を出し、作戦は中止となった。その後日本兵は、タイ国メーホンソン県からチェンマイ県への道を通ってビルマより撤退した。数多くの日本兵は、更にこの撤退途中で亡くなり、遺骨や遺品などは撤退路に放置されたままとなった。

当時、撤退の日本兵に対してタイの人々は暖かかった。食事を与えたり、負傷し傷つきマラリア等の病気に苦しむ日本兵には薬を与えたりした。日本兵も、彼らの村の農作業や子守等進んで現地の人を手伝った。そして何時の日からか、日本兵とタイの人々との間には、微笑ましい穏やかな友情が生まれたのである。

それから年月は流れ激動の時代だった昭和から平成と年号も変わり、日本人の誰もが、先の大戦のことなど忘れて太平の享楽にふけていた。

平成元年、カンボジア難民慰問の帰りに佐賀県の僧侶及び遺族の一行はチェンマイ県を訪れた。その時会ったタイの老僧よりこんな言葉が一行に投げかけられた。

「ここには未だ多くの日本兵が眠っている」、「あなた達日本人はそれを省みようとしなさい」、「そんなあなた達日本人は人間か?」。

老僧の言葉を聞き終えた後、偶然一行の中にいたインパール作戦参加者が涙ながらに語りだした。

「最初は遺体に土をかけて通った」、「次は遺体をまたいで通った」、「最後には遺体を踏み越えて通った」と。

このことが切欠となり僧侶と遺族関係者で慧燈（えとう、※）財団を設立し、この地に眠る日本兵の遺骨収集活動を開始した。

チェンマイ県メーワン郡バーンガート サンカヨーム寺の裏にあった井戸（現在バーンガートエイタヤコム校の敷地）から多くの遺骨が発見されたということから、慧燈財団は平成5年、バンガートウィタヤコム校に敷地を借り、その井戸の上に戦病死者追悼の碑を建立した。そしてタイ・ビルマ方面で戦病死した1万8千名の日本兵・軍属・関係者の遺骨を納め追悼し又平成13年には、この追悼の碑の敷地内に昭和天皇の御詠が刻まれた大梵鐘をいただく鐘楼も建立した。

この地に一人でも多くの日本人が訪れ、祖国

の弥栄のために命を賭して戦争の中で散っていった英霊を偲ぶ事が、ここに眠る1万8千名の勇士に対する何よりの追悼になるのではないだろうか。

慧燈財団事務局長 小西 誠

電話：053-124-527 携帯：085-030-1345

E-mail:etou@thaijp.net <http://etou.thaijp.net>

※慧燈：智慧の燈火、仏教用語である。

大梵鐘

平成元年より遺骨収集活動を始めてから今日まで多数の遺骨を発掘収集してきた慧燈財団ですが、発掘されずに軍歌「海ゆかば」の一説のごとく草生す屍となって今もジャングルや湿地帯等のどこかで眠っておられる戦没者の追悼供養を考えた時、大梵鐘を建立することになりました。

京都の岩沢梵鐘製作所が鑄造したこの大梵鐘は青銅製で高さ1.5m、重さ1.5トンあり、平成9年から寄付を呼びかけて平成13年に建立されたもので、チェンマイ県メーワン郡バーンガート中・高校内にあるタイ・ビルマ方面戦病死者追悼の碑が建立されている敷地内の鐘楼に安置されております。

梵鐘には、調前理事長の自坊である佐賀県因通寺に戦後設置された戦争罹災孤児引揚養護施設「洗心寮」を昭和天皇がご訪問された際、陛下が戦争罹災孤児との対面に感動され賜りなされた御製「みほとけのおしえまもりて すすくと 生き育つべく 子らに幸あれ」が刻まれております。

昭和天皇の御製をいただく梵鐘は世界に二つだけですが、一つはこのタイ・ビルマ方面戦病死者追悼の碑敷地内に安置されたもので、もう一つは前述の因通寺に安置されております。

また、浄土真宗西本願寺派御門主の揮毫による「南無阿弥陀仏」の称号と元遺族会会長橋本龍太郎元首相の揮毫による「安らかに」の言葉が刻まれているという点からもこの梵鐘がどれだけの価値があるものか推して量るべきでしょう。

ボルネオ・サバ州でゴルフ三昧？

関東支部 No.1225 高橋 眞治、順子

私たちは5年前、共通の趣味、特に体を動かすことをしたいと、二人でレッスンプロにゴルフを習い始め、今も続けています。主人はゴルフにはまってしまい、この世の中で、私の次にゴルフが大好きになってしまい、ゴルフの出来ない所へは行かないと言い出しました。年に2回、1ヵ月ずつ、オーストラリア・ニュージーランド・カナダなど行きましたが、どこも値段が高いです。

今年はどこへ行こうかなと思っていたところ、パソコン同好会のWさんから、元キャメロンハイランドの代表Kさんが、キナバルハイランド（ラナウ、クンダサン、タンブナン、ケニンガウ）のゴルフ場・ホテルと交渉して会員料金で利用できる「KHC」を紹介していただきました。年会費 2000 円(入会金なし)を振り込み、キナバルハイランドクラブ「KHC」に入会して、7月中旬から4週間、それぞれ7泊、週4回のゴルフの計画をたてました。

予約申し込みはすべて私が行います。主人はまったく手伝いません。お互いそれぞれの役割分担と理解していますので、特に不満に思っている訳ではありません。健康で一緒に海外に行けるだけでも、ありがたいと思っています。

ホテルとマレーシア航空のジマツ(英語)をインターネットで予約するには、クレジットカード番号の入力がありますが、画面の一番上のバーにhttpsのS(セキュリティ)があり、金色の南京錠のマークがあればOKとパソコン同好会で教えていただいていたので、安心して行えました。

コタキナバル在住のTさんと出発前から現地の情報などをメールで教えていただき、お世話になったお礼にご馳走させていただきたいので、「どこか美味しいお店に連れて行って下さい。」

と、お願いしてセドコの海鮮料理店(双天)に行きました。ビールとおいしいシーフードは、3人で約200RM。海岸の近くの店より安いので穴場です。

<交通手段>

ケニンガウへの交通手段はミニバス、東馬バス、タクシーです。

ミニバス(マイクロバス)はホテルなど、目的地までの運行ですが、荷物を載せる場所はありません。また、12名集まらないと出発しません。

東馬バスは観光バスのように、車体の真ん中に荷物を入れるところがありますが、バスセンターからホテルまではタクシーを利用することになります。

私たちは、ゴルフバックとスーツケースが各2個、パソコンを入れた手引きカートもあるので、タクシーにしました。

ホテルのフロントでタクシーを呼んでもらうと帰りの料金、つまり2倍要求されるので、長距離バス乗り場の近くのタクシーを探し、英語で料金の交渉しなければなりません。「英語は度胸、女は愛嬌」と、吹っかけられないようにと、勇んで出かけたのですが、30台位のタクシーが客待ちしており「Keningau One hundred OK?」

「OK!」とすぐに決まりました。明日の12時、ホテルに来てほしいと、日付、金額、ホテル名、部屋番号、名前を書いたメモをドライバーに手渡しました。

翌朝買い物に出かけ、約束どおり迎えに来てくれるのかしらと話しながら11時に帰ってくると、あのドライバーがメモを片手にロビーで待っていたのです。

タクシーは、古い日本車でエアコンはあるのですが、スピードメーターの針は動かず、ドアの内張りもはがれており、今にもエンストを起こすのではないかと心配でしたが、無事にケニ

ンガウに到着しました。

バスセンターで知り合ったKHCの男性の会員は、私達より1日早く、同じルート、同じ宿泊先（日本人向けは限られている）、同じ帰国日で、マレーシア語が堪能の方でしたので、後に大変助かりました。

<ケニンガウ>

コタキナバルから100km、ケニンガウの町はエアコンのあるレストランは数えるほどで、オープンエアの扇風機のみ、プラスチックの椅子と、どこの店もあまりキレイとはお世辞にも言えませんが、ここでの生活を楽しまなくてはと覚悟を決めました。

マレーシアの人々は家で食事を作らず、店は6時半頃から開いているので、朝から外食です。中国人が多く住んでいる町なので、ほとんど中華料理です。お粥、飲茶、カレー、ミーゴレン（焼きそば）、ナシゴレン（焼き飯）などは安く（各4RM〜）美味しいのですが、三食では飽きてしまい、朝食はパンにしました。ナイトマーケットでバナナの天ぷら（1袋1RM）、焼いた鶏肉の手羽先（1,20RM）、甘いクリームの入ったクレープ（1RM）を買い求め夕食にしたこともあります。

Jutaホテル（三ツ星）は町の中心にあるので、冷蔵庫がなくても、冷たい飲み物は目の前のスーパー、ビールも近くの店で購入することができますので、不便は感じませんでした。インターネットは無料なのですが、部屋では中々繋がらな



ケニンガウ・ナイトマーケット



ケニンガウGC・キャディさんと

いので、ロビーでID番号入れて、電源を切らずに部屋に持ち帰り使用しました。パソコンは貴重品なので、部屋をあける時はスーツケースに入れて鍵をかけて出掛けました。

冷蔵庫のあるPerkasaホテルは町から徒歩15分位です（ホテル無料シャトルバスあり）。

ケニンガウGCはJutaホテル前に止まっているタクシーに乗り5分位です。

上級者向き、難しい。1番ホールは150m(ヤードではありません)の池越えです。私はイケイケボールを2回とも落としてしまい、3回目からはパスしました。

フェアウエイ・ラフの芝は、南国特有の葉が広く、四方八方に力強く根を張っているのに、クラブがいきなり急ブレーキをかけられたように、途中でストップし、振りぬけなくなるので、ダフリ、チョロに注意です。このコースで練習すれば日本のコースはやさしいと感じるのでは・・・

Jutaホテル・Perkasaホテル宿泊者割引、18H・保険・キャディ72RM、約2500円。マンスリー平日560RM、キャディ毎回20RM、（1ヵ月、Jutaホテル70,000円、コースプレイ20日間しても33,000円は安いので、おすすめです）。

ケニンガウGCへのタクシーへ乗るたびにドライバーに聞くと、タンブナンまでは60RMと、答えます。バスセンター近くのタクシーが40RMとの情報を得ることができましたので、ド

ドライバーを探し出し、名前・携帯番号・車両No.のメモと、私達のホテル名・日付・料金のメモと交換しました。後で解ったのですが、ドライバーはタンブナンに住んでいるので、安い料金だったのです。

<タンブナン>

タンブナンで一番といわれているタンブナン・ビレッジ・リゾート・センター (TVRC) の一番よい部屋 (2LDKキッチン付) に滞在しましたが、高床式のバンブーハウスは山小屋です。広い敷地に建物が点々とあり、つり橋を渡らないとたどり着けないモーテル風の施設も外見は良いのですが、それぞれの部屋に電話、NHK国際放送はありません。

炊飯器が備え付けられているので、持参したササニシキのご飯を炊いて海苔を巻いた梅干のおにぎりと、インスタント味噌汁の夕食は、油を使った料理に飽きてきたお腹に最高のごちそうでした。マレーシア人は油を使った料理を多く食するので、平均寿命は50~60歳といわれています。

日中、晴れているときは30度位になりますが、朝晩、特に夜は23度位まで下がります。

犬・鶏・牛・馬が放し飼いになっており、車が近づいてもよけません。家の中にやもりがいます。スーパーの袋の中にいつの間にか入り込んで、やもりが飛び出してビックリしたこともあります。私達の部屋だけかもしれませんが、夜中になるとねずみが運動会をはじめ、早朝、3~4時に鶏がコケッコと朝の訪れを教えてください。夜明けごろになると、野鳥のさえずりで再度、起こされます。

シャワーの囲いがないので、シャワーの水がトイレにはねたり、床が濡れているので、サンダルを買い求めました。

停電になったときは、ロウソクの光のなかでロマンチックな夕食を味わい、外に出て空を見上げると、星が光り輝いてほんとうにきれい、自然を満喫できました。

イギリス人の団体がバスでトレッキングに来ていました。練習のない時は広場の草むらにシー

トを広げ、一日中ビキニで甲羅干し・読書と、休日の過ごし方は日本人とは違う感じでした。マレーシア人の家族も泊まっていて満室の日もあり、人気のあるところですよ。

タンブナンGCは9Hを18Hに作り変えたそうです。キャディは学校に行っているなので、手引きカート込み26RM。保険も請求されなかったので、18H約900円です。OBの杭が多く、ウォーターハザード(池、川)がところどころにあり、ボールをたくさん無くしました。

主人が川に落ちました。川に渡した木が腐っていて乗ったとたん折れました。膝上までの浅い川なのでポケットが破れ、携帯と財布を落としそうになり、靴も靴下も泥だらけ、二人だけの貸切状態でしたので、大事にならずホッとしました。

タンブナンからラナウまでは陥没やがけ崩れの道が多くあり、補修されていないので走りにくく、スピードが出せないで、120RM以下では行かないと、タンブナンに住んでいるドライバーに言われてしまったのですが、結局また、お願いしました (TVRCのオフィスでは150RM)。ラナウに到着後、120RMは安い、あなたは交渉がうまいと褒められました。

<ラナウ>

ラナウ、スラゴンホームステイはオスマン夫妻のあたたかいおもてなしで心地よく過ごせました。2万坪の敷地に川が流れ、パイナップル、バナナ、スターフルーツがなっており、ブーゲンビリアなどの花もたくさん咲いていました。



タンブナンGC

キッチンを貸してもらえるので豚肉以外は調理できるのですが、朝食・昼食（各 5RM）、夕食（8RM）なので、ランチ以外はお願いしました。電子レンジが置いてあるので、パックのごはんを温めておにぎりにしたこともありました。

ホテルではなくホームステイなので、12 部屋は、狭くシャワーの囲いのない部屋、囲いはあっても水はけの悪い部屋もあり、早朝 3-4 時、隣の家のコケッコに起こされました。

ラナウGCは以前三菱鉱業の従業員と地元民のために作ったゴルフ場です。9Hなので 2 回目はティの位置が白から青に変わります。スラゴンに泊まるとグリーンフィは半額の 15RMになります。18H・保険・キャディフィ込み 50RM、約 1750 円は安いです。

日中は暑いので涼しいところでゴルフがしたいと、マウントキナバルGCの予約をオスマン夫人にお願いしました。雨のためクローズの時間が多くあなた達は幸運と、また、売店・レストランは閉まっているので、飲み物・軽食を持っていくようにとアドバイスされました。

Mt.キナバルGCはクンダサン経由、スラゴンから 40 分位、標高 1500mのため涼しく快適なゴルフをすることができましたが、OUTコース・フェアウェイの芝は靴が埋まるぐらい伸びていて、もう少し手入れがしてあれば、もっとよかったです。18H・乗用カート、二人で 262,5RM、（一人約 4,600 円）スラゴンからのアレンジ、送り迎え 100RM (3,500 円)でした。

クンダサンの町は小さく、町外れのキナバル・パイン・リゾートでランチ。部屋に冷蔵庫・自炊の設備はありませんでした。

クンダサンではなくスラゴンに泊まって、Mt.キナバルGCでプレイできない時はラナウGCに行くようにしたほうが、効率がよいと思います。

KKからMt.キナバルGCまでは、タクシー、約 2 時間、90 ~ 100RMです。

ラナウからオスマン夫人が 90RMで予約していただいたタクシーでコタキナバルに戻りました。

プロムナードホテルアパートメント、ステューディオ・キッチン付、103,5RM。炊飯器・食器はリクエスト(無料)で借りました。

Tさんとステラハーバ、ミンピアン・ジャディでもプレイして、主人 14カット、私は 9カット、ハーフと予定どおりです。

<ケニンガウGC・タンブナンGC・ラナウGC 共通事項>

平日は混んでいないので、のんびり楽しめます。日差しは強く暑いのですが、風があると木陰は気持ちいいので、朝早くスタートし、午前中に終わるようにしました。

キャディは 1 人に 1 人付き、チップとして、ハーフの休憩時に冷たい飲み物をプレゼントすると、喜ばれます。

プロショップはほとんどクローズしていますので、ゴルフ用品はスペアを多く、特にボールは紛失のため多めに用意して、ロストボールをキャディマスターから、10 個 10-15RMで手に入れました。クラブハウス・レストランにビールはありません。

予約の必要なし、乗用カートなし、レンタルクラブなし、一人だけプレイOK。それぞれのゴルフ場は値段のわりには設備が整っていました。とにかく安いです。

<その他>

蚊の対策は現地で蚊取り線香、スプレー、液体など、安くいろいろ売っています。ゴルフの時は体にスプレーを吹き付けました。

インフラの整備がおくれています。ドリアンではなく下水道の蓋がないため、近づくると臭います。

タンブナン、ラナウの宿泊料支払いはカードが使えないので、新生銀行のキャッシュカードにて、ATMで現金引き出しました。Cityバンクのキャッシュカードは残金 50 万(外貨 20 万)以下になると月 2,100 円の口座管理料引き落としがありますが、新生銀行は今のところ特に何もありません。

コタキナバル・センターポイント 4 階、スター

ボックスの横にベンチが置いてあり、現地の人々がパソコンを使用していました。膝の上にノートパソコンを置くと暑いので、汗を拭き拭きで

すが、無料です。いつまでベンチが置いてあるのか解らないので、そっと、お知らせします。

<参考資料>

2008年7月現在

1 RM : 34,5 円

	ケニンガウ	タンブナン	ラナウ
コタキナバルより	約2時間	約1時間30分	約2時間
ミニバス	1 2 RM	8 RM 注①	1 5 RM
バス	1 3 RM	1 3 RM 注①	1 0 RM 注①
タクシー (交渉)	1 0 0 RM	8 0 RM 注①	9 0 RM
滞在先	ジュタホテル	TVRC	スラゴンホームステイ
7泊以上 (朝食なし) (KHC割引料金) マンスリー (朝食なし)	9 0 RM エアコン付 2 0 0 0 RM	1 0 0 RM 扇風機・キッチン付 5 0 %OFF	8 0 RM エアコン付 4 0 %OFF
支払い方法	現金 / カード	現金	現金
冷蔵庫	— (料金交渉)	部屋・無料	共同・無料
洗濯機	—	共同 (1回4 RM)	共同・無料
インターネット	ロビー / 部屋無料	ロビー1時間2RM	ロビー無料
NHK国際放送	部屋・無料	—	ロビー・無料
町までの時間	0分 (町の中心)	徒歩30~40分	徒歩1時間
日本円の両替	MayBank	—	—
ATM	町の中	町の中	町の中
ビールの販売店	徒歩2~3分	町のスーパー	GC前のスーパー
近くのゴルフコース	ケニンガウGC 18ホール	タンブナンGC 18ホール	ラナウGC 9ホール (2回)
滞在先からの時間 料金 (1台)	タクシー5分 往復1 6 RM	TVCRの車10分 往復1 6 RM	スラゴンの車5分 (不明) 注②
グリーンフィ (平日)	4 2 RM	2 1 RM	1 5 RM
保険	1 0 RM	1 0 RM 注③	1 0 RM
キャディフィ	2 0 RM	2 0 RM 注④	2 5 RM
ロッカー、シャワー	無料	無料	無料
レストラン	あり	あり	あり
ビール	なし	なし	なし

上記料金はKHC入会、または、滞在先指定です。

注① 今回は調査、利用していませんので、定かではありません。(2007年資料)

注② 今回は請求されませんでした。

注③ 今回は請求されませんでした。

注④ キャディ不在のため、手引きカート (5 RM)

英語が通じない時もあるので、マレーシア語を覚えていればと、反省しています。（特に数の数え方）

スカイプアウトの日本への通話は、1分2,66円ですが、通信事情が良くないためインターネットが使えないときもありますので、携帯電話（012-8431463）を購入しました。

南の会・メーリングリストに「日本からの送信方法を教えてください」と、のせていただき、即座にメール・スカイプにて、010-60-12-8431463と、教えていただきました

た。また、三名の方はご自宅から直接お電話下さり、「地獄で仏」のごとく、「南の会」のありがたさを痛感いたしました。ありがとうございました。

観光はなし、ゴルフ中心の一味変わった体験でした。旅費は4週間45万円(AIR・17万含)、今まで行ったなかで一番安くあがりました。

これからも、自分の目で見て、肌で感じ、日本とは違う空気を吸いに、いろいろなところへ行きたいと思います。

フィリピン スービックでの日本語教師体験

関西支部 No.681 池田 正明

平成20年3月31日、定年まであと5年を残して念願であった早期退職を実現した。

そして、かねてから退職したら海外で日本語を教えたいと思っていたところ、たまたま参加した「フィリピン観光セミナー」で日本語教師（ボランティア）を募集していたのですのですぐに応募した。

海外での日本語教師は初めてであり2ヶ月間の海外生活も初めてで少し不安であったが、早期退職の目的は、「海外での日本語を教えること」と決めていたので期待に胸を膨らましてフィリピンのスービックに赴いた。

1 期間

平成20年5月11日から7月5日までの約2ヶ月間

2 日本語教室

① TPV (Tropical Paradise Village) 教室

月・水・金の90分授業（午前）

対象者：TPVで働く介護福祉士

日本語のレベル：日本語能力試験3級受験クラス

TPVは、介護を必要とする方やリタイヤ生活等で長期滞在する方のための宿泊施設であり、日本語のわかる介護福祉士が24時間体制で待機している。



② FSC(Freeport Service Corporation)教室

月・水・金の90分授業（午後）

対象者：スービック工業地区の日系企業で働く社員

日本語のレベル：まったくの初級クラス



3 スービックについて

マニラから車でおよそ3時間半のところに位置しており米海軍の海外最大の基地であったが、92年フィリピン政府に返還され「スービック港自由貿易経済特別区」として生まれ変わった。

米軍基地として開発されたため各種のインフラは整備されており、スーパーマーケット、病院、ヨットクラブ、ゴルフ場、乗馬クラブ、テニスコート等の施設も完備している。また、スービック内（180 km²：東京23区とほぼ同じ広さ）は、7つのゲートで囲まれ、すべてのゲートに警備員が待機し、入場者・車・荷物などのチェックを24時間体制で行っている。

よって、スービックは東南アジアでもトップクラスの安全性と快適性を誇っている。

また、フィリピンではおなじみのジプニーやトライシクルもスービック内ではいっさい走れないので、交通ルールも守られており町全体はすっきりしている。



4 宿舎

私の宿舎は、TPVの1ユニット（平屋建て、130 m²、敷地は300 m²、家賃400米ドル/月）を一人で借りた。TPVはスービックの中でも丘陵地にあり熱帯雨林の自然が楽しめ、5月の真夏でも寝る時はエアコン不要であった。

TPVの治安はスービック内にありながら、もう一度住宅用のゲートでチェックを受けなければ住宅内に入れないのでさらに安全であった。



5 所感

海外での日本語教師は初めてであり、行く前は希望と不安が入り混じっていた。

とにかく、行けば何とかなるだろうという気持ちで出発した。

授業は、毎週月、水、金の90分ずつ2クラスであったが、火、木、土に授業の準備をしなければならず、慣れない内はけっこう忙しかった。しかし、1ヶ月を過ぎる頃になると生活にもリズムが出てきて余裕が生まれ、授業のない日はゴルフやテニスを楽しんだ。

TPVの3級受験クラスは日本語で授業が出来るが、FSCの初級クラスの生徒たちはまったく日本語が出来ないので、媒介語としてどうしても英語が必要になってくる。私の拙い英語と絵カードや写真などを駆使しての授業は大変であったがやりがいもあった。私のような出来の悪い教師に対してもフィリピン人はいつも陽気で親切であり楽しく授業が出来た。

任期の2ヶ月はあっという間に終わってしまったが、充実した2ヶ月間であったと思う。次に来る時は、せめて半年以上出来れば1年は教えたい。生徒たちにとってもその方がいいと思う（現況は2～3ヶ月毎に先生が交代している）。これからも日本語教師としてスービックにはもう一度行きたいし、他の国にも行きたいと思っているが、もっと私の英語力のスキルアップが必要であると今回の体験を通じて痛感した。

会報発行・・苦労話

会報委員会

「南国暮らしの会」は、国内、海外に広がる大きな組織です。年4回発行される会報はこの組織を結びつける大きな力です。

会報発行については、先ず第一に原稿を寄稿される会員の皆様の貢献が最大です。次に会報発行を支える会報委員会の貢献も大きいと思っております。

本の製作には素人の会員から構成される会報委員会（現在9名）が経験したこと、考え方・悩み、さらには投稿される会員の方々や会報を受け取る会員の皆様へのお願いなどを取り混ぜて、とりとめのない裏話として書いてみました。

1. 会報作成・発行のプロセス

会報は年4回、3ヵ月に一回発行されています。年間4回の発行が10年に亘り絶えずに続いていることは、相当に驚きでありこの会のエネルギーが強いことの現れでないかと思えます。

さて、会報発行のプロセスです。新年号（冬季号）、春、夏、秋季号と、3か月に一回の発行ですと、同じ作業が3か月単位で回ってくるということで、結構忙しいです。

下記は発送から逆順に並べた日取りです。
発送：1，4，7，10月の月末～次月の初め
印刷所への原稿渡し：上記の月の10日ころ
原稿締め切り：12，3，6，9月末日
記事の募集開始：発送した次月の中旬ころにグループメール（ML）でアナウンスします。
このように一年中会報作成の作業をやっています。2年前以前はこれを一人で担当していました。会報記事集め、編集、印刷の手配をすべて一人でやり、発送はみんなの手伝うというやり方でした。

一人で全てやるやり方は限界があり、今思っても担当された方のご苦労に頭が下がります。

現在は分業制です。記事集めを各号毎に一人、合計4人で担当し年一回順番が回ってくるよう

にしております。集まった記事を会報のスタイルに編集する編集は今のところ一人でやっています。これは結構細かい仕事で、時間もかかります。以下順にそれぞれの仕事を見ていきます。

2. 原稿集め

会報作成の最大の仕事は、会員の皆さんからの記事を募集することです。

会報記事のメインは、ロングステイ（LS）体験、LS下見旅行が中心で、中にはLSとは直接関係ない海外旅行などもあることは会報の読者である会員の方々にご承知であると思えます。この会の大きな目的は、LSに関する情報交換ですので、なるべく多くLS情報を載せたいと考えていますが、今までは寄稿数が限られており選ぶ余地が少なかったのが実情です。しかし、会員相互の親睦を図り、会員のいろいろな分野での活動を紹介するのも有意義ですから趣味、同好会、海外旅行、ボランティア活動などの記事もこれからも多く載せていきたいと思えます。

会報には、その他に会の運営についての記事が定例的に載っています。「支部便り」、「部会伝言板」および総会に関する記事（理事長挨拶、事業報告、予算・決算）などです。ただ、3か月に一度という間隔では、サロン会の開催通知などは、掲載時に時間的に古い情報となるためグループ・メールに頼ることになります。

最近の会報の大きな特徴は2年前から始めた「支部特集」です。最初に九州支部から始めた支部特集は、国内6支部を順調に終え、海外支部に移りセブ支部、チェンマイ支部に続き、今号のペナン支部でほぼ一巡し、会報のスタイルとして定着した感があります。

会報読者から見ると、関東支部に偏らず国内、海外支部の活動がよく分かると共に、会報委員

会から見ると記事集めを実質的に各支部に委託することになり、ずいぶん労力が助かることとなります。自分の労力を人に押しつけると言われるかも知れませんが、会報委員のみが記事集めをしますと、委員が知っている人の範囲の記事になりがちで広がりが無くなります。支部特集はこの弊害を破る意味で意義があります。ただ、ここまでするにはかなりの抵抗がありました。支部特集の発案者は、今となっては思い出話になりますが、理解を得るのに苦労したそうです。

さて、記事集めは他にも色々知恵を絞って新しい企画を試みています。シリーズものとして「お役立ち情報」、「私のボランティア」、「投稿写真コーナー」などを企画しました。今に続いているものもあり、逆に投稿が少ないものもあります。記事がカバーする範囲を広げるためにも、毎号でなくても続けていきたいと思えます。

この会の一つの特長は、国内外での会員の会合が多いことです。支部サロン会、同好会、旅行先での懇親会などなど多くの会合が行われています。「投稿写真コーナー」はこのような会合での集合写真を中心にしています。多くの写真投稿を期待しています。その際は、簡単なメッセージ、会合名と日時をお忘れ無く。

支部特集以外の一般投稿は、どうしても会報委員が個人的に頼むものが多くなります。しかし最近はMLのアナウンスに応じて自発的に送っていただくものも数は少ないですが増えています。やはり記事を書くことは自分の体験を皆さんに伝えたいということが大きいと思えますが、それはとりもなおさず「自己表現」になりますので、満足感が得られるのではないのでしょうか。

このように記事を皆様から頂きますが、加入して2～3年以上経った方は、以前の会報に比べてページ数が増えていると思いませんか？ 実際、従来は予算の制限もあり50ページ以下でしたが、最近は投稿記事が増え60～70ページになっています。これも南の会の成長の現れであると思えます。

3. 原稿の編集、印刷

記事が集まりますと、次は編集になります。編集はパソコン相手の地味な仕事です。

原稿締め切りは発行月の前月末ですが、印刷屋に渡すまでに時間が10日余りしかありませんので、いっぺんに原稿がくるととても時間が足りません。幸い寄稿者の皆さんからの原稿は締め切りよりも早く送ってくださる方が多いので、到着次第順次編集にかかります。編集は簡易型のDTP (Desk Top Publishing) ソフトの「パーソナル編集長」を使ってパソコンで行います。

編集のプロセスは概略次の通りです。送られてくる原稿はほとんどがワードを使っています。

1) 一次編集： 原稿をワードの文章校正機能により、ザッと校正します。例えばロングステイ、ロングステーなど同じ原稿に表現が違う言葉があればどちらかに統一します。次に「パーソナル編集長」で会報のスタイルに整えます。会報のスタイルは10年間の歴史の中で、過去の担当者の工夫で現在のスタイルに定着したものです。

参考に会報のスタイルは概略次の通りです。

- ・フォント：MS明朝（和文）、MS P明朝（英文）、10.5ポイント
- ・紙面は2段組、各段は横21字、縦42行
- ・1ページの字数は1700字程度
- ・写真はモノクロ

2) 二次編集： 一次編集では長さがまちまちですので、ページになるべく余白が出来ないようにパソコン上でつなぎ合わせます。余白が出ればそこに埋め草としてイラストを置くのが一つのやり方ですが、現在はイラストを使っていません。編集者の個人的な趣味の範囲ですが、「余白無しでうまくつなぎ合わせる」ことを一つの目標として単調な編集作業になにかの意味づけをしている感もあります。イラストを使用すると著作権の問題に気を遣わざるを得ず、またイラストを探す作業が結構重荷になることもあります。

3) 残りの作業として、目次を作り、表紙、裏表紙の写真を選定し配置を決め、写真の説明を付けるなどの細かい作業があります。

4) 最後は校正です。これが一番苦手な気の重い作業です。完成までに2～3回は読みますので発行された本は読む気がしません。

以上のプロセスを経て、完成した会報をプリントして印刷所へ渡します。

さて上記のように書けば順調に進むように見えますが、プロセスのそれぞれの段階で問題が発生します。その多くは、元の原稿の段階で少し気を配っていただければ解消するものがほとんどです。以下細かい話が続きますが、編集は細かい作業ですからご辛抱ください。

・**氏名、会員番号の記入**： 原稿の中には氏名の姓だけで名がない、会員番号の記入がないことがあります。編集で調べるわけですが、自分では自明の姓名、会員番号を書かずに他人に調べさせる、その他人の気持ちも察してください。特に会員番号の未記入は会報編集だけでなく、会員担当、経理担当でも大きな問題です。例えば会費振込で600名近くの方の3割程度は未記入です。会員番号から氏名を検索するデータベースで作業をしていますので大きな支障になります。細かいことですが、気持ちの問題ですので作業をするのが馬鹿馬鹿しくなります。幸いに会報原稿の場合は、最近では未記入が少なくなりました。

・**原稿の種類**： ほとんどがワードで書かれています。ワード以外にテキスト（テキストファイルでも、メール本文でも可）、手書き原稿も受け入れます。ワードで余りに精緻に作成しても編集は会報スタイルに直しますので無駄になることがあります。ただ文中での写真の配置、あるいは文章で太線、下線などで強調したい部分などは尊重しますので、その意味ではワードも便利です。次回の会報からはワードの標準原稿用紙を作成しお渡ししますので、それに書いていただければスムーズに進むと思います。

・**用語、英数字の表現**： 頂いた原稿は変えずにそのまま編集することが原則です。中には明らかに間違いと思われる言葉遣いもありますが、原則訂正はしません。単語の明らかな間違いは訂正することがあります。問題は数

字、英文の全角・半角です。この場合もそのままするのが原則ですが、同じ文中に入り交じっている場合はどちらかに統一して欲しいと思うことがあります。ただし一桁の数字（0～9）は、全角の方が見やすいと思います。

・**長い文章、短い文章**： 会報のページ数は長くても70ページです。一つの原稿の長さ制限はありませんが、4～5ページ程度、長くても10ページ以下が適当ではないかなと思います。10ページを超える文章は、2回に分けて寄稿していただくような工夫が必要だと思います。中には編集で適当に文章を短くしてくれと言う方がいます。これはお断りです。逆に半ページ以下の短い文章の方もまれにいます。ご存じのようにタイトルが比較的に大きいのでバランスがとれません。出来るだけ多く寄稿していただきたいので、編集で囲み記事にするような工夫も必要かなと思います。

・**写真**： これが編集の最大の問題です。会報はモノクロ写真です。送られてくる写真はカラーです。そのまま印刷に掛けると色がつぶれて真っ黒に仕上がります。印刷屋でモノクロの階調が出るようにします（ちなみに写真1枚に600円の処理代がかかります）が、出来上がりははっきり言って不満足です。街の印刷屋ですから技術が高くないこともあると思います。もう一つの理由は送られてくる写真の解像度が低いことにもあります。その大きな原因は写真をワードに貼り付けてくることです。元のデジカメ写真は数百KBから1MBを超える解像度で撮影されています。文章と写真は別々に処理して印刷するため、ワードに貼り付けた写真を抜き出します。すると解像度は30～50KB程度に落ちます。ふた昔前のデジカメ写真並みです。もう一つの問題はワードに貼り付けた写真を抜き出す作業に手間がかかることです。50枚を超える写真がありますので、相当な作業量です。このため、ワードに写真を貼り付けたら同じ写真のオリジナルを圧縮せずに送って欲しいとお願いしていますが、ほとんど無視です。これも悩みの種です。

- ・編集仕上りの指定： 殆どの方はおまかせですが、中には仕上がりを指定される方もいます。写真の枚数や配置、ページの先頭から始める要求などです。個別の要求には出来るだけ応じますが、全体とのバランスから応じられないこともありますので、ご了解いただきたいと思います。

4. 会報の発送

会報の発送は、会報委員会と会員部会が合同で10名くらいが集まり行います。会員部会が会員のデータを持っていますので、宅配便の宛名シールを人数分だけ印刷し持ってきます。発送会場では会報、同封資料を袋詰めし、宛名シールを貼って仕上げます。作業は順調にいて3時間くらいで終わりますので、宅配業者が取りに来る間、お茶を飲みながら今回の会報の苦労話などをします。ほっとする時間です。

会報発送の問題は届け先不明で戻ってくる会報と海外発送です。これは後述します。

5. パソコンに頼った仕事

会報のプロセスを見てきましたが、作業のすべてがパソコンに頼っています。記事集めの依頼・原稿送付では電子メール、編集はワード・編集ソフト・画像修正ソフト、編集の進捗管理はエクセルを使い、発送には名簿管理にアクセス、シールをプリンタで印刷することが必要で、更に海外発送にはネット上で配達追跡を使います。従って会報の作業にはある程度のパソコンのスキルが必要です。逆に言えばパソコンスキルのある方は、関東に限らず日本国内、海外居住の方でも作業が出来ます。実際に作成中に海外旅行に行き、現地でパソコンを使い作業した例もあります。現在の会の運営は関東偏重の感じがありますが（やむを得ないことでもあります）、居住場所にかかわらず会報作成に参加することが出来ます。希望者はいませんか？

6. 会報電子版（pdfファイル）

会報電子版は、会報をそのままパソコンで閲覧出来るpdfファイルにしたものです。従っ

て内容は会報と同じです。印刷の関係で会報は写真がモノクロになりますが、電子版はカラー写真です。色が重要な写真、例えば花の写真は印刷のモノクロ写真では無理な感じがしますが、電子版では、逆に花の色が美しく魅力のある写真となります。

電子版の利点は他にも多くあります。

- ・印刷費用、発送費用が生じない。
- ・発送の手間が省ける。
- ・編集完了次第、すぐにネットで送ることが出来、約1か月早く読める。
- ・会報を保存するのに便利である。
- ・索引を付けて著者名、題名、テーマなどで検索可能に出来る

こんなに多くの利点がある電子版ですが、印刷を廃止して電子版のみに移行出来ないのは、ひとえに会員の全員が必ずしもパソコンを利用していない現実があるからです。現在は南国MLのブリーフケースに収めて、欲しい人がダウンロードする形を取っています。

このpdfファイルを始めて2年経ちますが、最初は「pdfファイルって何？」と言う位の感じでやっと最近はその価値が認識されたようです。

7. 会報についての考え方、課題、悩み（会報委員会での議論を中心に）

- 1) 発行回数： 年中暇無しで会報作成をしていますと、会報委員もくたびれます。海外へ行くことも制約されます。現在の年4回発行を3回に減らせないかとの議論があります。しかし会報は会員全員へ連絡出来る唯一の手段ですので、例えば会費納入の案内、総会の案内など必ずしなければいけない連絡とその時期を考えるとうまく回数を減らせるかどうか、いろいろな意見が出てまとまっていません。もちろん回数減は会員サービスの低下で許されない、その分会費を下げろなどの意見も聞こえてきそうですが、会報に限らずMLなど南の会の今のサービスは無償奉仕で成り立っていることを考えれば、このような議論もやむを得ないのではないかと思います。

2) 海外への会報発送： 会報委員会は会報の送り先は国内の届出住所と考えています。しかし、現実には発行の度に海外の5, 6カ所へ国際EMS郵便で発送しています。最近では航空機の手荷物重量制限が厳しくなり、会報を海外へ持参していただける方も少なくなりました。原則と違う対応は、この会では海外在住者にお世話になることが多く、それに少しでも報いようとの考えからです。しかし海外発送は手間と費用がかかります。そのため若干は制限せざるを得ません。EMS郵便は最低900円（アジア、300gまで。ハワイは1200円。ちなみに国内は80円）かかりますが、冊数が増えるに従い一冊あたりの単価が安くなります。従ってお一人のためにEMSで郵送するのは費用の点で困難です。この場合は電子版をご利用いただきたい。まとまった人数のいる場所へは今後も続けられると思います。

会報発送の2番目の問題は、届け先不明で帰ってくる会報が多いことです。これは会員部会の悩みですが、転居、海外渡航などの場合は変更届を出して頂ければ解消します。

3) 会報作成費用： 今年度の予算は印刷、発送を含めて総額174.8万円で全体予算の37.5%を占めています。昨年の実績で会報一冊あたり480円かかっています。

4) 会報委員募集： 昨年ころから会報委員を増やすために会報で募集をしておりました。その成果が現れたと言いたいのですが、現実には会報の募集に応じた人は皆無です。しかし身近な方が参加していただき現在9名になっております。今後も募集します。特に関東以外在住の方の参加を望みます。

5) 将来の会報のあり方は？： 現在の会報は、ある程度うまくいっているとの評価もあると思います。ただ、会報を読む方からは直接見えない会報を支える人々、寄稿者・会報委員会・会員部会の方々の努力による点が大きいと思います。これからもうまく世代交代

して会報を発行していくためには、会報発行にかかる労力を軽減することを常に考えていく必要があるでしょう。その一つは電子化（パソコンによる発行）の方向であると思います。現状では難しいかなと思いますが、費用軽減効果もあわせて実現を考えていく必要があると思います。

8. 楽しくボランティア

会報発行に限らず南の会のお世話役（理事、委員、支部役員）は、外部に対するボランティアではありませんが無償で相当な労力を提供している点でボランティアといえるかと思います。

南の会に参加しているのは、一つにはリタイア後の生活を楽しく過ごしたい、気のあった仲間を作りたいとの気持ちがあるからでしょう。

会報作りの仲間も、その気持ちで参加しています。苦労はありますが仲良く、労を分け合いながら楽しくやっています。

会報委員会で恒例になった旅行会もこの秋で4回目を迎えます。山梨在住の会報委員のお世話になり全員が宿泊し、お酒を飲みゴルフをして温泉につかりながら楽しいひとときを過ごしています。これも南の会という縁で結ばれた仲間、会報を担当したからこそ出来る楽しみです。今後も楽しみながら苦労を分かち合って行こうと思います。こんな楽しい委員会に参加してみませんか。（文責 No.60 渡辺 義郎）



会報委員会の親睦旅行でほうとう鍋を楽しむ

支 部 便 り

K L 支 部

K L 支部長 No.860 棚村 信了

K L 支部長の委嘱を受けて

私は、元理事の米田隆雄氏 (No.59) の推薦と本年 6 月の理事会の承認を得まして、このところ空席だった K L 支部長に委嘱されました No.860 棚村です。2005 年 7 月より、K L (クアラルンプール) にロングステイをはじめて 4 年目に入りました。

K L には、チェンマイ、ペナンとちがって「南国の会」の会員は数名ですが、近い将来には、増えるであろうと期待しております。

K L は、ペナン、キャメロンハイランド、コタキナバルなどへの通過地として使用されておられるケースが多く、K L 訪問通知 (渡航情報) もそれほど、多くはありません。

しかし本年上半期では、すでに短期滞在された方、下見旅行の方、通過の方など、私がお一緒させていただいた方は、50 名ほどになっております。

K L は、セカンドホームの受け入れ態勢も日本人会を中心に整ってきており、一度は、K L を見学されることをおすすめいたします。

K L 支部としましては、会員皆様の現地支援基地、現地情報発信基地として、努めたいと考えております。新米ですが、皆様のご協力・ご支援のほどよろしく願いいたします。

この会報をおかりして、新任の挨拶をさせていただきました。

バギオ支部

バギオ支部長 No.227 斉木 一

バギオには、現在 2 名の会員が LS をされています。1 名は今年の 5 月から約 1 年の予定で英語研修を目的に滞在されている女性会員です。もう 1 名はフィリピンでの定住目的で、日本を引き払い第 2 の人生をバギオでと着々と準備をしています。

バギオ支部と言っても、支部在籍の会員は私一人で、その私もバギオから 75 km 離れた山麓の町に住み、会員が来られると車で約 2 時間、高度差 1500 m のバギオに通勤しています。

最盛期には 1 ヶ月にバギオに 10 回以上、延べ日数で 20 日間以上居た事もあります。

最近、車のガソリン代の高騰もあって、極力出勤回数を抑える様にしています。バギオには会員ではありませんが、会友として協力して頂いている山田さんご夫妻が居られます。

私がゴルフをしないので、特にゴルフを会員が希望される場合は必ず山田さんに御願ひする事になります。

チェンマイや、ペナン支部と違って、会員の滞在者が少ないので、現地でのサロン会やゴルフコンペをする機会も殆どありません。通常の活動はバギオ来訪を希望される会員への情報提供が中心です。

来訪者が少ないので、情報の提供はかなり密度高く対応出来ます。メールでの連絡が主体ですが、最初に連絡頂いてから、実際にバギオに来られる迄に 10 回前後のメールのやりとりが平均です。

数年前までは、場合によってはマニラ空港まで送迎する事もありましたが、自分の時間が最近忙しくなって来たのと、バギオまでのバス便が初めての人でも使いやすくなったので、今は送迎する事はありません。

7 月に 40 日間の予定でバギオに 6 才のお子様と二人で来られた女性会員も、初めてのバギオでしたが、メールでの説明だけで問題ありませんでした。今まで難関だったバギオでの宿泊先についても、提携会社のマニラのフレンドシップ社と、バギオの佐藤国際社の協力で、私の出番は極端に少なくなっています。

両社は日本語対応が出来、日本に銀行口座も

あるので、支払いも容易です。長期滞在の場合
は現地の佐藤国際社が情報も豊富です。

例年雨季の間は、ホテルの閑散期で、ホテル
の宿泊に困ることも無く、割引くホテルが大半
でしたが、今年の雨季は、今迄とは少し様子が
違いました。毎週末はどのホテルも宿泊客が多
く、ホテル探しに苦労する事もありました。

何時もなら、10月一杯か、早くても10月
の中旬までは実施しているホテルの雨季割引も、
今年は9月末で終了するホテルが殆どです。

11月は月初に大型連休「万聖節(日本のお盆)」
があり、後半から12月初旬まではギネスブッ
クに載る大コンペ「フィーラム」があり、その
後クリスマス、正月休暇と続くので、暫くはホ
テルの予約は要注意です。

この時期にバギオ滞在を予定される方は早め
のアクションが必要でしょう。特に来年9月1
日の開市百年祭に向けて市当局が積極的に観光
客の誘致に動き出しているの、これからの乾
季は昨年までとは少し様子が違うでしょう。

バギオ最大の呼び物、フラワーフェスティバル
は例年通り来年の2月に予定されています。
人気のパレードには、提携団体「北ルソン日本
人会」が招致するマニラのよさこい連の出場が
検討されています。

50万人は見物客が集まるといわれるパレ
ードに参加出来るチャンスもありそうです。この
期間、日本人会はバギオの中心、セッションロ
ードで「日本茶店」の出店を予定していて南の会
への協力の要請が既に来ています。

日本人会としては、バギオ開市百年祭の期間
中に、3月の「ひな祭り」、5月の「子供の日
と鯉のぼり」、7月の「七夕」、「日比友好月
間」、9月1日の「百年祭パレード」、9月3
日の山下將軍降伏記念日(日比友好の日と改名を
申し入れ中)にいろいろな企画を検討していま
す。

既に1年間の「百年祭」に入っているバギオ
での滞在は、今迄以上にエキサイティングで興
味の尽きない期間になるでしょう。

その町づくりの最初から大きな貢献をし、喜
びも悲しみも町と共にした百年前の日本人や、
その流れを汲む日系人の歴史が深く刻み込ま
れた町バギオで、丁度開市百年目の節目の年を過
す事は、日本人だけに判る特別な意味合いがあ
ります。

開市百年目のバギオについては、これからも
メールで報告を続けます。どうぞ楽しみにして
下さい。

東海支部

東海支部8年7月定例会/サロン会議事録

書記 清水重一

日時： 7月12日(土) 13:00～19:00

定例会： ウイルあいち 第7会議室 (20名)

サロン会： 餃子王 (16名)

議事：

1. 久しぶりの出席者、早川成章様ご夫妻、瀧
崎清明様、村澤修様ご夫妻の紹介と挨拶
2. 高橋支部長の挨拶と、総会、支部長会議の
報告。関西支部の際立った活動報告があり私
達も負けないう頑張りましょう。

3. 海外のトラブル/事故について

岩田彬様から、パックスツアーで海外旅行中に
経験した、スリにあったことの報告があった。
奥様が、夫から預かった現金入りの封筒を、
ハンドバッグに入れて、団体行動中、知らぬ
間にバッグの中の現金入り封筒だけ無くなっ
ていた。

また、ワインを紙袋に入れて持ち、わざとぶ
つかって、割れたワインを高価なものだと因
縁をつけてくる犯人の話は、前に聞いたこと
があるが、実際に体験したのは、初めてだっ
た。

岩月玲子様のは、ニューヨークのホテルロ
ビーで置き引きにあったこと。椅子に座って
いると、一人の男が近づいてきて、貴女は、
お金を落とさなかったか？と聞き、「こちら
に来るように」と袖を引っ張り急がせる。席
を立ち、見に行くと、小銭が散らばっている。

「わたくしのじかない」といい、席に戻ると、脇に置いてあったハンドバッグが無くなっていた。

4. ウイルあいちと女性団体

かねて申請中であった、南の会が、女性団体として承認になった。利用料金が割安になるほか他の利用者に先駆けて、利用申し込みができるなど、メリットが多くなる。

5. お出掛け情報

横井保夫様から、チェンマイ下見旅行の報告。
村田千岳様から、チェンマイ 11 日間の報告。
向井弘安様からは、バギオ報告。

6. 下見ツアーの、ハワイと台湾について

催事担当の岩田彬様から、ツアーの予定報告

7. サロン会

定例会は、16:30 定刻どおり終了し、ついでサロン会を近くの餃子王で開催した。

東海支部 8 年 8 月定例会/サロン会議事録

日時： 8 月 9 日（土）13:00 ～ 16:30

場所： ウイルあいち（13 名）

サロン会： 餃子王（6 名）

議事：

1. 最初に、新会員の 1325 岩田俊晴様の紹介と挨拶。続いて、11 か月ぶりの 533 須崎定二様の挨拶で始まりました。
2. 高橋昭支部長は、体調不良のため、しばらく静養したい旨のメールがある。
3. 1079 川地賢治夫妻のチェンマイステイの報告。
4. ハワイ下見ツアーについての計画
現地集合の下見ツアーは、現在 6 名が申込み中。引き続き会員を募集中。
5. 台湾下見ツアー計画
現在、申込者は、5 夫婦と 2 名、検討中 5 名。
締め切りは、10 月 3 日。
6. 海外のトラブルの発表
 - a. タクシー内の荷物置き忘れ
 - b. お土産のすり替え
 - c. 置き引き
 - d. 観光地の写真の詐欺(送って来ない)

- e. ピンク雑誌は、税関で罰金
 - f. タクシー料金（パーツと米ドル）のトラブル
7. GMS 携帯電話の買い方、利用について
1079 川地賢治様より、説明がある。

東海支部 8 年 9 月定例会/サロン会議事録

書記 土井研一

日時： 9 月 14 日（日）

定例会： 13:00 ～ 16:30

ウイルあいち 会議室 6

サロン会： 17:00 ～ 19:00

餃子王 出席者： 26 名

村田千岳副支部長の司会で、甲信越支部から初参加者された、1270 岡野春男、美子ご夫妻とオブザーバーの紹介、及び高橋昭支部長の挨拶。高橋支部長から、午前中に開催された役員会の報告がありました。

1. 支部主催により、来年 5 月に予定されるイベントは、会場を「ウイルあいち」とし、取りまとめ役を横井前支部長にお願いし受託された。会員には、いずれ、横井様から指示が行くので、協力すること。
2. イベントは、800 人収容できる大ホールを借り、本部の協力を得て、大使館、新聞社、TV 局等の協賛を依頼し、大々的に、南国暮らしの会ロングステイセミナーを開催する。
3. 来年度の役員候補者を人選し、来年の支部総会で決定する予定。

催事担当者からの連絡事項

1. ハワイ下見は、現在、岩田彬様ほか参加中
2. 台湾下見は、12 月を予定している。現在、申込者 15 名。
3. マレーシア LS セミナーの紹介
日時： 9 月 22 日（月）12:45 ～ 16:00
場所： 中部大学文化市民会館。
4. ロングステイ、旅行の報告
(1) ヨーロッパ（小林明広様）
イギリス、フランス、スイスの個人旅行
22 日間、費用 56 万円。

(2) チェンマイ (岩田俊晴様)

チェンマイ支部の皆様にはゴルフなどに誘って頂き感謝。雨季のチェンマイも良かった。

(3) 北海道 (岩月邦広様、土井研一様)

岩月様3か月、土井様2ヶ月滞在。

(4) アメリカ東海岸 (井本 昇様)

メイン州のメル友宅に2ヶ月滞在。

4. お出掛け情報

(1) 海外お出掛け情報や、LS情報を小林明広様が募集中。

(2) 台湾 (東海支部LS下見)

2008.12.3 ~ 12.12 15 ~ 20名

(3) 台湾 (山本信様、浅野光利様)

2009.1.11 ~ 1.21 同行者募集

(4) チェンマイ (横井保夫様)

2008.11.29 ~ 12.13

(5) チェンマイ (小林明広様)

2009.1 ~ 2

(6) フィリピン (永井禮造様)

2010.(3ヶ月)

(7) オーストラリア (小林明広様)

2008.11 又は 2009.3 同行者募集

(8) ニュージーランド (小林明広様)

2008.11 又は 2009.3 同行者募集

定例会の後、会場を中国料理店 「餃子王」に移し、サロン会で懇親を深めた。

関 東 支 部

関東支部長 No.732 馬場 章介

今期より新しく世話役になっていただきました新役員の皆さんの積極的な活動で毎月盛況にサロン会を開催しております。最近特に会員番号の新しい方々の参加が目だって増えてきております。そして70名ほどの大人数で居酒屋で懇親会を開いたり、9月は「日本マレーシア協会」の方々をゲストスピーカーに迎えたり、大学生が研究を目的に参加したりバラエティに富んだプログラムに挑戦しています。

「楽しく、仲良く、情報交換」をスローガンに掲げ新体制での役員の役割分担方式も定着してきております。因みに、今後のサロン会開催予定は11月9日、12月6日が決定しております。



ゲストの「日本マレーシア協会」の方々



プロジェクタを利用した講演風景

セ ブ 支 部

セブ副支部長 No.636 鶴岡 照郎

セブの近況

セブは今 建築ラッシュです。アヤラ パーク内だけでなくフエンテ オスメニア マンダウエの各地域で ホテル、コンドミニウム、オフィスビルが建ち上がっています。しかも15階から40階建てです。SMモールも拡張され倍の広さになり、アヤラモールも年末オープン目指して工事しています。来年は見違えるほどの変身をセブは我々に見せることでしょう。

生活状況もタクシー 一乗り10ペソ追加支払い、日本レストラン値上げ、スーパーでの買い物も値上げ、コンドミニウムの家賃も値上げ、ホテルも値上げ、フライトのサーチャージも値上げ、ゴルフ、ダイビング プレイフィー、ビザ延長手数料も値上がり値上がりで年金生活者の我々には厳しくなっています。でも新しく

コンドミニアムを借りてセブでロングステイをお始めになった会員のAさんも加えて、現在10会員が滞在しています。セブに来られる会員の方は2-4週間 英語学校に短期留学し その間にダイビングのライセンスも取る方も年3-4人見えます。セブでの英会話学校短期留学はセブでの申し込みはできず、すべて日本で済ませないと留学できないところが多いです。

セブでの生活で日本に比べて良いところは日本での生活費をそのままセブで使うと日本より何倍もの快適な生活ができる事です。老い先短い我々南の会会員は安く済みますのと、快適に過ごすのと、どちらを選択するかは、自己責任個人で決めることなので一概にいえませんが、安く快適に過ごしている会員の方もおります。

会員のBさんとCさんは一等地に建つコンドミニアムを購入しました。今建築中です。将来セブがますます快適になると期待しています。Dさんは ジャグジー、JIM、プールの併設してあるコンドミニアムを借りて生活していません。

セブ訪問でお願いしたいことは短期、中期滞在中に関わらず、必ず旅行者傷害疾病保険に入るかまたは、傷害疾病保険の付いているクレジットカードに加入して頂きたいのです。クレジットカードの場合、そのカードを旅行のために日本で使用支払いしないと、保険が受けられないカードがあります。その辺も自己責任でご確認ください。

実際今年の春、腹痛で入院し腎臓結石がわかり、急遽日本へ帰り快復後、保険請求をし、全額保証を受けたほか、病気が原因でロングステイ中断を余儀なくされた事の補償で再度セブ日本のチケット代を受け取り残りのロングステイを済ませた人、又 朝のスタバのミーティングで他の会員から、顔の表情の変化を指摘され、病院に行き、脳梗塞、神経、血液、検査、投薬をしてもらい、みるみるうちに表情も改善され日本へ帰り大学病院で再度診察を受けたところ、脳梗塞等の症状はないとの結果をもらいひと安心した会員の、治療、検査、費用もすべて傷害

疾病保険の付帯したカード会社の保証を受けられました。我々はもう 老人なのです、海外旅行先で 何時病気になってもおかしくない年齢です。食べ物、飲み物で下痢、冷房の効きすぎで 風邪、歩道階段で転んで骨折 等 言葉の通じない海外で病気になりますと、金額が大変です。そのため 転ばぬ先の杖 の意味で保険が大切です。セブの チヨン ファ ホスピタルにも、日本語の話せる看護師が男女各1名勤務するようになりました。少しずつですが 我々も安心が出来るようになってきました。でもこの病院は 治療費が高いので有名です。保険会社泣かせです、と 保険会社の人が言っていました。

関西支部

関西支部長 No.754 松本 都志重

○支部総会（例会）の開催

7月12日に支部の総会を開催しました。提出議案は、①支部会計の決算・予算案 ②支部の活動報告・同活動計画 ③2008年度の新役員体制の3案でしたが、それぞれ満場一致で原案どおり承認・議決されました。

総会に引き続き、例会・懇親会を開催しました。午後1時から始まり、懇親会が終了したのは午後8時を過ぎていました。長時間の総会・例会でしたが、参加者は熱心に討議に参加し、懇親会では岡山以来の2か月ぶりの再会で、懇親の輪があちこちに広がり各席とも結構盛り上がっていました。なお参加者は38名でした。

○ゴルフ会の実施

8月29日 三田カントリー 27で恒例の関西支部ゴルフ会を実施しました。参加者は、有元副支部長以下10名でした。

○ハイキング会の実施

5月の奈良県天川村、御手洗溪谷のハイキングに引き続き、今回も谷澤さんの企画により、9月20日（土）に格安チケット「六甲・有馬1dayチケット」を利用して実施いたしました。

た。南の国フィリピン沖で発生した台風13号の接近により、1日順延したため彼岸などの影響で参加者は少なくなりましたが、阪急六甲駅に集合し、バス・ケーブルカー・山上循環バスを乗り継ぎ、高山植物園を鑑賞してからハイキングを開始、六甲山頂（931m）に至りそこで弁当、ロープウェイ山頂駅まで戻り、見下ろし景観雄大な有馬行ロープウェイで有馬に降り裏六甲の全国有数の有馬温泉の「金の湯」に入浴し、男・女を磨き挙げ、神鉄、北神急行で一路神戸一の繁華街三宮JR高架下居酒屋にて打ち上げをしました。

○平日サロン会の実施

9月30日（火）恒例の例会の趣向を変えて、平日サロン会（昼食会）を実施しました。

場所は大阪梅田のハービスプラザエントという新しいショッピングビルにある海鮮中華の店です。平日で参加者は少ないのではと危惧していましたが、予想に反して32名の参加があり



コメント中の谷澤誠一さん

ました。昼食中心の懇親会で女性の参加者が多いと考えていましたが、男性17名、女性15名とほぼ同数でした。食事のあと、77歳で豊饒（かくしゃく）として活動している「谷澤誠一（副支部長）さんに聞く」コーナーもあり大変好評でした。

今後もこのような「平日サロン会」を計画していきたいと考えております。

部 会 伝 言 板

総務部会

担当理事 No.462 小林 孝
No.259 菊地 功

A) 会報夏季号以降の総務部門の主な活動

- 08/07/04 法務局品川出張所登記手続
- 08/07/07 控訴状提出（弁護士）
- 08/07/26 平成20年度第2回理事会開催
- 08/07/31 会報同封資料印刷
- 08/08/05 裁判打合せ（弁護士事務所）
- 08/08/18 裁判打合せ（弁護士事務所）
- 08/08/22 「控訴理由書」提出（弁護士）
- 08/08/31 第3回理事会用裁判資料印刷
- 08/09/02 法務局品川出張所再登記手続
- 08/09/27 平成20年度第3回理事会開催

B) 細則改定報告

平成20年度第2回理事会にて以下の細則改定が承認されましたので細則第13条に基づきお

知らせします。

***細則第12条⑫：** 「但し、1名3千円を限度とする」を削除。

***細則第12条⑬：** 会報梱包発送業務従事者に対し、交通費補助は実費精算とする。

***細則【付則】：** 11.前項削除。

広報部会

部会長 No.1089 浅山 簇治

南国暮らしの会には、毎年約90名の方々が入会されてますが、その内約95%の方が、書物等のマスコミやインターネットから当会HPのアドレスを知り、資料請求や入会手続きをされておられます。

したがって、広報部会の活動は、これらマスコミや関係外部の機関へのアピールや取材協力と魅力あるHPへの充実へ重点を置き活動しております。

今年も既にイカロス出版社の「羅針」、リタイアメントジャーナル、大学の卒研究生、等への取材協力を進めており、今後も各支部、各会員の方へも取材協力を積極的にご協力お願いします。

又、最近の当会のHPへのアクセス数は、平均3,000件/月を突破しており、リタイア層の増大とロングステイへの憧れの高さを反映していると思われます。

しかし、この高いアクセス数、大人口地域の支部会員数と新入会員の数から判断しますと、十分な効率を上げているとは思えません。

海外、国内各支部のご協力をいただきながら、「活発な活動をしている会、親睦が図れる会、入りたい会」のイメージを持ってもらうHPの充実に一層努力したい、と思います。

各支部長、関係する皆様に一層のご協力をお願いします。

1. マスコミよりの取材協力の推進

取材の申し入れが、会、支部、へあった場合、取材者、内容を調べ積極的に対応して行きたいので、該当支部、個人の方は積極的にご協力お願いしたい。その場合、プライベートの保護には特に留意されたい。

(担当；広報委員会)

2. HPの充実

海外/国内各支部長にお願いしていますが、全支部のHP(紹介)を整備したい。

各支部からは完成HPをもらえればベストであるが、(WORD + 写真)をもらえれば、当委員会でHPに完成させる。又、更新、最新のニュース(予定)も積極的に連絡願いたい。皆さんも当会のHPを見ていただくことと、ご友人等にHPをご紹介下さい。

(担当；HP委員会)

新規友好団体の紹介

広報委員会

9月27日開催の理事会において、下記「NPO法人「リタイアメント情報センター」が新たな友好団体として承認されました。

同センターのジャーナル等を通じての当会の

PR、同会を通じての他友好団体との情報交換や共同活動、同会のサービスの利用、等が期待でき、会にとってプラスと判断されたものです。

現在、特にお互いの義務、具体的活動、等は決まっておりますが、お互いの行事の紹介は行ってゆくこととなります。

尚、同会のHPをご覧いただくと種々サービスも行っており、ご利用・入会は各人の責任と判断で直接なさして下さい。

記

1. 名称 ; NPO法人 リタイアメント情報センター
2. URL ; <http://retire-info.org>
3. 設立 ; 2007
4. TEL ; 03-3434-1126
5. 会員数 ; 法人10社、個人約100名
6. 活動 ;

①生きがいのあるリタイアメント ライフのサポート。

- ・海外トラブル相談(弁護士、等が理事)
- ・アジア地区でのケアの検討
- ・自費出版
- ・セミナー、講演会の開催

②ジャーナルの発行・・・公称5,000部

友好団体紹介コーナー

☆財団法人ロングステイ財団

<http://www.longstay.or.jp/>

☆チェンマイロングステイライフの会
(CLLクラブ)

<http://c11.thaijp.net/>

☆ワールドステイクラブ(WSC)

<http://homepage3.nifty.com/worldstayclub/>

☆THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPUR KL
(クアラルンプール) 日本人会

<http://www.jckl.org.my/>

☆北ルソン日本人会(LANL)

<http://janl.exblog.jp/>

☆バンコク日本人会 ☆西豪州日本クラブ

支部推進部会

担当理事 No.670 今野 力男

お知らせ&お願い

現在海外3支部の支部長が空席で皆様方にはご不便をお掛けしております。今後とも空席解消に努めて参ります。

南国暮らしの会・海外支部所在地をご訪問の際には該当支部へご一報を頂きますようお願い申し上げます。

各支部の支部長又は代行者名簿

(20年10月1日現在)

支部名	会員番号	氏名	担当職名
北海道支部	625	工藤 俊一	支部長
東北支部	218	和田 隆	支部長
甲信越支部	465	橋本 慧	支部長
関東支部	732	馬場 章介	支部長
東海支部	94	高橋 昭	支部長
関西支部	754	松本 都志重	支部長
九州支部	851	稲田 聰	支部長
マニラ支部	1269	岩崎 宏	支部長代行
バギオ支部	227	齋木 一	支部長
セブ支部	636	鶴岡 照郎	副支部長
ダバオ支部		(空席)	
ペナン支部	524	川崎 勇	支部長
KL支部	860	棚村 信了	支部長
バンコク支部		(空席)	
チェンマイ支部	54	山口 洋二	支部長
ハワイ支部	699	大黒 均	支部長
パース支部		(空席)	

会報部会

部会長 No.732 馬場 章介

秋季号にもペナン支部を中心に会員の皆様のご協力によりたくさんの投稿を頂きまして御礼申し上げます。お陰でスケジュールどおり発行することができました。

会報部編集委員会では新しい委員の募集をしております。この委員会は真剣に会報の編集について議論をした後はいつも楽しく飲み会になります。そして、年1、2回は皆で楽しく親睦国内旅行やゴルフをしています。楽しみながら会報作りに参加してみませんか。入会希望の方は馬場のメールまで (shosuke7@nifuty.com)ご連絡下さい。

次回新年号の編集担当は、No.470 細田 良子さんです。原稿の締め切りは、若干早めて12月20日です。多数の投稿を期待しています。

新年号原稿のメール宛先

r-hosoda@jb3.so-net.ne.jp

前回夏季号会報発送作業協力者(敬称略)

434 大野 悦子、660 平方 穰、712 高田 勝弘、923 永田 隼人、会報委員会員8名

編集後記

秋季号の発行に際しては多数の投稿を頂きましてありがとうございました。

秋季号はペナン特集でしたが、川崎支部長のお手配で10名の投稿者を決めていただいた上に締め切りの2週間前に全員の原稿を受領しました。その後の編集が余裕をもって対応できました。ペナン特集ではLSに関する報文が多く大いに会員の参考になることと思います。

一般投稿でも貴重な体験、事例を投稿していただきました。

秋季号よりシリーズで掲載予定の各部会の仕事紹介は今回は会報部会ですが、これを一読いただき今後も会報への投稿よろしくお願ひしたいと思います。

次回の新年号は細田会報部会員の担当で特集は関東支部を予定しております。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。ありがとうございました。(No.900 島林 健二)

写真ご提供有り難うございます

表紙: 本号のテーマは「ペナン」です。写真は全てNo.786 深井 弘雄さんのご提供です。左上から時計回りに「タウン風景」、「果物の王様ドリアン」、「ビーチリゾート」、「極楽寺ライトアップ」、中央は「チャイニーズイヤーのドラゴンおどり」(写真の著作権は本人にあります。他への流用はお断りします)

裏表紙:

1. ペナン支部サロン会 (2008年7月)
2. クアラルンプール支部での来訪者食事会 (2008年2月)

「南国暮らしの会」からのお勧め

*** 自己責任 * 納得の上 * 自己決定**

南国で不動産等の買い物をするときは、すぐ買わず、情報を幅広く集めて、自分の目で確かめて、しばらく試してみて納得してから、自分の責任において自己決定する。

南国暮らしの会ホームページに最新の情報が 있습니다。ご覧になって下さい。

<http://www.minaminokai.com/>

会員相互の情報交換には、南国ML（メーリングリスト）が便利です。

会員の方で新しく参加希望の方は下記へ参加申込を。

メールアドレス：mail.iinkai@gmail.com

(メールには会員番号、氏名、ご自分のメールアドレスおよびウイルス防止のためご利用のウイルス防止ソフト名あるいはプロバイダのウイルスチェック契約の有無を明記して下さい)

【編集委員】 一順不同一

No. 732	馬場 章介	No. 900	島林 健二
No. 60	渡辺 義郎	No. 240	菊地 範夫
No. 281	村松 幸子	No. 465	橋本 慧
No. 470	細田 良子	No.1125	佐々木 一信
No.1256	大塚 眞一		

記事の無断転載・複製を禁じます。

発行者 特定非営利活動法人（NPO法人）

「南国暮らしの会」

©minaminokai

理事長 高田 勝弘

〒140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208

<http://www.minaminokai.com/>

E-mail: info@minaminokai.com



投稿写真コーナー



ペナン支部サロン会 (2008年7月)



クアラルンプール支部 (2008年2月)